

2024年度

履修の手引き

ソフトウェア情報学部
ソフトウェア情報学研究科



岩手県立大学

Iwate Prefectural University

目 次

★学 年 暦

★用語集

★履修

1 はじめに.....	1
2 大学における学修について.....	2
3 授業.....	4
4 履修登録.....	6
5 試験.....	9
6 学修、授業を受ける際の注意事項.....	11
7 成績評価.....	12
8 卒業・修了及び学位.....	14
9 他学部（学科）履修（学部）.....	15
10 いわて高等教育コンソーシアム単位互換制度.....	16
11 短期大学部開講科目の受講.....	18
12 語学科目における単位認定.....	20
13 学部等開講授業科目の聴講.....	21
14 長期履修学生制度.....	22

★ 基盤教育科目

1 基盤教育の理念.....	27
2 基盤教育の構造.....	27
3 副専攻の履修.....	32
4 文理融合データサイエンス教育.....	36
5 キャリア教育.....	37

★ソフトウェア情報学部

I ソフトウェア情報学部の概要

1 ディプロマ・ポリシー（DP） カリキュラム・ポリシー（CP）.....	43
2 教育課程の内容.....	46
3 教育課程の特色.....	46
4 カリキュラム体系図.....	47
5 先修条件.....	48
6 先行履修制度.....	48
7 履修登録の上限.....	48
8 履修登録上限の緩和.....	48
9 進級要件.....	49
10 卒業要件.....	49
11 早期履修制度.....	50
12 困ったとき.....	50
13 履修モデル.....	51

II 授業科目

1 専門科目.....	60
-------------	----

III 教育職員養成課程

1 教職教育センター.....	65
2 ソフトウェア情報学部の教職課程.....	67
3 教育実習.....	70
4 介護等体験.....	71
5 免許取得までの実習等のスケジュール.....	72
6 教職課程科目一覧.....	73
7 教職履修モデル.....	76

IV 履修登録下書き表.....

★ソフトウェア情報学研究科

I ソフトウェア情報学研究科

博士前期課程の概要

1 概要.....	93
2 履修モデル.....	93
3 教育研究目標.....	93
4 ディプロマ・ポリシー（DP） カリキュラム・ポリシー（CP）.....	94
5 教育課程の内容・特色.....	95
6 履修指導及び研究指導の方法.....	97
7 修了要件.....	98
8 カリキュラム・マップ.....	99

II ソフトウェア情報学研究科

博士後期課程の概要

1 概要.....	103
2 教育研究目標.....	103
3 ディプロマ・ポリシー（DP） カリキュラム・ポリシー（CP）.....	104
4 教育課程の内容・特色.....	105
5 研究指導の方法.....	106
6 修了要件.....	106
7 カリキュラム・マップ.....	107

III 教育研究領域

1 授業科目一覧表.....	110
2 研究室及び教育研究領域.....	112
3 履修モデル.....	114

IV 高等学校教諭専修免許状(情報)取得課程

1 高等学校教諭専修免許状(情報)取得課程.....	121
----------------------------	-----

V 学位論文

1 修士論文.....	125
2 博士論文.....	126
3 審査日程及び提出書類等.....	127
4 学位論文の基本構成.....	129

令和6(2024)年度 学年暦

	日	月	火	水	木	金	土	日	学	事
4月	1	2	3	4	5	6	7	8	2日~5日	健康診断
	7	8	9	10	11	12	13	14	3日	英語プレイズメント・テスト
	14	15	16	17	18	19	20	21	4日	入学式
	21	22	23	24	25	26	27	28	4日~10日	オリエンテーション・在学生ガイダンス
	28	29	30						8日~17日	前期履修登録期間 【履修制限科目の登録：8日~10日 9時】
									11日	前期授業開始
									19日~22日	前期履修登録確認期間（23日履修登録確定）
		2	3	2	3	3				
5月	5	6	7	8	9	10	11	12	7日	月曜日授業（火曜日授業休講）
	12	13	14	15	16	17	18	19	15日~21日	前期履修取消期間
	19	20	21	22	23	24	25	26		
	26	27	28	29	30	31				
		4	3	5	5	4				
6月	2	3	4	5	6	7	8	9		
	9	10	11	12	13	14	15	16	19日	休業日（開学記念日）
	16	17	18	19	20	21	22	23		
	23	24	25	26	27	28	29	30		
	30									
		4	4	3	4	4				
7月	7	8	9	10	11	12	13	14	5日	七夕祭
	14	15	16	17	18	19	20	21	7日	オープンキャンパス
	21	22	23	24	25	26	27	28	18日	月曜日授業（木曜日授業休講）
	28	29	30	31						
		5	5	5	3	4				
8月	4	5	6	7	8	9	10	11	1日~7日	前期授業等調整期間
	11	12	13	14	15	16	17	18	8日	授業予備日
	18	19	20	21	22	23	24	25	9日~9月17日	夏季休業期間
	25	26	27	28	29	30	31		13日~16日	全学一斉休業日（窓口閉鎖）
									19日~23日	前期集中講義期間
									26日~9月17日	学生センター窓口事務取扱時間短縮（～17時）
									31日	電気設備定期点検による停電
		15	15	15	15	15				
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	13日	前期成績通知
	8	9	10	11	12	13	14	15	18日	秋季学位記授与式
	15	16	17	18	19	20	21	22	18日~26日	後期履修登録期間【履修制限科目の登録：18日~20日 9時】
	22	23	24	25	26	27	28	29	20日	秋季入学式
	29	30							24日	後期授業開始
									9月30日~10月1日	履修登録確認期間（2日履修登録確定）
		1	1	1	1	1				

注1 〔学期末試験〕は、各授業曜日末（15回）を目安としますが担当教員の指示に従ってください。

2 〔授業等調整期間〕とは、補講、補習及び試験に利用できる期間を言います。

3 〔集中講義〕は、原則として上記日程で行いますが、講師の都合により変更となる場合があります。

4 上記日程は変更になる場合もありますので、掲示等に注意してください。

5 : 授業日 : 学内立入制限日 : 授業等調整期間 : 集中講義期間 : 全学一斉休業日

	日	月	火	水	木	金	土	週	学	事
10月	6	7	8	9	10	11	12	【調整中】 15日 23日~29日	防災訓練 月曜日授業（火曜日授業休講） 履修登録取消期間	
	13	14	15	16	17	18	19			
	20	21	22	23	24	25	26			
	27	28	29	30	31					
		4	4	5	5	3				
11月	3	4	5	6	7	8	9	1日 2日~3日 5日	休講 大学祭 月曜日授業（火曜日授業休講）	
	10	11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			
		4	3	4	4	5				
12月	1	2	3	4	5	6	7	13日 12月25日~1月6日	夢灯り 冬季休業期間【学生センター窓口事務取扱時間短縮（~17時）】	
	8	9	10	11	12	13	14			
	15	16	17	18	19	20	21			
	22	23	24	25	26	27	28			
	29	30	31							
		4	4	3	3	3				
1月	5	6	7	8	9	10	11	8日 16日	月曜日授業（水曜日授業休講） 金曜日授業（木曜日授業休講）	
	12	13	14	15	16	17	18			
	19	20	21	22	23	24	25			
	26	27	28	29	30	31		27日~31日	後期授業等調整期間	
		2	3	2	2	3				
2月	2	3	4	5	6	7	8	3日 4日~7日 4日~3月31日 10日~3月31日	授業予備日 後期集中講義期間 春季休業期間 学生センター窓口事務取扱時間短縮（~17時）	
	9	10	11	12	13	14	15			
	16	17	18	19	20	21	22			
	23	24	25	26	27	28				
		15	15	15	15	15				
3月	2	3	4	5	6	7	8	18日 21日	学位記授与式（4大、大学院、短大） 後期成績通知	
	9	10	11	12	13	14	15			
	16	17	18	19	20	21	22			
	23	24	25	26	27	28	29			
	30	31								

用語集

オムニバス方式 (Omnibus)	ある一つのテーマに対し、複数の教員がそれぞれ独立した講義等を行い、一つの授業科目として成立させる授業方式。	
学期	学校において教授、学習、校務等の整理の便宜のために学年をいくつかに分けた期間。学則により定めており、本学の場合には前期と後期の2期制としている。なお、1年を数回の学期に区分し、学期ごとに授業を完結し成績評価を行う制度を「セメスター制」という。	
CAP制度 (Credit Cap System)	履修科目の登録に際し、学期ごとに履修することができる単位数に上限を定める制度。学習すべき授業科目を精選することにより十分な学習時間を確保し、授業内容の十分な理解を進めることを目的とする。本学では、四大においてこの制度を導入している。	
カリキュラム・ポリシー (CP) (Curriculum Policy)	教育課程の編成方針。各課程教育において、ディプロマ・ポリシーで定めた達成目標の実質化・体系化を図るための方策・手段。	
コンソーシアム (Consortium)	複数の個人、企業、団体、政府(又はこれらの任意の組合せ)により組織される団体。高等教育機関においては、近隣地域に立地する複数の大学等により高等教育及び学術研究の振興、地域社会への寄与等を目的として組織されることが多い。 岩手県では平成20年に「いわて高等教育コンソーシアム」が設置され、共同シンポジウム、構成大学間の単位互換、図書館の相互利用等の事業を実施している。加盟校は岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学、岩手医科大学、岩手県立大学盛岡短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、盛岡大学短期大学部、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、岩手保健医療大学の11校となっている。	
在学年限	在学することができる年限。本学においては、学部(又はこれら)の学生は休学期間を除き8年(岩手県立大学学則第8条)。盛岡短期大学部の学生は4年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第8条)。研究科博士前期課程の学生は4年、博士後期課程の学生は6年(岩手県立大学大学院学則第6条)。	
試験	期末試験	学期末までに期間を定めて行うが、授業科目によっては、随時行われる試験。 試験の方法(筆記、口述発表、論文・レポート提出、実技又は作品制作等のいずれか、若しくはこれらの併用による)は、当該授業科目の各担当教員が決定し、実施している。
	追試験	所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第8条)。
	再試験	試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、再試験を受けることができる(岩手県立大学履修規程第9条)。
	不正行為	試験(期末試験、追試験、再試験)において不正行為をした者は、学則の規定による懲戒処分のほか、履修規程の規定による成績「不可」の措置がある。
再履修	単位を修得することができなかった(「不可」の評価を受けた)科目を、次学期以降に改めて履修すること。再履修により「可」以上の評価を受けた場合には、GPAの算定において前学期以前の「不可」の評価は除外される。	
GPA制度 (Grade Point Average)	学生ごとの成績を履修単位当たりの平均値により表す制度。成績が数値化されることにより、学生の学習意欲の向上、厳格な成績評価、適切な修学指導への効果等を目的としている。 本学においては、5段階の評価(秀、優、良、可、不可)にそれぞれ4～0のGP(グレードポイント)を与え、この点数の履修単位当たりの平均値を算出するものとしており、対象となる科目は学部により異なる。学期GPA、年度GPA、通算GPAの3種類が算定される(岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程)。	
自由聴講科目	自由選択により履修することができるが、卒業に必要な単位として算定されない科目。	
修業年限	卒業(修了)するために必要となる、学校に在学する年限。本学の場合、学部は4年(岩手県立大学学則第7条)、盛岡短期大学部は2年(岩手県立大学盛岡短期大学部学則第7条)、研究科博士前期課程は2年、博士後期課程は3年(岩手県立大学大学院学則第5条)。	
集中講義	通常の授業とは別に、主として他大学等の教員により特定の日に集中して行う授業。夏季・春季休業期間中に「集中講義期間」が設けられる。	
授業等調整期間	正規の授業期間内に休講となった科目の補講又は学期末の試験を集中的に実施する期間。この期間は特別な時間割が作成され、掲示により周知される。	

シラバス (Syllabus)	授業計画の詳細を示す資料。授業の全体概要、各回の授業内容、成績評価の基準及び方法、教科書・参考書籍等が示される。本学においては、事務管理公開システム又は大学ホームページから参照することができる。	
先修条件	ある授業科目を履修するにあたって、その前に履修しておく必要がある別の授業科目その他の必要な条件(岩手県立大学履修規程第11条)。	
選択科目	自由選択により履修することができるが、その中から卒業に必要となる所定の単位を修得しなければならない科目。	
卒業(修了)要件	卒業(修了)するための要件。大学の場合には、124単位以上を修得するものとされている(大学設置基準第32条)。短期大学の場合には、62単位以上修得するものとされている(短期大学設置基準18条)。大学院の場合には、博士前期課程は2年以上在学し、30単位以上修得、かつ、修士論文の審査及び試験に合格すること、博士後期課程は大学院に5年(修士課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、博士論文の審査及び試験に合格することとされている。(大学院設置基準第16条、第17条)。 修得が必要となる授業科目及び単位数の内訳については、学則別表に学部・研究科ごとに定められている。	
単位互換	短期大学、四年制大学や大学院が相互に他大学の学生の聴講を認め、学生が在学以外に他の大学の授業に出席し所定の試験に合格した場合には、その結果を在学における単位として認定する制度。	
単位制度	単位を基準として学習量を測る仕組み。1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされている。おおむね15時間～45時間までの範囲で大学が定める時間をもって1単位とする。(大学設置基準第21条第2項)	
長期履修学生制度	学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを認める制度(大学院設置基準第15条、大学設置基準第30条の2の準用)。本学では、大学院においてこの制度を導入している(岩手県立大学大学院学則第13条の3)。	
教育アシスタント	ティーチング・アシスタント(TA) (Teaching Assistant)	教育の補助業務を行う学生。大学院生を対象として、学部学生等に対する助言や実験・実習・演習等の授業補助業務を行わせることにより、大学院生への教育トレーニング機会の提供と、手当の支給による経済的支援を目的としている。
	スチューデント・アシスタント(SA) (Student Assistant)	学士課程の学生を授業の補助業務に携わらせる場合、TAとは区別してスチューデント・アシスタント(SA)という。
ディプロマ・ポリシー(DP) (Diploma Policy)	学位授与の方針。卒業(修了)までにどのような能力の習得を目指すのか、学生が達成すべき具体的な学習成果を設定したもの。	
ピア・サポート (Peer Support)	ピア(仲間)同士によりサポート(支援・支え合い)を行う仕組み。大学においては、生活面や学習面等において先輩や友人が相談相手となる等の制度をいう。	
必修科目	卒業要件として必ず修得しなければならない科目。	
プレイスメント・テスト (Placement Test)	習熟度別クラス分けのための試験。本学においては「英語基礎演習」・「英語実践演習」科目において受講者の習熟度水準に応じた授業を行うために実施している。	
履修制限科目	教育効果の観点、又は教室の収容定員の関係上、履修者の人数制限を設ける科目。本学においては、他の科目とは別に履修登録日(時間)を設け、システムによる抽選で履修者を決定する。	
履修登録	各学期の初め(年2回)に、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続。この手続を行わずに授業や試験を受けても単位を修得することはできない。	
履修取消制度	履修登録科目確定後、「授業の内容が自分の関心と異なっていた」「授業についていけない」等の事情が発生した場合に、履修放棄によるGPAの低下を防ぐための措置として、履修登録の取消しをすることができる制度。履修取消期間中に取消しのみ認められ、新たな科目の登録をすることはできない(岩手県立大学履修規程第4条の2)。	

履 修

1 はじめに

1. 履修の手引き

本書「履修の手引き」は、皆さんが本学で学業を進めていく上で必要な、履修に関する事項を学則や履修規程等に基づいて編集したものです。

卒業するまで常に手元に置いて機会あるごとに参照し、正しい認識のもと履修計画に役立ててください。

2. 掲示・連絡

大学では、学生への重要な通知や連絡及び、履修や授業に関わる情報は、**本部棟・共通講義棟間通路と、各学部棟入口にある電子掲示板や事務管理公開システム**により通知します。授業や試験等に関わる重要な情報ですので、必ず毎日確認してください。掲示や通知された事項は学生全体に周知されたものとみなされます。

また、学生個人宛にメールで連絡を行うこともあります。メールチェックも定期的に行うようにしてください。

掲示やメールによる連絡を見落としたことにより不利益を受けた場合でも、自己責任となりますので十分注意してください。

3. 相談窓口

履修や、成績に関することで分からないことがあるとき、呼び出しを受けたときは、本部棟1階の学生センターにお問い合わせください。

4. Web学生便覧

本書のほか、岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」には、履修関係の重要な情報を随時掲載しています。定期的を確認してください。

また、各種証明書の申請用紙をダウンロードできます。

岩手県立大学ホームページ内「Web 学生便覧」アドレス

<https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/index.html>

- ・学年暦
- ・時間割
- ・シラバス
- ・学則、履修規程などの規程集
- ・各種様式(証明書交付願、欠席届など)

(参考)履修に関する諸規程

- ・岩手県立大学学則
- ・岩手県立大学大学院学則
- ・岩手県立大学学位規程
- ・岩手県立大学履修規程
- ・岩手県立大学副専攻規程
- ・岩手県立大学大学院各研究科履修規程
- ・岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程

Web学生便覧
QRコード



2 大学における学修について

1. 履修とは

大学では、学位修得(卒業)に向けて必要な科目を選択し、授業を受けます。卒業までには多くの科目の授業を受ける必要がありますが、それらの科目を各自の目標に応じて習い修めていくことが「履修」です。

履修は、本学の学則や履修規程等に沿って行われます。その中で、どの授業を履修するのか、学期ごとの時間割はどうするのかなど、大学において何をどのように学んでいくのかを決めるのは学生自身ですので、一人一人がよく考えて履修を進める必要があります。

2. 履修計画

大学における科目履修は、自らの責任において履修計画を立て、卒業に必要な単位を自主的に修得していくことに特徴があります。

履修の方法を誤ると、進級や卒業、資格取得に影響を及ぼすことがあります。以下の資料を熟読し、しっかりとした履修計画を立ててください。

- 授業時間割表(Web 学生便覧)
- 授業科目一覧表(履修の手引き掲載)
- シラバス(事務管理公開システムから参照)

また、毎年4月に行われる各種ガイダンスは、履修関係の重要な情報を得る機会ですので必ず出席してください。

3. シラバス

シラバスとは、授業の内容や進め方などを記した授業計画書のことです。履修する科目の選択、授業の受講にあたり、大切な情報が記載されています。シラバスをよく読むことにより、その科目に関する具体的なイメージを持つことができるとともに、各自の履修計画における各科目の位置づけを把握することもできます。

シラバスは年度ごとに更新され、前期開講科目と後期開講科目のいずれも年度の開始時には公開されます。履修登録前には、当該学期に開講される科目のシラバスに必ず目を通し、履修する科目選択の参考にするとともに、その授業の学修目標をしっかりと理解した上で授業にのぞむことが重要です。

シラバスの記載内容

- 授業科目名(英語名)
- 担当教員
- 開講期間
- 配当年
- 正課学生以外の受講
- 教育課程
- 授業形態
- 資格対応
- 授業のねらい・概要
- キーワード
- 学修目標
- 授業の位置付け
- 授業の計画
- 教科書【学生が必ず準備するもの】
- 参考書等
- 授業の形式
- 成績評価の方法
- 授業前、授業後の学修
- 履修にあたっての留意点
- 実務経験を生かした授業内容

シラバス検索画面

QRコード



4. 単位制度

単位とは学修時間を表す名称で、個々の授業科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに与えられます。

単位数は授業科目ごとに定められ、卒業に必要な単位数(卒業要件単位数)は、学部ごとに定められています。

各授業科目の単位数は、**1単位の授業科目を教室内、教室外を合わせて45時間の学修を必要**とする内容で構成され、次の基準により算定されます。

講義、演習	15時間～30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。
実験、実習、実技	30時間～45時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。
卒業研究・制作等	必要な学修等を評価して所定の単位を与える。

自学自習について

単位を修得するためには、教室内の学修(授業)だけでなく、教室外の学修(自学自習)を合わせた十分な学修が必要です。担当教員の指示に従いながら、主体的に取り組みましょう。

【参考】例えば、2単位修得するためには…

1単位45時間の学修が必要ですから、2単位の講義科目で単位を修得するためには90時間の学修が必要ということになります。90時間の内訳は、授業15回で30時間(1回の授業時間90分は2時間として換算します)、残り60時間がその授業に対する自学自習に要する時間です。

	1授業あたりの学修時間	1学期当たりの授業	合計時間数
授業	2時間	15回	30時間
自学自習	4時間	15週	60時間
計			90時間

1回の授業につき、**4時間の自学自習が必要!**

3 授業

1. 授業時間(滝沢キャンパス)

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

2. 授業の実施場所

授業は共通講義棟や各学部棟などで行われます。

それぞれの授業の実施場所は、授業時間割で確認してください。教室の場所が分からないときは、「**学生便覧**」のキャンパスガイドで調べることができます。

3. 教室変更

授業の担当教員の判断により教室を変更することがあります。

4. 休講

大学の行事又は授業担当教員の公務、出張、病気等の理由により授業ができなくなった場合は、休講になります。

教員の事前指示や休講・教室変更の掲示がなく、授業開始時刻から30分経過しても教員が教室にこない場合には、学生センターに確認し、指示を受けてください。

5. 補講

休講となった授業に対しては、原則として補講が行われます。

6. 授業の欠席

傷病、忌引等のため授業を欠席する場合の取扱い(届出が必要かどうか、提出方法をどうするか、届出理由を成績評価に考慮するか否か等)は、各学部等や授業担当教員の判断に任されています。

シラバスやガイダンス等で各授業での届出の要否・方法を確認の上、届出の必要な授業のみ欠席届を提出してください。

(注) メールによる提出については「Web 学生便覧」に標準様式を掲載しています。

<https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/info/form.html>

標準様式
QRコード



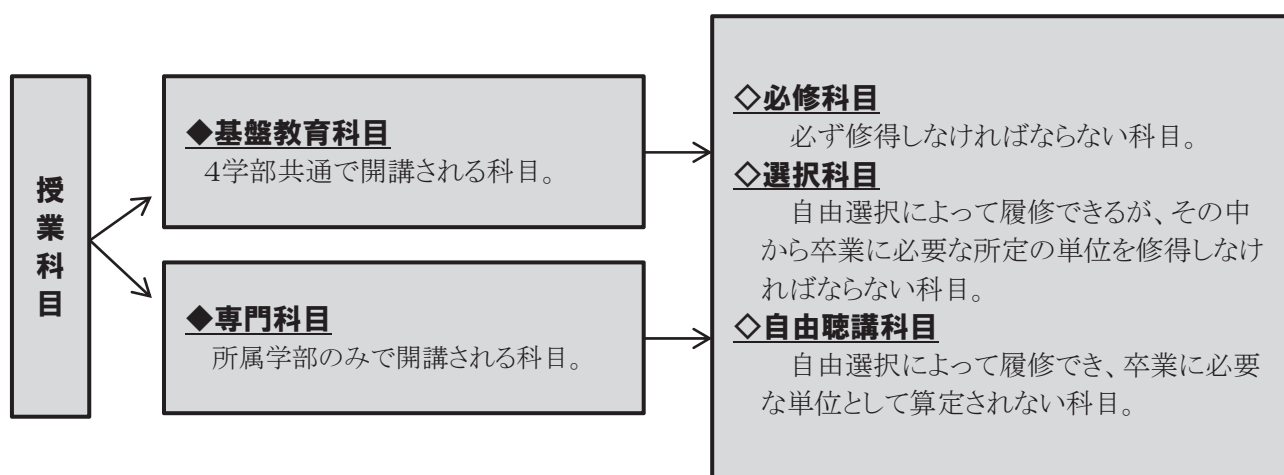
7. 特別な授業期間

通常の授業期間の他に、下記のような授業期間が設けられています。

集中講義期間	一定期間に集中して授業を行う授業科目があります。集中講義は、主に8月中旬・下旬、2月中旬に行われます。
授業等調整期間	通常の授業期間内に休講となった科目の補講や、試験が実施される期間。この期間の授業等は、通常とは違う時間割で行われます。

8. 授業科目の分類

授業科目は、学部の場合、次のように分類されます。



なお、研究科は、それぞれのカリキュラムを参照してください。

4 履修登録

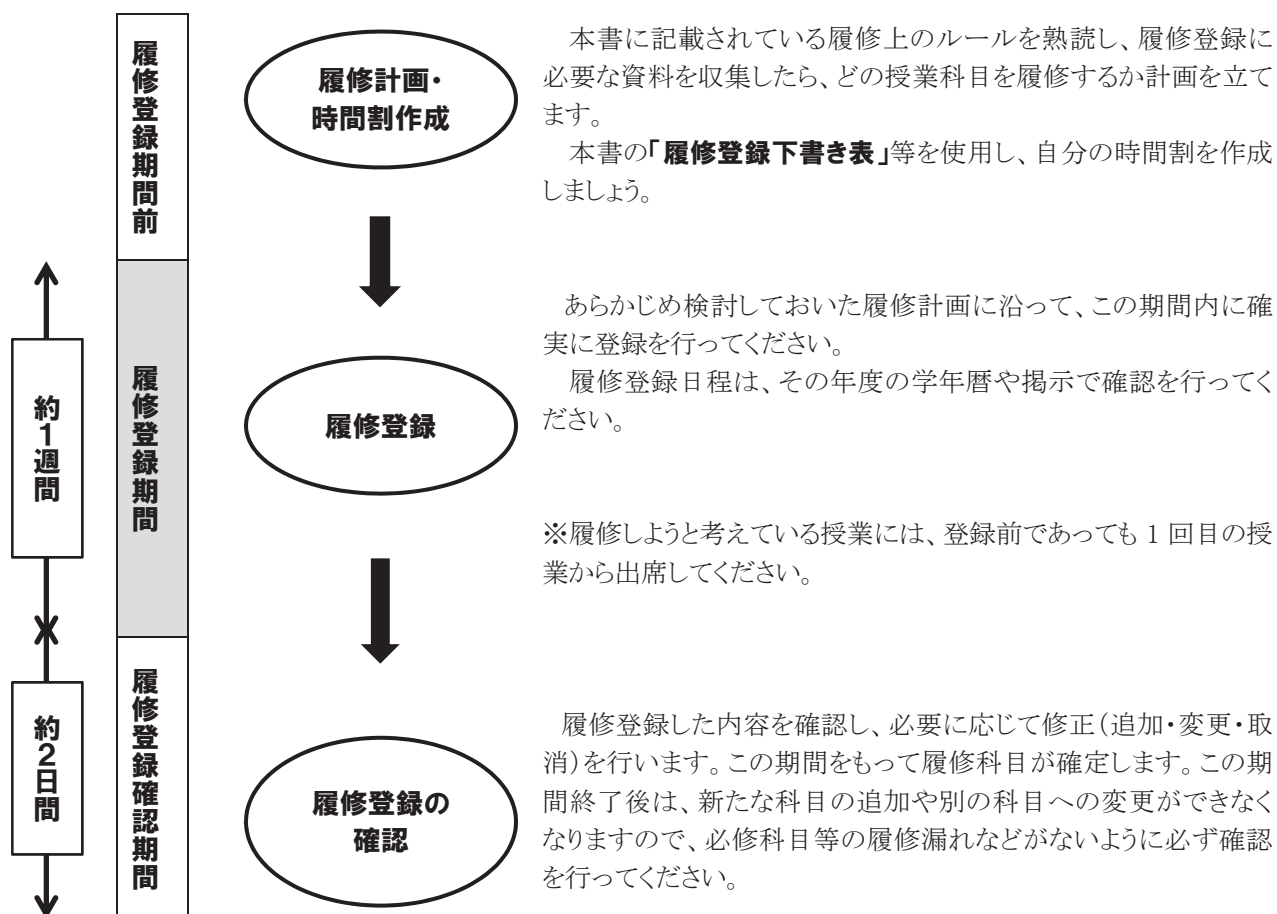
1. 履修登録について

履修登録は、毎学期の初めに、学生自らが履修しようとする授業科目を登録する必須の手続です。学生は、情報端末により、事務管理公開システムで各自履修登録を行います。なお、情報端末操作方法は、「事務管理公開システム操作マニュアル」を参照してください。

この手続きを行わずに授業に出席し、試験を受けても単位を修得することはできません。

履修登録の流れや方法をしっかり理解し、各自確実に履修登録を行ってください。

2. 履修登録の流れ



3. 履修取消期間

履修登録を行い、約1ヶ月間授業を受けてみて、当初の目的が達成される見込みがない等の理由がある場合には、この期間中に履修登録を取り消すことができます。履修の取消には、「履修取消届」の提出が必要です。

これは、履修放棄による「不可」評価でGPA数値(「7 成績評価」参照)が低下することを防ぐための措置として設けているものです。

4. 履修制限科目について

教養科目、保健体育科目、ソフトウェア情報学部の一部の専門科目など履修者数に制限を設けている科目があります。

履修制限科目と定員数、及び履修登録スケジュールの詳細は、掲示によりお知らせします。

履修者の決定は抽選により行い、その結果、残枠が出た科目については先着順で登録が可能です。

履修制限科目の履修登録にあたっては、以下のことに十分に注意してください。

- ◆ 同じ曜日、時限に専門科目の必修科目など必ず履修しなければならない授業がないか、時間割表をしっかりと確認してください。
- ◆ 各学期に履修できる単位数の上限が決まっています。その上限を超えないよう、履修制限科目とそれ以外の科目の合計単位数を履修登録前に必ず計算してください。

5. 履修登録の注意事項

履修できない科目

- ・履修登録をしていない授業科目
- ・既に単位を修得した授業科目
- ・授業時間帯が重複する授業科目(隔週開講科目除く)
- ・先修条件のある科目で、履修希望者がその条件を満たしていない場合

通年開講科目

前期開講科目は前期、後期開講科目は後期にそれぞれ履修登録を行うのが原則です。ただし、通年開講科目の場合は、前期に履修登録を行うと後期は自動的に履修登録が行われます。

実習科目・集中講義科目

曜日・時限ごとに登録する画面の下に、集中講義と実習の項目がありますので、忘れずに登録を行ってください。

配当年次と履修時期

授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、自分の年次と同じ、又は下位の開講年次の授業科目は履修できますが、上位の開講年次の授業科目は履修できません。

再履修

単位の修得が認められなかった科目は、他の履修希望科目との時間割が重複しない場合に限り、後年に再履修することができます。英語はクラス分けがあるため、学内掲示をよく確認し、指示に従って手続きしてください。

科目の追加・変更

履修取消期間における履修取消を除き、履修登録確認期間終了後の科目の追加や変更は認められません。

6. 基盤教育科目の履修登録

基盤教育科目の履修登録は、下記の事項に注意して行います。

基礎科目

入門科目

「基礎教養入門Ⅰ・Ⅱ」は、学部ごとに分かれて開講される科目です。
必ず自分の所属の学部のクラスで履修してください。他学部のクラスでの登録は、認められません。

英語

入学時と1年次後期末に行われる英語プレイスメント・テストの結果により所属クラスが指定されます。クラス編成は**本部棟・共通講義棟間通路の教務関連掲示板に掲示**しますので、指定されたクラスの開講曜日・時限の授業科目を履修してください。

指定クラス以外のクラスに履修登録しても、履修は認められません。

情報処理

英語科目の所属クラスを基準として全9クラスに編成されます。**英語科目と同様に、指定されたクラスの授業科目を履修**してください。

ただし、編入学又は再履修の場合に限り、指定クラス以外での履修登録が可能です。

この場合、受講人数の上限が設定されますので、学生センターに相談してください。

保健体育

1週間に複数回の授業が開講されることがあります。シラバスで授業内容を確認し、他の科目の時間割との重複に注意しながら、いずれか1回の曜日・時限の科目を選択してください。

教養科目

一部科目を除き、履修者数の制限があります。また、開講科目は年度・学期により異なる場合があります。科目ごとの詳細は掲示により案内します。

地域教養

「いわて創造学習Ⅱ」は、履修にあたって先修条件として、「いわて創造学習Ⅰ」の単位修得が必要です。

「いわて創造実践演習」は、履修するための条件が設けられています。詳細は、P.32の「3. 副専攻の履修」を参照してください。

国際教養

外国語Ⅱ(日本語を除く)の履修にあたっては、先修条件として、同一言語の外国語Ⅰの単位修得が必要です。

応用外国語の履修にあたっては、先修条件として、同一言語の外国語Ⅰ・Ⅱの単位修得が必要です。

日本語Ⅰ～Ⅳは、外国人留学生のみ履修できます。

「グローバル理解演習」は、履修するための条件が設けられています。詳細は、P.34の「3. 副専攻の履修」を参照してください。

課題別教養

高年次(2年次以上)での履修を推奨する科目があります。詳細は、履修登録の画面で確認してください。

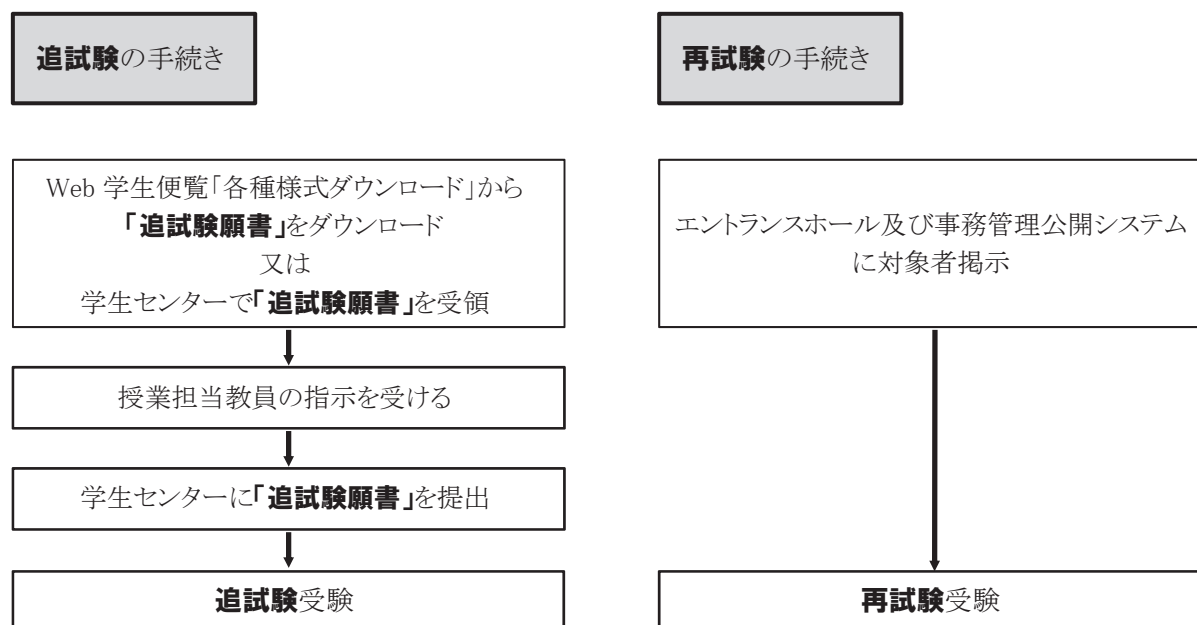
5 試験

1. 試験の種類

期末試験・ 随時試験	期末試験は、概ね授業最終日に実施されます。ただし、授業の担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、これをもって期末試験の代わりとすることがあります。
追試験	所定の試験に欠席した者に対する試験。原則として行わないが、病気その他やむを得ない事情がある場合に限り、願い出により追試験を受けることができます。
再試験	試験を受験して不合格になった者に対する再度の試験。原則として行わないが、やむを得ない事情により教授会で認められた場合には、再試験を受けることができます。

2. 追試験・再試験の手続方法

追試験および再試験の手続きは、それぞれ以下のように行います。



3. 試験の方法

試験は、筆記、口述、レポート提出、実技、実習等により行われます。

4. 受験上の注意

- 履修登録をしていない授業科目の受験は認められません。
- 試験の受験に際しては、学生証を机上に提示してください。
- 試験において**不正行為**をした者は、学則による懲戒処分を受けるほか、当該学期の成績「不可」の措置があります。

不正行為の取扱い

試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいいます。

- (1) 試験監督者の指示や注意に従わないこと。
- (2) 代人として受験すること、又は、代人に受験させること。
- (3) 試験解答用紙を交換すること。
- (4) カンニング・ペーパー及びそれに類するメモ類等の用意、又は、それらを使用すること。
- (5) 所持品、身体、机、壁等に解答及びそれに類するものを書き込むこと。
- (6) 使用が許可されていない書籍、ノート等を使用すること。
- (7) 使用が許可されている書籍、ノート等を貸借すること。
- (8) 解答を写させること、又は、写しとること。
- (9) 他人の解答を盗み見ること。
- (10) 声、動作等で解答を伝達すること、又は、伝達を受けること。
- (11) 作成者の許諾の有無に係わらず、他人が作成したレポートを盗用し、自分の文章として提出すること。
- (12) レポートに出典を明記せずに、文献やインターネット、電子書籍の記述・内容をコピーし、レポートに利用すること。
- (13) 他人に依頼し、または他人の依頼を受けてレポートを作成すること。
- (14) その他、これに類する行為を行うこと。

6 学修、授業を受ける際の注意事項

1. 授業を受けるに際しての注意事項

授業を受ける際には以下の基本的なルールを守るとともに、担当教員の注意や指示に従ってください。各自、快適な授業環境を維持するために以下を遵守してください。

他の学生への授業の妨害行為、迷惑行為の禁止

- 私語、講義中の入退室（遅刻、断りのない退室等）飲食など、授業の妨げとなる行為
- 他の学生の授業の迷惑となる行為
- 授業の様子を撮影、録画、録音
- 他の学生の写真、動画等の無断撮影、SNS 等への無断アップロード

行為の程度によっては「岩手県立大学学則 37 条 3 項 4 号に該当し、懲戒（訓告、停学および退学）を受ける可能性があります。

【参考】

（懲戒）第 37 条 学長は、この規則その他の規程に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした学生を懲戒することができる。

3 退学の処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

（4）本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

2. 授業を受ける、また学修に際しての情報モラルの遵守

Web 上には生成 AI をはじめとした様々なサービスが提供されています。安易な活用が自身の学修の妨げになるばかりか違法な使用となる可能性があることを認識するとともに、情報モラル（個人情報保護・人権、著作権・ネットワーク上のルール等）の遵守に努めてください。

情報モラルに関する留意事項

- ◆ 自分以外の個人が特定できる情報を課題・レポート等に記載しない。
- ◆ 担当教員の許可なく、次のような行為をしない。
 - ・ 授業で提供された資料等の他者への配布、公開
 - ・ 授業の様子を撮影、録画、録音したデータ等の他者への配布、公開
 - ・ オンライン会議システムの URL や認証情報等の他者への公開
- ◆ Web 上のコンテンツ、他者の成果物（レポート、論文等）の無断使用

Web 上の各種サービス機能活用時の留意点

授業における課題・レポート・論文の作成等にあたっての生成 AI 系のサービスの利用は担当教員の指示に従ってください。なお、生成 AI から出力された情報には不正確な情報、偏見、差別などが含まれていることがあります。活用にあたっては、出力された内容を十分に精査してください。活用については、各生成 AI サービスの利用規約を事前に確認してください。

入力・生成においては、以下のことが禁じられています。

- ◆ 秘匿性の高い情報の入力（生存する個人が特定に結びつく情報）また個人、著名人の写真、肖像をアップロード（個人情報の保護に関する法）
- ◆ 違法、また悪意あるコンテンツの生成（利用規約）
- ◆ 他者の著作物を用いての類似性、依拠性のあるコンテンツの生成（著作権法）

7 成績評価

1. 成績評価の方法

成績は、試験の成績、平常の成績及び出席状況等を総合的に判断して評価されます。評価方法は授業科目ごとに異なり、シラバスに記載されています。

2. 単位認定・成績通知

成績の評価は次のとおりです。合格した場合には所定の単位が与えられます。成績について文書による通知は行いませんので、学期末に各自で事務管理公開システムにより確認してください。

◆評点を付す授業科目

評価	GP	評点	成績評価の定義	
合格	秀	4	90 点以上	目標を上回る特に優れた水準に達している。
	優	3	90 点未満 80 点以上	目標に関して十分な水準に達している。
	良	2	80 点未満 70 点以上	目標に関して事前に想定される標準的な水準に達している。
	可	1	70 点未満 60 点以上	目標に関する基本的な水準に達している。
不合格	不可	0	60 点未満	目標に関する基本的な水準に達していない。

※「GP」は「グレードポイント」の略であり、「GPA」の算定のために利用されます。

◆評点を付さない授業科目

ごく例外的に特別な事情がある場合のみ、合格または不合格の評価を行うことがあります。

成績評価	評点
合格	60 点以上相当の評価
不合格	60 点未満相当の評価

3. GPA制度

GPA(Grade Point Average)制度は、主に米国の大学で一般的に行われている成績評価方法の一種で、学生ごとの履修科目の成績の平均を数値により表すものです。

GPAは「学期 GPA」、「年度 GPA」、「通算 GPA」の3種類が算定されます。学生自身の成績が具体的な数値として表されるため、自主的な履修計画や学修目標の設定に利用することが可能となります。

また、自分の成績が学部内でどの程度の位置にいるのかを把握する目安とするため、学期ごとに学部別の通算GPAの平均値を学内ホームページで公開します。

GPAの計算

学期GPA	年度GPA
$\frac{\text{(当該学期に評価を受けたGPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$	$\frac{\text{(当該年度に評価を受けたGPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{当該年度に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$
通算GPA	
$\frac{\text{(在学中に評価を受けた全GPA対象科目で得たGP} \times \text{当該科目の単位数)の合計}}{\text{在学中に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計}}$	

GPA対象科目

GPA算出の対象となる科目は、学部ごとに異なります。授業科目一覧で確認してください。

GPAの通知

学期末の成績通知と同時に、事務管理公開システムにより確認することができます。

4. 既修得単位の認定

本学に入学する前に大学等において履修した授業科目について修得した単位は、本学における授業科目の履修により修得した単位として認められることがあります。この場合、既修得単位認定申請書に所定の書類を添えて学生センターに提出する必要があります。

認定できる単位数は、下記のとおり上限が定められています。

	修得単位認定上限
岩手県立大学	60 単位
岩手県立大学盛岡短期大学部	30 単位
岩手県立大学大学院	15 単位

なお、本学3年次への編入学生に対する既修得単位の認定は、別に定められています。

8 卒業・修了及び学位

1. 学部

4年以上在学し所定の単位数を修得した学生には卒業が認定され、次の学位が授与されます。

学部	学位
看護学部	学士(看護学)
社会福祉学部	学士(社会福祉学)
ソフトウェア情報学部	学士(ソフトウェア情報学)
総合政策学部	学士(総合政策学)

2. 大学院

博士前期課程

2年以上在学して所定の単位数を修得し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格した学生には修了が認定され、次の学位が授与されます。

研究科	課程	学位
看護学研究科	博士前期課程	修士(看護学)
社会福祉学研究科	博士前期課程	修士(社会福祉学)
ソフトウェア情報学研究科	博士前期課程	修士(ソフトウェア情報学)
総合政策研究科	博士前期課程	修士(学術)

博士後期課程

3年以上在学して必要な研究指導(所定の単位数の修得を含む)を受け、博士論文の審査及び試験に合格した学生には修了が認定され、次の学位が授与されます。

研究科	課程	学位
看護学研究科	博士後期課程	博士(看護学)
社会福祉学研究科	博士後期課程	博士(社会福祉学)
ソフトウェア情報学研究科	博士後期課程	博士(ソフトウェア情報学)
総合政策研究科	博士後期課程	博士(学術)

9 他学部(学科)履修(学部)

本学では、学修の幅を広げるため、所属する学部・学科・コースカリキュラムに指定されていない他学部(学科)の授業科目(実験及び実習科目等を除く)の履修を認めています。

1. 履修できる科目

開講科目は、シラバスに掲載されています。

また、各授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、履修できるのは原則として自分の年次と同じ開講年次の授業科目、及び下の開講年次の授業科目に限られます。

ただし、特別の事情がある場合は、自分の年次より上の開講年次の授業科目を履修できることがありますので、事前に学生センターに相談してください。

2. 申請方法

各学期の履修登録期間に配布する募集要項を参照の上、「他学部(学科)授業科目履修申請書」の必要事項を記入し、学生センターに提出してください。

申請には、授業担当教員の許可及び所属学部の担当教員等の指導が必要な場合がありますので、募集要項をよく確認の上、申請してください。

なお、申請は各学期の履修登録期間中に受け付けます。

3. 単位認定

他学部(学科)で修得した単位は、所属学部(学科)の卒業要件単位として認定されることがあります。その取扱いは、所属する学部により異なりますので注意してください。

所属学部・学科	卒業要件単位への算入
看護学部 看護学科	認めない。
社会福祉学部 社会福祉学科 人間福祉学科	「展開科目」について、他学部(学科)の専門科目を、4単位を上限として認める。事前に教務委員の指導を得ること(学部内両学科間の他学科履修の場合を除く)。
ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科	認めない。
総合政策学部 総合政策学科	「展開科目」について、他学部の専門科目を、8単位を上限として条件付きで認める。申請の前に教務委員長の指導を得ること。

4. 注意事項

- 履修を希望する科目が複数の学部にあたる場合には、申請書を開講学部ごとに作成してください。
- 履修決定後でも、教室の収容人数の都合等により決定を取り消すことがあります。

10 いわて高等教育コンソーシアム単位互換制度(学部)

岩手県内の高等教育機関により組織する「いわて高等教育コンソーシアム」では、単位互換制度を導入しており、協定校相互の授業を履修することができます。

単位互換協定を結んでいる協定校は、岩手大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、一関工業高等専門学校、岩手保健医療大学です。

1. 学生の身分

本学の学生が他大学の授業科目を履修する場合は派遣学生、他大学の学生が本学の授業科目を履修する場合は特別聴講学生となります。

2. 出願資格

出願時において学部の1年生から4年生に在学している学生が出願することができます。ただし、当該年度卒業予定者が通年科目又は後期開講科目を選択することはできません。また、出願にあたっては、事前に教務担当教員に相談してください。

3. 授業料等

入学料、授業料、検定料は無料です。ただし、追・再試験の検定料及び授業に係る必要経費については、徴収される場合があります。

4. 開講科目

いわて高等教育コンソーシアムホームページに記載されている「コア科目」を履修することができます。また、コア科目以外であっても、他の単位互換協定校の科目を履修したい場合には、履修希望者その旨を申請し、科目の開講校において許可された場合に、希望する科目を履修することができます。

5. 出願方法

いわて高等教育コンソーシアムホームページに掲載されている「単位互換特別聴講学生募集要項」をよく読んで手続きしてください。

出願書類	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別聴講学生志願書 1通 (いわて高等教育コンソーシアムホームページよりダウンロード) ● 派遣学生願 1通 (本学学生センター窓口にて配布)
出願期間	各学期履修登録期間
書類提出先	本学学生センター

※初回講義に間に合うように手続きを行うこと。

※集中講義科目は適宜期限等を定め募集を行う場合があります。

6. 単位認定

他大学で修得した単位の本学での認定を希望するときは、学生センターで申請手続きを行ってください。

申請方法

提出書類	<ul style="list-style-type: none"> ● 単位認定申請書 ● 単位修得証明書等（派遣先大学長が発行したもの）
書類提出先	本学学生センター

審査結果

審査結果は、申請の翌月末に「単位認定通知書」により通知されます。

卒業要件単位としての取扱い

認定された単位が、卒業要件単位として算入されるか否かは、所属学部により取扱いが異なりますので注意してください。

所属学部	卒業要件単位への算入
看護学部	認めない。
社会福祉学部	条件付き（展開科目として4単位まで）で認める。 なお、卒業要件単位への算入の可否に関わらず、国家資格関連科目としては認めない。
ソフトウェア情報学部	条件付きで認める。
総合政策学部	条件付きで認める。

成績表示

他大学で修得した単位は、本学で修得した単位と区別するため、成績証明書中において「認定」と表示されます。

7. 注意事項

授業の開始時期や時間帯は、開講大学により異なることがあります。

11 短期大学部開講科目の受講(学部)

本学の学生は、「岩手県立大学間単位互換制度」により、盛岡短期大学部及び宮古短期大学部の授業を、申請により履修することができます。修得した単位は、自由聴講科目として本学で修得したものと認定されます。

1. 学生の身分

本学の学生が短大部の授業科目を履修する場合は**派遣学生**、短大部の学生が本学の授業科目を履修する場合は**特別聴講学生**となります。

2. 出願資格

出願時において学部の1年生から4年生に在学している学生が出願することができます。出願にあたっては、事前に教務担当教員に相談してください。

3. 授業料等

入学料、授業料、検定料は無料です。

4. 履修できる科目

開講科目は、シラバスに掲載されています。

また、各授業科目には履修できる年次の制限(開講年次)があり、履修できるのは原則として自分の年次と同じ開講年次の授業科目、及び下の開講年次の授業科目に限られます。

ただし、特別の事情がある場合は、自分の年次より上の開講年次の授業科目を履修できることがありますので、事前に学生センターに相談してください。

5. 出願方法

各学期の履修登録期間中に配布する「岩手県立大学間特別聴講学生募集要項」をよく読んで、手続きを行ってください。定員を超えた応募があった場合は、先着順となります。

出願書類	● 特別聴講学生志願書 1通 ● 派遣学生願 1通
出願期間	各学期履修登録期間
書類提出先	本学学生センター

6. 受講許可

履修時期	受講許可通知時期
前期	5月下旬
後期	10月下旬

選考結果は、本学学生センターから通知します。ただし、選考により、受講許可されなかった場合には、当該通知以前に受講した事実については無効となります。

7. 単位認定

この単位は自由聴講科目として認定され、卒業要件単位には算入されませんので注意してください。

8. 成績表示

短期大学部で修得した単位は、本学で修得した単位と区別するため、成績証明書中において「認定」と表示されます。

9. 注意事項

- 科目ごとに定められた定員を超えた場合には、履修できない場合があります。
- 原則として「特別聴講学生志願書」提出後の履修希望科目の変更はできません。確実に履修可能な科目のみを選択してください。

12 語学科目における単位認定(学部)

以下の各種語学能力試験等の成果は、申請により本学における修得単位として認定されます。

◆英語

語学能力試験			本学における授業科目および 認定単位数
名称	主催団体	試験の結果	
実用英語技能検定	公益財団法人日本英語検定協会	1級合格	8単位(英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ、 英語実践演習Ⅰ～Ⅳ)
		準1級合格	4単位(英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ)
TOEFL-iBT	Educational Testing Service (国際教育交換協議会(CIEE))	76点以上	4単位(英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ)
		61～75点	2単位(英語基礎演習Ⅰ・Ⅱ)
TOEIC	Educational Testing Service (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)	700点以上	4単位(英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ)
		600～699点	2単位(英語基礎演習Ⅰ・Ⅱ)

(注)TOEFL-PBT等については、換算表により換算して判定します。

◆外国語

区分	語学能力試験			本学における授業科目および 認定単位数
	名称	主催者	試験の結果	
中国語	中国語検定試験	一般財団法人日本中国語検定協会	4級合格	4単位(中国語Ⅰ・Ⅱ)
			準4級合格	2単位(中国語Ⅰ)
韓国語	ハングル能力検定試験	NPO法人ハングル能力検定協会	4級合格	4単位以下(韓国語Ⅰ・Ⅱ)
			5級合格	2単位(韓国語Ⅰ)
	韓国語能力試験	公益財団法人韓国教育財団	2級合格	4単位以下(韓国語Ⅰ・Ⅱ)
			1級合格	2単位(韓国語Ⅰ)
ドイツ語	ゲーテドイツ語検定試験	ドイツ文化センター	B1合格	4単位以下(ドイツ語Ⅰ・Ⅱ)
	ドイツ語技能検定試験	公益財団法人ドイツ語学文学振興会	4級合格	
フランス語	実用フランス語技能検定試験	公益財団法人フランス語教育振興協会	4級合格	4単位以下(フランス語Ⅰ・Ⅱ)
スペイン語	スペイン語検定試験DELE	セルバンテス文化センター	入門以上合格	4単位以下(スペイン語Ⅰ・Ⅱ)

申請方法

学期	申請期限	提出書類	提出場所
前期	8月末日	● 単位認定申請書 1通 ● 各試験結果通知書の写し 1通	学生センター
後期	1月末日		

成績表示

語学における修得単位認定に係る成績は、成績表中の評価欄に「合認」と表示されます(GPA算出の対象にはなりません)。

単位認定結果

単位が認定された場合は、申請月の翌月末に「単位認定通知書」により通知します。

13 学部等授業科目の聴講(大学院)

本学大学院では学生の教育研究活動の一助とするために、当該大学院の基礎となる4年制学部で開講している授業科目の聴講を認めています。

1. 聴講手続き

4年制学部授業科目の聴講を希望する学生は、**本人が個別に聴講したい授業科目の担当教員及び研究科の指導担当教員の了解を得ることにより**、研究科の基礎となる学部授業科目を聴講することができます。聴講科目数の上限はなく、書面提出は不要です。

この手続は、原則として履修登録期間内に行うこととしますが、特段の事情がある場合には、随時各教員に相談してください。

2. 聴講科目

聴講科目は所属大学院の基礎となる学部の専門科目とし、博士後期課程の学生にあつては、基礎となる学部の授業科目のほか、当該研究科博士前期課程の授業科目を聴講できるものとします。

なお、基礎となる学部以外の学部又は、他研究科の授業科目の聴講を希望する場合には、本学の「**聴講生**」として聴講する方法があります。

この場合、所定の時期に「聴講生」の願書出願等の手続きが必要となります。

3. 単位認定

聴講した授業科目の単位は認定されません。単位認定を必要とする場合には、履修登録期間内に「**学部授業科目履修申請書**」を提出し、研究科委員会及び教授会の承認を得る手続きが必要となります。

《参考》

研究科	課程	聴講できる科目	聴講手続	単位の認定
看護学研究科	博士前期課程	・看護学部の専門科目	左記授業科目のうち、授業担当教員及び指導担当教員の了解が得られたものについて聴講を認める。	原則、聴講扱いとし、単位の認定は行わない。 単位認定を必要とする場合は、「学部授業科目履修申請書」を提出し、研究科委員会及び教授会の承認を得る手続きが必要となる。
	博士後期課程	・看護学部の専門科目 ・看護学研究科博士前期課程の開講科目		
社会福祉学研究科	博士前期課程	・社会福祉学部の専門科目		
	博士後期課程	・社会福祉学部の専門科目 ・社会福祉学研究科博士前期課程の開講科目		
ソフトウェア情報学研究科	博士前期課程	・ソフトウェア情報学部の専門科目		
	博士後期課程	・ソフトウェア情報学部の専門科目 ・ソフトウェア情報学研究科博士前期課程の開講科目		
総合政策研究科	博士前期課程	・総合政策学部の専門科目		
	博士後期課程	・総合政策学部の専門科目 ・総合政策研究科博士前期課程の開講科目		

14 長期履修学生制度(大学院)

長期履修学生制度とは、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限(博士前期課程2年、博士後期課程3年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度です。

1. 対象者

岩手県立大学大学院(看護学研究科、社会福祉学研究科、ソフトウェア情報学研究科、総合政策研究科)に在学していて、職業を有している者又は長期履修が必要となる相当の理由を有する者を対象とします。

- 「職業を有している者」とは、正規に雇用されている者に限りませんが、主として当該収入により生計を維持していることを要件とします。
- 「長期履修が必要となる相当の理由」とは、育児、介護への従事等により、著しく学習又は研究時間の制約を受けることを要件とします。

2. 長期履修期間

在学年限(博士前期課程4年、博士後期課程6年)の範囲内で、1年単位で長期履修期間を定めることができます。

- 休学期間は上記期間に含まれません。
- 長期履修の適用の有無にかかわらず、在学年限内に修了することができない場合には、除籍の対象となります。

3. 授業料

標準修業年限分の授業料に相当する額を、長期履修期間に応じて分割納付していただきます。

$$\text{長期履修による授業料年額} = \text{通常の授業料年額} \times \text{標準修業年限} \div \text{長期履修許可年限}$$

【例】博士前期課程で3年間の長期履修許可を受けた場合

区分	各年度の授業料納付額			修了までの授業料総額
一般学生	1年目 535,800円	2年目 535,800円		1,071,600円
長期履修学生	1年目 357,200円	2年目 357,200円	3年目 357,200円	

(注) 上記は令和5年度の授業料年額による例であり、在学中に授業料が改定された場合には改定後の額で再計算されます。

- 長期履修学生については授業料の免除、分割納付及び納期変更制度は適用されません。
- 長期履修期間を終了してもなお修了できずに在学する場合の授業料の額は、通常の授業料の額と同額となります。

4. 申請方法

長期履修の申請の時期は、毎年度2月上旬までとします。ただし、在学生のうち最終年次(博士前期課程2年目、博士後期課程3年目)に在学する者は申請することができません。

申請にあたっては、あらかじめ指導担当教員に相談し、承諾を得た上で下記の書類を学生センターに提出してください。申請後、研究科による審査を経て、学長が許可の可否を決定します。

長期履修学生制度に関する情報は、Web 学生便覧「大学院長期履修制度」に掲載されますので、申請を希望する学生は必ず確認してください。

- 長期履修申請書(「長期履修学生規程」様式第1号)
- 長期履修計画書(様式任意)
- 長期履修が必要となることを証明する書類(在職証明書等)

5. 長期履修期間の変更

長期履修期間中に、就業環境の変化等により必要が生じた場合は、1回に限り長期履修期間の延長を申請することができます。

また、長期履修期間途中で、修了できる見込みが明らかとなった場合は、必ず申し出てください。

6. その他

- 長期履修期間中の学期ごとの修得単位数の上限が設けられることがあります。
- 奨学金については、長期履修学生制度による特段の措置はありませんが、貸与期間満了時に所定の手続きを行うことにより、その後の在学期間中は返還が猶予されます。
- 長期履修学生制度は、単位の修得状況や学位論文の審査過程により修了が延期となる者を救済する制度ではありません。また、療養、出産、海外留学等により一定の期間にわたり履修することができない場合には、長期履修学生制度ではなく、休学許可の対象となります。

基盤教育科目

1 基盤教育の理念

<カリキュラム・ポリシー>

岩手県立大学の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた共通の柱及び学部ごとに設定する能力の育成のため、基盤教育科目と専門教育科目を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

基盤教育科目は、大学での学修活動の基盤を支える力を鍛える（つくる）【大学で学ぶ力をつくる】、地域・国際社会においてこれから必要とされる知識・技能を身につける【生きる世界を知る】、幅広く豊かな教養に基づく総合的な思考力・判断力を育成する【学問を知る・使う】ことを目的とし、以下のような科目群を開講します。

CP1：基礎科目群

【大学で学ぶ力をつくる】大学での4年間の学び、また実社会に活用できるスキルの獲得と資質・能力・身体の育成を目指す科目として、「入門科目」「英語」「情報処理」「保健体育」を開講します。

（コミュニケーション能力、課題発見・解決能力）

CP2：教養科目群

【生きる世界を知る】それぞれの専門領域における知識・技術を活用する場としての「世界」を知ることを目指す科目として「地域教養」「国際教養」「データサイエンス教養」を開講します。（コミュニケーション能力、社会への関心、幅広い教養、課題発見・解決能力）

【学問を知る・使う】それぞれの専門領域を学問全体（知の体系）の中に位置づけ、課題解決のための、他学問領域の「知」を活用できることを目指す科目として「基盤教養」「課題別教養」を開講します。

（幅広い教養、社会への関心、課題発見・解決能力）

「専門教育科目」は、「基盤教育科目」を土台とし、また、その内容と連携を取りながら、各学部において開講します。

2 基盤教育の構造

1. 大学で学ぶ力をつくる

<教育目標>

本科目群は、大学での4年間の学び、また実社会に活用できるスキルの獲得と資質・能力・身体の育成を目指します。

【入門科目】

大学で学ぶためには、4年間の学びの見通しを持つことや、大学で学ぶために必要な学習スキルを身につける必要があります。大学での学びへのスムーズな移行のために、「大学で学ぶ・大学を学ぶ」、「基礎教養入門Ⅰ・Ⅱ」を開講します。

【英語】

教養教育や専門教育の基盤となる英語の学力を身につけ、生涯に渡り英語に親しむための知識・技能・態度を養うことを目的としています。レベル別の少人数クラスで「英語基礎演習Ⅰ～Ⅳ」「英語実践演習Ⅰ～Ⅳ」の2種類の科目を効果的に融合した教育を展開します。

【情報処理】

各種コンピュータアプリケーション、ネットワーク操作に習熟するとともに、情報技術活用についての社会的責任（情報にかかわるモラル）、影響などを学び、これからの情報化社会に参画する態度を身につけるために「情報リテラシー」を開講します。

【保健体育】

現代における健康について幅広く考え、自ら積極的に健康的な生活のための行動がとれることを目指す「健康科学」を開講します。また、各種スポーツ種目の実践から、身体機能を高め、スポーツを通してのコミュニケーションを考える「体育実技」を開講します。

2. 生きる世界を知る

<教育目標>

本科目群は、それぞれの専門領域の知識・技術を活用する場としての「世界」を知ることを目指します。以下の3つの科目群によって構成されています。

【地域教養】

〔地域理解〕は、岩手県を知り、地域課題を考えることを通して、日本における地域社会の現状、またその課題解決（地域活性）のために必要なアプローチ方法を学ぶ科目を開講します。

〔地域学習〕は、岩手をフィールドとして、そのフィールドに関わり、課題解決のための実践的な活動（演習）を行う科目を開講します。

【国際教養】

〔外国語科目〕は、グローバル人材に必要なコミュニケーション技術としての外国語を学ぶ科目を開講します。

〔グローバル理解科目〕は、異文化理解と多文化共生に必要な基盤知識、現状の国際的課題について考える力を育成する科目を開講します。

【データサイエンス教養】

数理・データサイエンス・AIについて、大学での学び・研究、将来の仕事・生活に役立つ知識・技術を体系的に学び、それらを活用して生きる世界を理解する力を養う科目を開講します。

3. 学問を知る・つかう

<教育目標>

本科目群は、それぞれの専門領域を学問全体（知の体系）の中に位置づけ、課題解決のための、他学問領域の「知」を活用できることを目指します。以下の2つの科目群によって構成されています。

【基盤教養】

先人が築いてきた“知”を伝え・学ぶことを目的とし、「人間」「社会」「自然」にかかわる学問知、社会的知識の獲得を目指します。複数の学問領域に触れ、自身の専門領域を相対的に見ることができ、また関連付けて考える力を養う科目を開講します。

【課題別教養】

現代社会にある課題状況、事象に焦点を当て、それに対して多角的、学際的にアプローチする方法を身につけることを目的としています。社会における正解のない本質的、普遍的、今日的な問題について課題を見出し、様々な観点から分析、考察を行い、根拠に基づく自身の考えを構築できる力を培う科目を開講します。

4. 基盤教育カリキュラムマップ

		1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎科目	大学で学ぶ力をつくる	入門科目 大学で学ぶ・大学を学ぶ 基礎教養入門Ⅰ・Ⅱ 英語 英語基礎演習Ⅰ・Ⅱ 英語実践演習Ⅰ・Ⅱ 情報処理 情報リテラシー 保健体育 健康科学 体育実技	英語基礎演習Ⅲ・Ⅳ 英語実践演習Ⅲ・Ⅳ			
	教養科目	地域教養	地域理解 人間と職業、地域社会と健康、コミュニティ形成の理論と実践、地域と情報、地域社会とボランティア、異文化間接触と多文化共生 いわて創造学習Ⅰ	いわて創造学習Ⅱ	いわて創造実践演習	いわて学 A、いわて学 B、キャリア地域学習
		国際教養	外国語 中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、トルコ語Ⅰ・Ⅱ、スペイン語Ⅰ・Ⅱ 語学研修 A 語学研修 B・C・D 応用外国語 A・B・C・D・E・F 日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(外国人留学生のみ履修可能)			
		サイエンス教養	グローバル理解 グローバル理解入門 国際社会 A・B・C・D・E・F 国際文化 A・B・C・D・E・F 国際演習 A・B グローバル理解演習			
データサイエンス教養			データサイエンス入門 データサイエンス応用Ⅰ データサイエンス応用Ⅱ			
学問を知る・使う	基盤教養	哲学の世界、芸術学の世界、文学の世界、歴史学の世界、宗教学の世界、社会学の世界、教育学の世界、物理学の世界、化学の世界、生物学の世界、地球科学の世界、地理学の世界、体育学・スポーツの世界、看護学の世界、心理学の世界、数学の世界、数理の世界、経営学の世界、生態学の世界、法学の世界、政治学の世界、経済学の世界				
	課題別教養	自己と他者、個と集団、科学技術と倫理、環境と疾病、ジェンダーと文化、開発と環境、女性・子どもと環境、共生社会について考える、現代社会と依存症、高齢社会を考える、環境とジャーナリズム、人と経済・社会、生涯発達とライフコース、労働を取り巻く課題				

基盤教育科目一覧表

授業科目の名称		開講年次	単位数			GPA	備考		
			必修	選択	自由				
基礎科目	入門科目	大学で学ぶ・大学を学ぶ	1 前	2			○		
		基礎教養入門 I	1 前	1			○		
		基礎教養入門 II	1 後	1			○		
	英語	英語基礎演習 I	1 前	1			○		
		英語実践演習 I	1 前	1			○		
		英語基礎演習 II	1 後	1			○		
		英語実践演習 II	1 後	1			○		
		英語基礎演習 III	2 前	1			○		
		英語実践演習 III	2 前	1			○		
		英語基礎演習 IV	2 後	1			○		
英語実践演習 IV	2 後	1			○				
情報処理	情報リテラシー	1 前	2			○			
保健体育	健康科学	1・2前後		2		○			
	体育実技	1・2前後		1		○			
基盤教育科目	地域教養	地域理解	人間と職業	1・2・3・4		2	○		
			地域社会と健康	1・2・3・4		2	○		
			コミュニティ形成の理論と実践	1・2・3・4		2	○		
			地域と情報	1・2・3・4		2	○		
			地域社会とボランティア	1・2・3・4		2	○		
			異文化間接触と多文化共生	1・2・3・4		2	○		
		地域学習	いわて学A	1・2・3・4前		2		○	
			いわて学B	1・2・3・4後		2		○	
			いわて創造学習 I	1・2通年		4		○	
			いわて創造学習 II	2・3通年		2		○	
	国際教養	外国語	中国語 I	2・3・4前		2		○	
			中国語 II	2・3・4後		2		○	
			韓国語 I	2・3・4前		2		○	
			韓国語 II	2・3・4後		2		○	
			ドイツ語 I	2・3・4前		2		○	
			ドイツ語 II	2・3・4後		2		○	
			フランス語 I	2・3・4前		2		○	
			フランス語 II	2・3・4後		2		○	
			トルコ語 I	2・3・4前		2		○	
			トルコ語 II	2・3・4後		2		○	
			スペイン語 I	2・3・4前		2		○	
			スペイン語 II	2・3・4後		2		○	
			応用外国語A	3・4前		2		○	
			応用外国語B	3・4前		2		○	
		応用外国語C	3・4前		2		○		
		応用外国語D	3・4前		2		○		
		応用外国語E	3・4前		2		○		
		応用外国語F	3・4前		2		○		
		グローバル理解	語学研修A	1・2・3・4後			2		○
			語学研修B	2・3・4通年			2		○
語学研修C	2・3・4通年				2		○		
語学研修D	2・3・4通年				2		○		
日本語 I	1・2・3・4前後				2		○		
日本語 II	1・2・3・4前後				2		○		
グローバル理解	グローバル理解入門	1 後		2		○			
	国際社会A	2・3・4		2		○			
	国際社会B	2・3・4		2		○			
	国際社会C	2・3・4		2		○			
	国際社会D	2・3・4		2		○			
	国際社会E	2・3・4		2		○			
	国際社会F	2・3・4		2		○			
	国際文化A	2・3・4		2		○			
	国際文化B	2・3・4		2		○			
	国際文化C	2・3・4		2		○			
	国際文化D	2・3・4		2		○			
	国際文化E	2・3・4		2		○			
	国際文化F	2・3・4		2		○			
	国際演習A	2・3・4		2		○			
国際演習B	2・3・4		2		○				
グローバル理解演習	3・4後		2		○				
データサイエンス教養	データサイエンス入門	1・2・3・4		2		○			
データサイエンス教養	データサイエンス応用 I	2・3・4		2		○			
データサイエンス教養	データサイエンス応用 II	3・4		2		○			

授業科目の名称		開講年次	単位数			GPA	備考	
			必修	選択	自由			
基盤教育科目	教養科目	基盤教養	哲学の世界	1・2・3・4		2	○	選択 地域教養・国際教養・データ サイエンス教養から4単位、 基盤教養・課題別教養から 4単位を含めて 計16単位以上
		芸術学の世界	1・2・3・4		2	○		
		文学の世界	1・2・3・4		2	○		
		歴史学の世界	1・2・3・4		2	○		
		宗教学の世界	1・2・3・4		2	○		
		社会学の世界	1・2・3・4		2	○		
		教育学の世界	1・2・3・4		2	○		
		物理学の世界	1・2・3・4		2	○		
		化学の世界	1・2・3・4		2	○		
		生物学の世界	1・2・3・4		2	○		
		地球科学の世界	1・2・3・4		2	○		
		地理学の世界	1・2・3・4		2	○		
		体育学・スポーツの世界	1・2・3・4		2	○		
		看護学の世界	1・2・3・4		2	○		
		心理学の世界	1・2・3・4		2	○		
		経営学の世界	1・2・3・4		2	○		
		生態学の世界	1・2・3・4		2	○		
	法学の世界	1・2・3・4		2	○			
	政治学の世界	1・2・3・4		2	○			
	経済学の世界	1・2・3・4		2	○			
	課題別教養	自己と他者	1・2・3・4		2	○		
		個と集団	1・2・3・4		2	○		
		科学技術と倫理	1・2・3・4		2	○		
		環境と疾病	1・2・3・4		2	○		
		ジェンダーと文化	1・2・3・4		2	○		
		開発と環境	1・2・3・4		2	○		
		女性・子どもと環境	1・2・3・4		2	○		
共生社会について考える		1・2・3・4		2	○			
現代社会と依存症		1・2・3・4		2	○			
高齢社会を考える		1・2・3・4		2	○			
環境とジャーナリズム	1・2・3・4		2	○				
人と経済・社会	1・2・3・4		2	○				
生涯発達とライフコース	1・2・3・4		2	○				
労働を取り巻く課題	1・2・3・4		2	○				

【基盤教育科目の履修条件について】

基盤教育科目の一部の科目については、履修するための条件または、履修対象者が決められている場合があります。詳細は、P. 8の「6. 基盤教育科目の履修登録」を参照してください。

3 副専攻の履修

岩手県立大学には、学部・学科の専門（主専攻）に加えて、それぞれの専門が活かされる「世界」を「地域」「国際」という視点から理解し、そこで生じる多様な課題に取り組む力を体系的かつ実践的に学ぶことができるプログラムとして、「地域創造教育プログラム」「国際教養教育プログラム」という2つの副専攻の課程があります。それぞれの課程の修了要件を満たすことで、「地域創造士」「国際教養士」の称号を得ることができます。

1. 地域創造教育プログラム

1) プログラムの目的

地域創造教育プログラムは、日本が抱える地域課題について、将来その解決のために、地域を理解し、地域課題を発見し、課題に取り組むという連続性をもった学びです。地域と協働し、生きた情報を活用し、実践的に活躍する力を育成することを目指します。

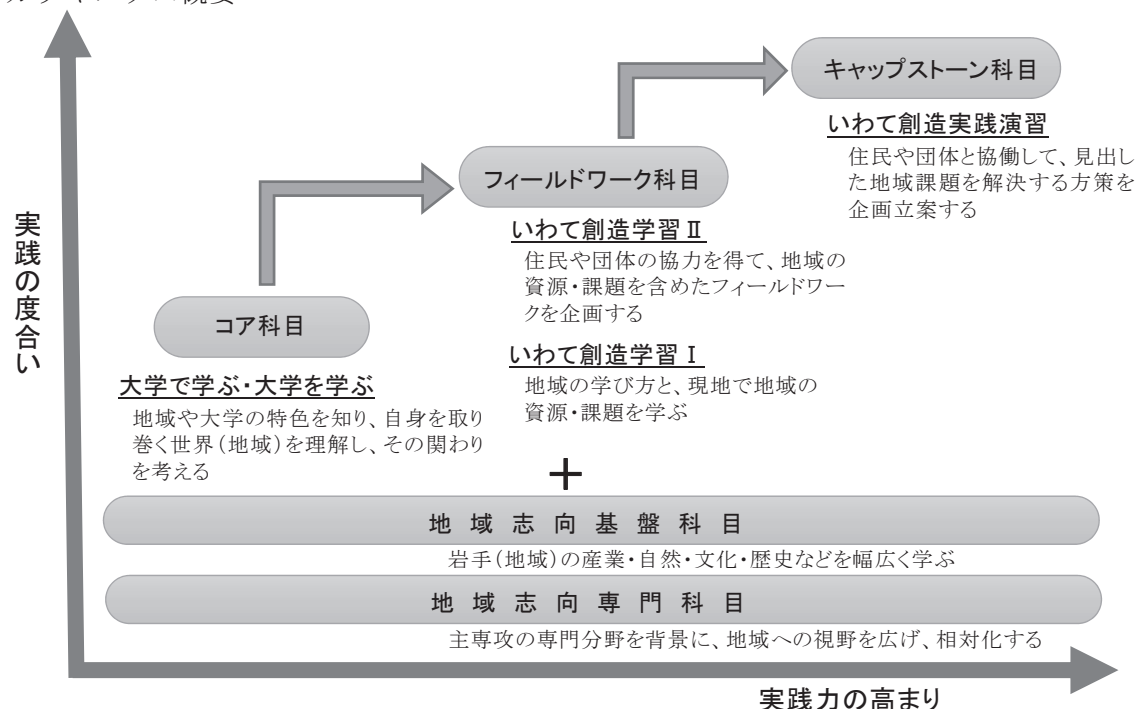
2) 履修方法

区分	科目	修了要件単位数
コア科目	大学で学ぶ・大学を学ぶ	必修2単位
フィールドワーク科目	いわて創造学習Ⅰ、いわて創造学習Ⅱ	必修6単位
地域志向基盤教育科目群	地域志向基盤教育科目群より選択	選択4単位以上
地域志向専門教育科目群	地域志向専門教育科目群より選択	選択2単位以上
キャップストーン科目	いわて創造実践演習（履修には以下の条件を満たすことが必要） ・コア科目：2単位修得済 ・フィールドワーク科目：「いわて創造学習Ⅰ」4単位修得済 ・地域志向基盤教育科目：4単位修得済 ・地域志向専門教育科目：2単位修得済 ※3年次では「いわて創造学習Ⅱ」と「いわて創造実践演習」の 並行履修が可能	必修2単位
合計		16単位

3) プログラムの特徴

地域創造教育プログラムは、グループ活動を中心とした地域での実践活動を通して学修します。副専攻の全課程（規定単位数16単位）を修了した学生に対し、修了証と『地域創造士』の称号が授与されます。

4) カリキュラム概要



5) 地域創造教育プログラム科目一覧

科目名		単位数	修了要件単位数	
コア科目	大学で学ぶ・大学を学ぶ	2	必修2単位	
フィールドワーク科目	いわて創造学習Ⅰ	4	必修6単位	
	いわて創造学習Ⅱ	2		
地域志向基盤教育 科目群	人間と職業	2	選択 4単位以上	
	地域社会と健康	2		
	コミュニティ形成の理論と実践	2		
	地域と情報	2		
	地域社会とボランティア	2		
	異文化間接触と多文化共生	2		
	いわて学 A	2		
	いわて学 B	2		
	キャリア地域学習	2		
地域志向専門 教育科目群	看護学部 専門科目	地域・在宅看護論	2	選択 2単位以上
		地域・在宅看護実習	2	
		老年看護学実習	3	
	社会福祉学部 専門科目	地域福祉論	2	
		地域社会学	2	
		地方福祉行政論	2	
		地域ケアシステム論	2	
		コミュニティ組織論	2	
	ソフトウェア 情報学部 専門科目	起業論	2	
		プロジェクト演習Ⅰ	1	
		プロジェクト演習Ⅱ	1	
		システムデザイン実践論	2	
		プレインターンシップ	1	
	総合政策学部 専門科目	行政学Ⅰ	2	
		地理学	2	
		農山村再生論	2	
		地域・都市計画論	2	
		市民協働論	2	
		中小企業論	2	
		地域経済論	2	
地場産業・企業研究		2		
農業政策論		2		
地域交通論		2		
地域資源管理論		2		
プレインターンシップ		1		
経営実習		2		
経済実習		2		
地域環境調査実習A		2		
地域環境調査実習B		2		
地域環境調査実習C		2		
地域環境調査実習D	2			
地域環境調査実習E	2			
	フィールド研究	2		
キャップストーン科目	いわて創造実践演習	2	必修2単位	
副専攻の修了に必要なとなる単位数			16単位以上	

2. 国際教養教育プログラム

1) プログラムの目的

国際教養教育プログラムは、グローバル化が進む世界を前に、異文化理解・多文化共生を基盤とした文化・社会の多面的理解に立脚し、自らと異なる文化的背景をもつ人々と協働し課題解決できる語学力を身につけ、主体的に行動できる実践力の育成を目指します。

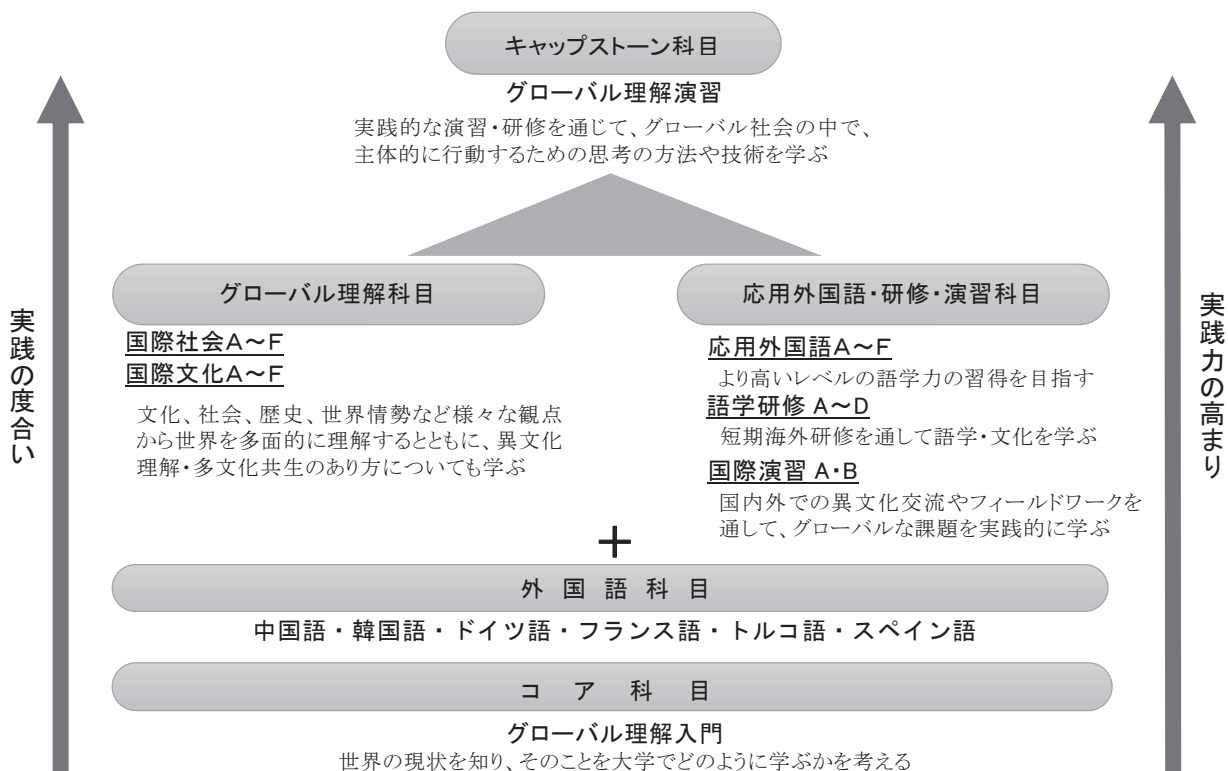
2) 履修方法

区 分	科 目	修了要件単位数
コア科目	「グローバル理解入門」	必修2単位
外国語科目群	「外国語Ⅰ・Ⅱ」(同一外国語Ⅰ・Ⅱをセット)	必修4単位以上
グローバル理解科目群	「グローバル理解科目」より選択(「国際社会」から2単位、「国際文化」から2単位を含めて)	選択6単位以上
応用外国語科目群	「応用外国語」より選択(「外国語Ⅰ・Ⅱ」と同一言語)	選択4単位以上
研修・演習科目群	「語学研修」「国際演習」より選択	
キャップストーン科目	「グローバル理解演習」 ※履修には以下の条件を満たすことが必要) <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目: 2単位修得済 ・外国語科目: 4単位修得済(同一言語) ・グローバル理解科目: 4単位修得済 ・応用外国語、研修・演習科目: 2単位修得済 ※上記以外は「グローバル理解演習」と並行履修が可能	必修2単位
合 計		18単位

3) プログラムの特徴

国際教養教育プログラムは、グローバル社会の諸相について、座学に留まらない国内外での演習・研修を通して実践的に学ぶ課程です。同時に、英語に加えて少なくとも1つの外国語を選択し、その習得を目指します。副専攻の全課程(規定単位数18単位)を修了した学生に対し、修了証と『国際教養士』の称号が授与されます。

4) カリキュラム概要(履修の流れ)



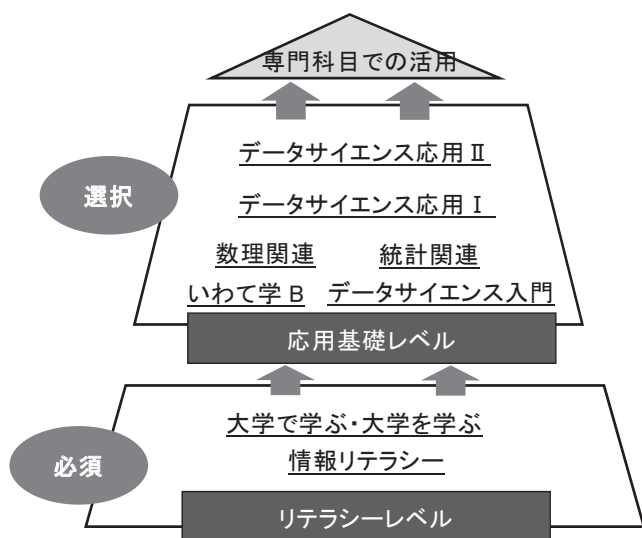
5) 国際教養教育プログラム科目一覧

科目名		単位数	修了要件単位数
コア科目	グローバル理解入門	2	必修2単位
外国語科目	中国語Ⅰ	2	必修4単位以上 (同一外国語Ⅰ・Ⅱをセットで)
	中国語Ⅱ	2	
	韓国語Ⅰ	2	
	韓国語Ⅱ	2	
	ドイツ語Ⅰ	2	
	ドイツ語Ⅱ	2	
	フランス語Ⅰ	2	
	フランス語Ⅱ	2	
	トルコ語Ⅰ	2	
	トルコ語Ⅱ	2	
	スペイン語Ⅰ	2	
	スペイン語Ⅱ	2	
グローバル理解科目	国際社会A	2	選択 「国際社会」から2単位、「国際文化」から2単位を含めて6単位以上
	国際社会B	2	
	国際社会C	2	
	国際社会D	2	
	国際社会E	2	
	国際社会F	2	
	国際文化A	2	
	国際文化B	2	
	国際文化C	2	
	国際文化D	2	
	国際文化E	2	
	国際文化F	2	
応用外国語	応用外国語A	2	選択 4単位以上 (「応用外国語」は「外国語Ⅰ・Ⅱ」と同一言語)
	応用外国語B	2	
	応用外国語C	2	
	応用外国語D	2	
	応用外国語E	2	
	応用外国語F	2	
語学研修	語学研修A	2	
	語学研修B	2	
	語学研修C	2	
	語学研修D	2	
国際演習	国際演習A	2	
	国際演習B	2	
キャップストーン科目	グローバル理解演習	2	必修2単位
副専攻の修了に必要な単位数			18単位以上

4 文理融合データサイエンス教育

数理・データサイエンス・AIは、今後のデジタル社会の基礎知識であり、すべての学部生が身につけておくべき素養ととらえ、本学では「文理融合データサイエンス教育プログラム」によって、大学における学び・研究、将来の仕事・生活に役立つ数理・データサイエンス・AIの知識・技術を体系的に学びます。本プログラムには、すべての学生が身につけるべき基礎的な「リテラシーレベル」と、その上に発展的に学ぶ「応用基礎レベル」があり、それぞれに学修目標・修了要件が定められています。

1) プログラムの科目編成と学修目標



応用基礎レベルの学修目標

- リテラシーレベルの発展的な内容を理解し、自らの専門分野の課題解決に数理・データサイエンス・AIを応用するための基礎能力を身につける。

リテラシーレベルの学修目標

- 数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのか理解し、自らの専門分野の学びに活用することができるための基礎的素養を身につける。

2) プログラムの修了要件

科目	修了要件		備考
	リテラシーレベル	応用基礎レベル	
プログラムリテラシー科目	必修2単位		大学で学ぶ・大学を学ぶ (1年次の全学共通科目)
	必修2単位		「情報リテラシー」 (1年次の全学共通科目)
統計関連科目		必修2単位	「統計学の基礎」(看護学部) 「統計学」(社会福祉学部) 「統計学」(ソフトウェア情報学部) 「統計学Ⅰ」(総合政策学部)
数理関連科目		必修2単位	「線形代数Ⅰ・解析学Ⅰ」 (ソフトウェア情報学部) 「数理の世界」 (ソフトウェア情報学部以外)
データサイエンス入門科目		選択2単位以上	「いわて学B」 「データサイエンス入門」 (1～4年次の全学共通科目)
データサイエンス応用科目		必修2単位	「データサイエンス応用Ⅰ」 (2～4年次の全学共通科目)
		必修2単位	「データサイエンス応用Ⅱ」 (3～4年次の全学共通科目)

3) 履修上の留意点

- ・教育プログラムへのエントリーは必要ありません（受講科目ごとの履修登録は必要です）。
- ・リテラシーレベルを修了した場合（必修2科目）、成績証明書にその旨が明記されます。
- ・応用基礎レベルを修了した場合、申請によって修了証が発行されます。
- ・応用基礎レベルについては、開講科目や修了要件など今後変更することがあります。

5 キャリア教育

卒業後、社会に出て様々なフィールドで活躍することを想定して入学してきているみなさんにとって、大学は専門知識や能力を学び深め、更には研究するとともに、実社会で活躍するため基礎的・汎用的に必要な意識や能力にも磨きをかける最終段階、と言うこともできます。

本学で開講している科目のうち、その役割を大きく担っている科目を本学の「キャリア教育」として提示しますので、その意識と目的を持ってこれらの科目を履修することを勧めます。

1 岩手県立大学のキャリア教育

岩手県立大学における「キャリア教育」は、それぞれの分野・テーマの学修・探究のなかで「社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現させること」も意図し、以下のいずれかの「基礎的・汎用的能力」を育てるものとしています。

能力	内容
① 人間関係形成・社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。 自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働することができる。
② 自己理解・自己管理能力	自分の価値観と将来的な可能性について肯定的に理解することができる。 自分の思考や感情をコントロールし、今後の成長のために主体的に学び、行動することができる。
③ 課題対応能力	社会における理想状態を想定することができ、現状とのギャップとなる問題を発見・分析することができる。 問題から様々な具体的な課題を設定し、習得した知識・スキルを用いて、自らが実現可能で適切な計画を立て、その課題を処理・解決することができる。
④ キャリアプランニング能力	働くことの意義を理解し、働くことに自らの価値を見出すことができる。 多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用し主体的に判断して自らのキャリアを形成できる。

2 該当科目一覧

各学部で学ぶ専門知識・能力を社会の中で発揮できるよう、キャリア教育も初年次から段階的に準備されています。

基盤教育	初年次必修
	大学で学ぶ・大学を学ぶ、基礎教養入門Ⅰ、基礎教養入門Ⅱ
	選択
いわて創造学習Ⅰ、いわて創造学習Ⅱ、いわて創造実践演習、人間と職業、キャリア地域学習	

看護	看護教育論、看護管理論、看護キャリア論、看護学序論、看護対人援助論、老年看護学概論、看護コミュニケーション論、地域・在宅看護論、成人看護学概論、小児看護学概論、母性看護学概論、精神看護学概論、国際文化看護論、いわて地域ヘルスケア探究Ⅰ、いわて地域ヘルスケア探究Ⅱ、看護研究入門、卒業研究
社会福祉	ソーシャルワーク入門、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ケア論、経営学、ソーシャルワーク論Ⅱ、児童福祉論Ⅱ、人間関係論（産業・組織心理学）、生活支援方法論、介護福祉演習Ⅰ、地域福祉調査実習、コミュニティ福祉サービス実習、臨床ソーシャルワークの展開、育児支援論、障害者ケア論、認知症ケア論、現代福祉特講A、介護福祉演習Ⅱ
ソフトウェア情報	スタディスキルズ、キャリアデザインⅠ、プロジェクト演習Ⅰ、プレインターンシップ、キャリアデザインⅡ、プロジェクト演習Ⅱ、システムデザイン論、システムデザイン実践論、システムデザインPBL、インターンシップ、情報と職業
総合政策	キャリア・デザインⅠ、キャリア・デザインⅡ、キャリア・デザインⅢ、法律・行政実習A、法律・行政実習B、経済実習、経営実習、地域環境調査実習A～E、共通調査実習、プレインターンシップ

盛岡短期	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ
------	---------------------

ソフトウェア情報学部

I ソフトウェア情報学部の概要

ソフトウェア情報学部の概要

1. ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)

● 目指す人材像

岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。

ソフトウェア情報学部では、コンピュータサイエンスに立脚し、利用者の立場からシステム的设计・開発を行うことのできる高度な専門性や豊かな人間性、並びに、数理科学を基盤とする情報技術(数理・情報技術)を用いて新たな価値やサービスを創出することのできる知的探求心と想像力を備え、地域社会と連携した実学・実践の教育研究を通して「人と数理・情報技術が調和した豊かな社会」の発展・高度化に寄与する人材の育成を図ります。

■ 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

● 卒業要件

本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えたものとして、学位「学士(ソフトウェア情報学)」を授与します。

● 卒業時に身につけておくべき能力

- DP1: 数理・情報技術の分野に興味を持ち、人間や社会に及ぼす影響や効果を理解でき、技術者が負っている責任を感じることができる。(社会への関心)
- DP2: 利用者の立場からシステムへの要求を考え、数理・情報技術を用いて問題を解決する方法を提案することができる。(課題発見・解決能力、専門知識)
- DP3: 数理・情報技術とシステムに関する幅広い知識とスキルを修得し、技術者の立場からそれを活用した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。(専門知識、幅広い教養)
- DP4: 様々な学びや体験の中から、自分の能力・適性を把握し、自主的・計画的・継続的に学習・研究を進めることができる。(自己研鑽力、幅広い教養)
- DP5: 論理的な文章を書き、自らの見解を分かりやすく伝達し、他者の意見を踏まえて議論することができる。(コミュニケーション能力)
- DP6: 知的探求心と想像力を持ち、絶えず発展し続ける数理・情報技術へ柔軟に対応した専門性を自ら高めていくことができる。(自己研鑽力、専門知識)

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

岩手県立大学の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた共通の柱及び学部ごとに設定する能力の育成のため、基盤教育科目と専門教育科目を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

基盤教育科目は、大学での学習活動の基盤を支える力を鍛える(つくる)【大学で学ぶ力をつくる】、地域・国際社会においてこれから必要とされる知識・技能を身につける【生きる世界を知る】、幅広く豊かな教養に基づく総合的な思考力・判断力を育成する【学問を知る・使う】ことを目的とし、以下のような科目群を開講します。

CP1: 基礎科目群

【大学で学ぶ力をつくる】大学での 4 年間の学び、また実社会に活用できるスキルの獲得と資質・能力・身体の育成を目指す科目として、「入門科目」「英語」「情報処理」「保健体育」を開講します。(DP4, DP5)

CP2: 教養科目群

【生きる世界を知る】それぞれの専門領域の知識・技術を活用する場としての「世界」を知ることを目指す科目として「地域教養」「国際教養」を開講します。(DP1)

【学問を知る・使う】それぞれの専門領域を学問全体(知の体系)の中に位置づけ、課題解決のための、他学問領域の「知」を活用できることを目指す科目として「基盤教養」「課題別教養」を開講します。(DP2)

ソフトウェア情報学部の専門教育科目では、ソフトウェア情報学の知識とスキルが身につく多彩な専門科目を体系的に学修するため、専門基礎科目、専門共通科目、関連科目、展開科目、キャリア学習科目、研究科目を階層的に編成し、下記 CP3～CP8 に示す方針で専門教育科目を配置しています。また、絶えず発展し続ける情報技術へ柔軟に対応した専門分野における人材を育成するため、複数のコースを設け、コース毎の学修に繋がる科目を配置します。そして、学部で学修した専門分野の知識とスキルをより発展させることができるよう、学部と研究科博士前期課程(修士課程)の接続を円滑にする一貫した教育カリキュラムを編成します。

これらの専門教育科目においては、個々の学生が各種の課題解決に向けて自らシステムの設定や環境構築を行い、必要なプログラムを開発できる情報端末を活用した授業を開講します。さらに、複数の情報端末を協調させて能動的な学習等を効果的に進めることができる IT 環境を利用した授業を開講します。

CP3: 初年次教育の充実を図り、専門への導入を円滑にするため、「専門基礎科目」を開講します。(DP3)

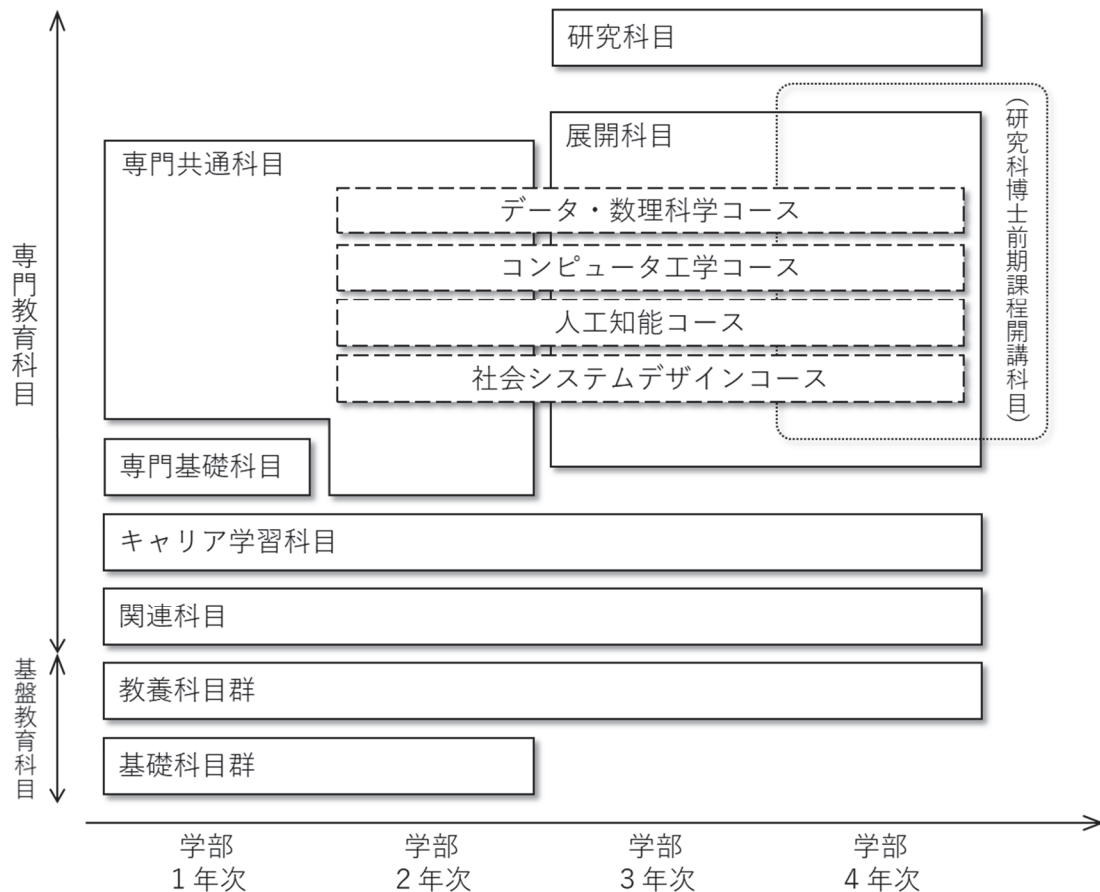
CP4: ソフトウェア情報学における幅広い専門知識を身につけるため、ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎科目で構成される「専門共通科目」を開講します。(DP3, DP6)

CP5: 人間や社会と情報技術を結びつけるための科目で構成される「関連科目」を開講します。(DP1, DP2, DP3, DP5)

CP6: 実践的なスキルを向上させるための多様な科目で構成される「展開科目」を開講します。(DP2, DP3, DP6)

CP7: 自己を磨き自らの進む進路を見つける科目と、チームで問題発見・解決する能力を養うための科目で構成される「キャリア学習科目」を開講します。(DP2, DP4, DP5, DP6)

CP8: 実践力養成のために少人数ゼミによる教育を重視した「研究科目」を開講します。(DP3, DP4, DP5, DP6)



● 各年次における学び

【1年次】社会への関心、幅広い教養

基盤教育科目、専門基礎科目、専門共通科目により、幅広い専門分野の知識・技術の基礎を網羅的に把握します。キャリア学習科目群においては、実践的に問題分析・問題解決の基礎を学びます。また、2年次におけるコース選択を念頭におき、授業や課外における調査を行います。

【2年次】専門知識、課題発見・解決能力

専門共通科目により、幅広い専門分野の知識・技術を深めるとともに、将来を見据えてコース指定科目および関連科目から選択し、自らの専門分野を深めます。キャリア学習科目群においては、1年次の経験を活かした問題分析・問題解決を実践します。また、3年次における研究室配属を念頭におき、授業や課外における調査を行います。

【3年次】課題発見・解決能力、コミュニケーション能力

展開科目により、自らの専門分野の知識・技術をより深めるとともに、4年次における研究テーマ選択を念頭におき、研究科目において、実践的に専門分野の知識・技術を修得します。キャリア学習科目群においては、上級生としてチームをまとめながら問題分析・問題解決に取り組みます。

【4年次】自己研鑽力、コミュニケーション能力

展開科目により、自らの専門分野の知識・技術をより深めるとともに、研究テーマを定め、主体的に推進します。

2. 教育課程の内容

本学部で行う教育は、コンピュータサイエンスを基本とし、基盤システムに関するソフトウェアから現実の社会等への応用を主眼とした応用システムに関するソフトウェアまでを対象としています。

本学部の専門科目は、学部共通の「専門共通科目」を基礎として、それぞれの専門領域に応じて「展開科目」の中から必要な科目を選択履修することにより、専門的な知識を身につけることができる内容になっています。

さらに、専門領域外の科目で構成する「関連科目」の中から必要な科目を履修することにより、専門的な理解をより深めるとともに、その効果的な活用を図るための知識を修得することができます。

また、「キャリア学習科目」では、価値創造や学びという概念を修得し、「研究科目」において総合的な専門知識の活用を推進することで、社会における実践力を養います。

3. 教育課程の特色

● 人間性を培う教養教育

それぞれの専門知識の修得はもとより、豊かな教養の修得と人間尊重の精神を涵養するため、人間性を培う特色ある教養教育を積極的に推進しています。その一環として、1～2年次は、学生間の交流が可能なクラスルームに所属し、3年次からは研究室に所属するなど、常に交流できる環境を設けています。授業においては、1年次からグループ演習を多く取り入れており、2年次から始まる専門性を活かした将来を考える授業では、卒業生の業務経験や人生を知るなど、多様な機会を設けています。

● 四学部の連携を考慮した教育研究活動

四つの学部で構成されていることの特徴を活かし、学際的領域を重視した特色ある教育・研究をおこなうために、学部間連携による共同研究など学際的、総合的な教育研究活動を推進しています。

● 地域に根ざした実学・実践的教育研究活動

地域社会における実践的対応能力を身につけるために、演習を重視するなど実学的教育を多く取り入れています。さらに、地域に根ざした課題に対する実学・実践的教育研究活動を推進しています。

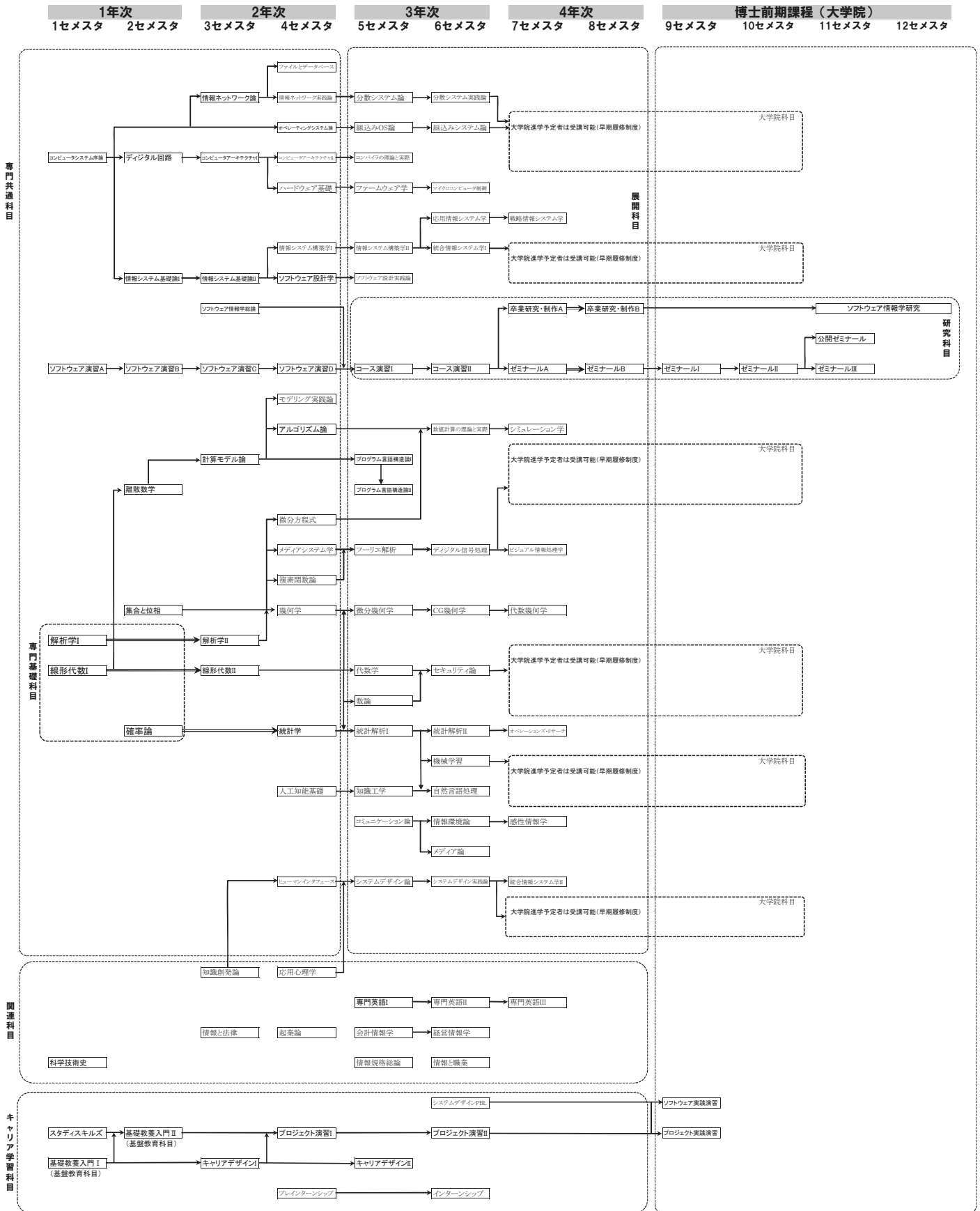
● 地域に開かれた大学としての教育研究活動

地域住民の多様な学習ニーズに応じていくために、社会人の受け入れ、施設の開放、公開講座などを積極的に推進しています。また、地域産業の発展に寄与するために、産業界との人的交流、受託研究、共同研究などを通じて、多様かつ柔軟な研究活動を推進しています。さらに、他大学との関係においても、大学間の交流を密にし、教員・学生の交流、単位互換などを推進しています。

● 国際的な教育研究活動

外国人留学生の受け入れなど多様な国際交流を積極的に推進しています。また、教員の海外派遣など、教育・研究における交流を推進しています。この視点から、英語をはじめ7ヶ国語という充実した外国語科目が用意されています。地域に根ざした実学・実践を基本的立場とし、現実にソフトウェアの設計・開発・管理を行いうる人材を育成するため、演習を重視するなど実学的教育を多く取り入れています。

4. カリキュラム体系図



→ 特に関連する科目
 ⇒ 先修条件科目(単位を取得しないと次の科目を履修できません)

ゴシック体の科目名: 必修科目
 明朝体の科目名: 選択科目

5. 先修条件

学部開講科目のうち、下記に示す科目は、対応する先修条件科目の単位を修得していなければ履修することができません。

科目名	先修条件科目名
線形代数Ⅱ	線形代数Ⅰ
解析学Ⅱ	解析学Ⅰ
統計学	確率論
ゼミナール B	ゼミナール A
卒業研究・制作 B	卒業研究・制作 A

6. 先行履修制度

学部開講科目のうち、線形代数Ⅰ、解析学Ⅰ、確率論は、数学プレイスメント・テストに合格することにより単位が認定されます。

テストに合格した場合、合格した科目と同一学期に開講される先行履修科目を履修登録して受講します。

合格科目名	先行履修科目名
線形代数Ⅰ(1年次)	線形代数Ⅱ(2年次)
解析学Ⅰ(1年次)	解析学Ⅱ(2年次)
確率論(1年次)	統計学(2年次)

7. 履修登録の上限

本学部において、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は 24 単位です。ただし、以下の科目は登録できる単位数に含まれません。

- 自由聴講科目(教職科目等)
- プレイスメント・テストの合格により、線形代数Ⅰ、解析学Ⅰ、確率論が単位認定された場合における同一学期の先行履修科目(線形代数Ⅱ、解析学Ⅱ、統計学;入学年次のみ)
- プレインターンシップ、インターンシップ
- いわて創造学習Ⅰ、Ⅱ

8. 履修登録上限の緩和

《成績優秀者》

2年次以降、前年度終了時点において通算 GPA が 3.0 以上の場合は、半期あたり 4 単位を追加で履修できます。

《編入学生》

編入学生の上限は 28 単位です。

9. 進級要件

《2年次への進級》

1年次終了時点において卒業要件単位から20単位以上を修得していること。

《3年次への進級》

ソフトウェア演習 A, B の単位を修得していること、および、2年次終了時点において卒業要件単位から1/2以上 (65 単位以上)を修得していること。

《4年次への進級》

コース演習 I, II の単位を修得していること、および、3年次終了時点において卒業要件単位から3/4以上 (98 単位以上)を修得していること。

※ 教務委員会 WEB で配布しているガイダンス資料も熟読してください。

<http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~kyomu>

10. 卒業要件

本学部を卒業するためには、4年以上在学し、次の表に示す所定の単位を修得しなければなりません。

区 分		配 当 単位数	卒業要件単位数				
			必 修	選 択	計		
基盤教育科目	基礎科目	入門科目	4	—	4		
		英語	8	—	8		
		情報処理	2	—	2		
		保健体育	3	—	1		
	教養科目	地域教養	地域理解	14	—	16 (注1)	
			地域学習	16			
		国際教養	外国語	44			
			グローバル理解	32			
		データサイエンス教養	6				
		基盤教養	40				
課題別教養	32						
計		201	14	17	31		
専門科目	専門基礎科目	3	3	30 (注2)	80		
	キャリア学習科目	14	6				
	専門共通科目	60	36				
	展開科目	72	4				
	関連科目	24	4				
	研究科目(注3)	28	12			4	16
	教職科目	44					
計		245	65	34	99		
		446	79	51	130		

注1) 教養科目は、地域教養・国際教養・データサイエンス教養から4単位、基盤教養・課題別教養から4単位を含めて計16単位以上

注2) コース指定科目から6単位以上を含めて30単位以上

注3) 研究科目は、所属コース・研究室の開講科目を履修する

注4) 単位互換により他大学で修得した単位は、教養科目で4単位以内、関連科目で4単位以内を本学で修得した単位として事前審査を経て認定する場合がある

11. 早期履修制度

ソフトウェア情報学部 4 年次に在籍しており、同研究科へ進学を希望する場合、学部 4 年次のときに大学院の授業を履修することができます。本制度は、学部・大学院の 6 年一貫教育の考えに基づく仕組みで、早期に高度な知見を獲得し、卒業研究および大学院において、より深く研究を行う目的で設立されました。

募集人員	対象科目ごとに 5 名程度
履修可能時期	4 年次前期・後期
履修上限単位数	半期あたり 4 科目 4 単位
対象科目	別途定める
選考方法	4 年次進級時の GPA に基づく
授業料	無料
修得単位の取り扱い	自由聴講科目（進学時に既修得単位として認定される）

申請に関する詳しい情報は、大学院教務委員会の WEB サイトを参照してください。

◆早期履修制度に関する情報・質問先

大学院教務委員会 WEB <http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~gr-kyomu/>
 大学院教務委員会メールアドレス grad-kyomuiin@ml.iwate-pu.ac.jp

12. 困ったとき

学生の計画的かつ自発的な学習を促すとともに、学生同士のコミュニティ形成をねらい、1～2 年生はクラス、3～4 年生は研究室に所属します。困ったことがあったら、まずクラス・研究室の同級生・上級生に相談しましょう。それでも解決できない場合には、総合窓口である学生センターに行ってみましょう（クラス担任、研究室の指導教員に相談することも可能ですが、不在の場合もあります）。

また、クラス・研究室とは別に、学習支援を行う場として、学習支援コーナーがあります（ソフトウェア情報学部 A 棟 2 階）。教員および上級生によるフォローが受けられますので、基礎学力に不安のある学生は、早めの相談をおすすめします。

より詳細な情報は、担当委員会で情報提供をしていますので、そちらも参照して下さい。

◆相談窓口

総合： 学生センター（本部棟 1 階）、学部事務室（ソフトウェア情報学部 A 棟 3 階）
 就職： キャリアセンター（本部棟 1 階）、就職資料室（ソフトウェア情報学部 A 棟 3 階）
 学習： 学習支援コーナー（ソフトウェア情報学部 A 棟 2 階）

◆学生向け情報

学生向け学内総合ページ <https://www.soft.iwate-pu.ac.jp/internal/>
 教務委員会 <http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~kyomu/>
 （カリキュラム、クラス配属・研究室配属）
 学生委員会 <http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~student/>
 （クラスルーム担任、学生面談、学籍異動）
 就職委員会 <http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~softjob/IPU/>

13. 履修モデル

卒業後の進路としては、全履修モデルに共通して、民間就職、大学院進学、公務員、高等学校の教員(情報、数学)などが挙げられます。就職先は、通信・情報・ソフトウェア業界を中心に、銀行業界、印刷業界、新聞業界、エンターテインメント業界など多岐にわたります。

本学部のカリキュラムは、日本技術者教育認定機構JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) のコンピュータサイエンスと情報システムという2分野で認定を受けた(2003～2007 年度)内容を基盤とし、さらに拡充して構築しています。自分の将来の技術者像をイメージしながら学生生活を送ってください。

《データ・数理科学コース》

データ数理科学コースでは、メーカー等の研究開発者、データサイエンティスト等を職種として想定し、数学、マルチメディア、人工知能といったコンピュータサイエンスのカリキュラムの基盤となる科目を中心に構成しており、情報数理科学モデルとデータサイエンスモデルの2履修モデルを設定しています。

本コースでは、メディアシステム学、フーリエ解析、デジタル信号処理、数値計算の理論と実際、人工知能基礎、統計解析Ⅰ・Ⅱが、コース指定科目です。

情報数理科学モデル

情報数理科学モデルは、コンピュータサイエンスの色が最も強いカリキュラムを編成しており、数学、メディアや人工知能に関する科目を網羅的に履修します。

データサイエンスモデル

データサイエンスは、統計解析が基盤であり、統計解析を中心に、人工知能に関する科目、結果をCGで表現するための科目を履修します。

《コンピュータ工学コース》

コンピュータ工学コースでは、メーカー等のソフトウェア開発者、ネットワークエンジニア、システムエンジニアやロボット技術者等を職種として想定し、セキュリティ、ネットワークシステムやデータベースシステムなどの基盤となるソフトウェアに関する科目を中心に構成しており、ネットワークシステムモデル、組み込みソフトウェアモデルとセキュリティシステムモデルの3履修モデルを設定しています。

本コースでは、情報ネットワーク実践論、分散システム論、分散システム実践論、モデリング実践論、組込みOS論、組込みシステム論、数論、代数学、セキュリティ論が、コース指定科目です。

ネットワークシステムモデル

ネットワークシステムモデルでは、ネットワークシステムの主流である分散システムを中心に、システムの信頼性や性能に関する知識が必要であることから、関連する科目を履修します。

組み込みソフトウェアモデル

組み込みソフトウェアモデルでは、組み込みシステムやロボットがハードウェアに密接に関連していることから、ハードウェアに関する基礎的な知識も必要であり、関連する科目を履修します。

セキュリティシステムモデル

セキュリティシステムモデルでは、セキュリティとネットワークシステムが密接に関連していることから、システム構築に必要な科目および、セキュリティの理論に必要な数学に関連する科目を履修します。

《人工知能コース》

人工知能コースでは、AIエンジニア、メディアを用いたシステムエンジニアを職種として想定し、人工知能やメディア表現に関する科目を中心に構成しており、メディアシステムモデルと知識情報処理モデルの2履修モデルを設定しています。

本コースでは、メディアシステム学、フーリエ解析、デジタル信号処理、CG 幾何学、人工知能基礎、知識工学、機械学習が、コース指定科目です。

メディアシステムモデル

メディアシステムモデルでは、メディアコンテンツを生成・処理する技術が基盤であり、デジタル技術に関する科目を中心に、あわせて活用されることの多い人工知能に関する科目を履修します。

知識情報処理モデル

知識情報処理モデルでは、AI システムの構築において、入力された情報の解釈を行う仕組み、解釈された結果を視覚化する仕組みが必要であり、関連する科目を履修します。

《社会システムデザインコース》

社会システムデザインコースでは、企業のデジタル事業部門、製品開発部門、流通・金融業界の情報システム部門、自治体の情報企画部門等の技術者を職種として想定し、システム設計、開発、管理等に関する科目を中心に構成しており、情報システムモデルとシステムデザインの2履修モデルを設定しています。

本コースでは、情報システム構築学 I・II、統合情報システム学 I、ヒューマンインタフェース、システムデザイン論、システムデザイン実践論が、コース指定科目です。

情報システムモデル

情報システムモデルでは、情報システムの開発能力に加え、経営的な視点を持つことが人材的な価値を高めることから、システム設計および経営に関する科目を履修します。

システムデザインモデル

システムデザインモデルでは、ある課題を解決するためのシステムの設計において人間中心設計を取り入れ、ユーザー視点で使いやすいシステムを設計する理論を実践的に学ぶための科目を履修します。

データ・数理科学(情報数理科学モデル) ★は必修科目, ☆はコース指定科目, ()内は単位数

	1年次前期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	
専門基礎	★情報代教(1) ★線形代教(1)	★キャリアデザイン(I) ★ソフトウェア演習(I)	★プロジェクト演習(I) ★ソフトウェア演習(I)	★キャリアデザイン(II) ★プロジェクト演習(II)	★プロジェクト演習(II)			
キャリア教育	★キャリアデザイン(I) ★ソフトウェア演習(I)	★キャリアデザイン(II) ★プロジェクト演習(II)	★キャリアデザイン(II) ★プロジェクト演習(II)					
専門共通	★離散数学(2) ★集合と位相(2) ★微分積分(2) ★コンビューター・ケータチヤ(2)	★計算モデル論(2) ★線形代教(2) ★情報システム基礎論(2) ★コンビューター・ケータチヤ(2)	★統計学(2) ★オペレーティングシステム論(2) ★ソフトウェア設計学(2)	★プログラム言語構造論(2) ★プログラム言語構造論(2) ★データ構造とアルゴリズム(2)				
関係教育	★コンビューター・ケータチヤ(2)	★情報ネットワーク論(2) ★情報システム基礎論(2)	★ソフトウェア情報学総論(2)	★フュージョン解析(2) ★フュージョン解析と実践(2)	★デジタル情報処理(2) ★数値計算の理論と実践(2)			
関連	★科学技術史(2)		★知的創造論(2)	★知能工学(2)	★感性情報学(2)			
研究				★専門英語(2)	★専門英語(2)			
基礎教育	★英語基礎演習Ⅰ・実践演習Ⅰ ★情報リテラシー ★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ	★英語基礎演習Ⅱ・実践演習Ⅱ ★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目×3 ★体育実践 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ ★必修0 選択0 ★必修1 選択1 ★必修2 選択2	★英語基礎演習Ⅲ・実践演習Ⅲ ★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目×3 ★体育実践 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ ★必修10 選択0 ★必修16 選択2 ★必修7 選択1 ★必修8 選択2	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目(地域・国際) ★必修10 選択0 ★必修2 選択2	★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目(地域・国際) ★必修7 選択1 ★必修8 選択2 ★必修10 選択0 ★必修12 選択0 ★必修13 選択0 ★必修14 選択0 ★必修15 選択0 ★必修16 選択0 ★必修17 選択0 ★必修18 選択0 ★必修19 選択0 ★必修20 選択0	★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目(地域・国際) ★必修10 選択0 ★必修12 選択0 ★必修13 選択0 ★必修14 選択0 ★必修15 選択0 ★必修16 選択0 ★必修17 選択0 ★必修18 選択0 ★必修19 選択0 ★必修20 選択0	★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目(地域・国際) ★必修10 選択0 ★必修12 選択0 ★必修13 選択0 ★必修14 選択0 ★必修15 選択0 ★必修16 選択0 ★必修17 選択0 ★必修18 選択0 ★必修19 選択0 ★必修20 選択0	
単位数	22	22	20	20	20	10	12	

データ・数理科学(データサイエンスモデル) ★は必修科目, ☆はコース指定科目, ()内は単位数

	1年次前期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	
専門基礎	★情報代教(1) ★線形代教(1)	★キャリアデザイン(I) ★ソフトウェア演習(I)	★プロジェクト演習(I) ★ソフトウェア演習(I)	★キャリアデザイン(II) ★プロジェクト演習(II)	★プロジェクト演習(II)			
キャリア教育	★キャリアデザイン(I) ★ソフトウェア演習(I)	★キャリアデザイン(II) ★プロジェクト演習(II)	★キャリアデザイン(II) ★プロジェクト演習(II)					
専門共通	★離散数学(2) ★集合と位相(2) ★微分積分(2) ★コンビューター・ケータチヤ(2)	★計算モデル論(2) ★線形代教(2) ★情報システム基礎論(2) ★コンビューター・ケータチヤ(2)	★統計学(2) ★オペレーティングシステム論(2) ★ソフトウェア設計学(2)	★プログラム言語構造論(2) ★プログラム言語構造論(2) ★データ構造とアルゴリズム(2)				
関係教育	★コンビューター・ケータチヤ(2)	★情報ネットワーク論(2) ★情報システム基礎論(2)	★ソフトウェア情報学総論(2)	★フュージョン解析(2) ★フュージョン解析と実践(2)	★デジタル情報処理(2) ★数値計算の理論と実践(2)			
関連	★科学技術史(2)		★知的創造論(2)	★知能工学(2)	★感性情報学(2)			
研究				★専門英語(2)	★専門英語(2)			
基礎教育	★英語基礎演習Ⅰ・実践演習Ⅰ ★情報リテラシー ★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ	★英語基礎演習Ⅱ・実践演習Ⅱ ★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目×3 ★体育実践 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ ★必修0 選択0 ★必修10 選択0 ★必修7 選択1 ★必修8 選択2	★英語基礎演習Ⅲ・実践演習Ⅲ ★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目×3 ★体育実践 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ ★必修10 選択0 ★必修16 選択2 ★必修7 選択1 ★必修8 選択2	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目(地域・国際) ★必修10 選択0 ★必修2 選択2	★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目(地域・国際) ★必修7 選択1 ★必修8 選択2 ★必修10 選択0 ★必修12 選択0 ★必修13 選択0 ★必修14 選択0 ★必修15 選択0 ★必修16 選択0 ★必修17 選択0 ★必修18 選択0 ★必修19 選択0 ★必修20 選択0	★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目(地域・国際) ★必修10 選択0 ★必修12 選択0 ★必修13 選択0 ★必修14 選択0 ★必修15 選択0 ★必修16 選択0 ★必修17 選択0 ★必修18 選択0 ★必修19 選択0 ★必修20 選択0	★基礎教養入門Ⅲ ★教養科目(地域・国際) ★必修10 選択0 ★必修12 選択0 ★必修13 選択0 ★必修14 選択0 ★必修15 選択0 ★必修16 選択0 ★必修17 選択0 ★必修18 選択0 ★必修19 選択0 ★必修20 選択0	
単位数	22	22	20	20	20	10	12	

コンピュータ工学(セキユリティシステムモデル) ★は必修科目, ☆はコース指定科目, ()内は単位数

	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
専門基礎	★前近代数学(1) ★解析学(1) ★スタタスキズ(2) ★ソフトウェア演習A(1)	★算数(1) ★ソフトウェア演習B(1) ★離散数学(2) ★集合と位相(2) ★解析学II(2) ★デジタル回路(2) ★コンピュータシステム基礎論(2)	★キャリアデザイン(1) ★ソフトウェア演習C(1) ★離散数学(2) ★線形代数II(2) ★解析学III(2) ★コンピュータアーキテクチャII(2) ★情報ネットワーク論(2) ★情報システム基礎論II(2) ★ソフトウェア情報学総論(2)	★プロジェクト演習(1) ★ソフトウェア演習D(1) ★アルゴリズム論(2) ★統計学(2) ★オペレーティングシステム論(2) ★ソフトウェア設計学(2) ★ファイルとデータベース(2) ★情報ネットワーク実践論(2) ★情報システム構築学(2) ★応用心理学(2) ★英高基礎演習IV・実践演習IV	★キャリアデザインII(1) ★ソフトウェア演習II(1) ★プログラム言語構造論(2) ★プログラム言語構造論II(2) ★ソフトウェア設計実践論(2) ★数論(2) ★代数学(2) ★情報システム構築学II(2) ★専門英語(2) ★情報総論(2) ★コンピュータ工学演習(2)	★プロジェクト演習III(1) ★セキユリティ論(2) ★数値計算の理論と実験(2) ★専門英語III(2) ★シミュレーション学(2) ★卒業研究・制作A(4) ★卒業研究・制作B(4)	(大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目)
関連	★科学技術法(2)		★情報と法律(2)				
研究							
基礎教育	★英高基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門I ★英高基礎演習II・実践演習II ★基礎教養入門II ★英高基礎演習III・実践演習III ★基礎教養入門III	★英高基礎演習I・実践演習I ★基礎教養入門I ★英高基礎演習II・実践演習II ★基礎教養入門II ★英高基礎演習III・実践演習III ★基礎教養入門III	★英高基礎演習IV・実践演習IV ★基礎教養入門IV ★英高基礎演習V・実践演習V ★基礎教養入門V	★英高基礎演習IV・実践演習IV ★基礎教養入門IV ★英高基礎演習V・実践演習V ★基礎教養入門V	★英高基礎演習IV・実践演習IV ★基礎教養入門IV ★英高基礎演習V・実践演習V ★基礎教養入門V	★英高基礎演習IV・実践演習IV ★基礎教養入門IV ★英高基礎演習V・実践演習V ★基礎教養入門V	
専門	★大文字学・工学を学ぶ ★必修9 選択0	★必修10 選択0 ★必修11 選択0	★必修12 選択12 ★必修13 選択0	★必修14 選択0 ★必修15 選択0	★必修16 選択0 ★必修17 選択0	★必修18 選択0 ★必修19 選択0	★必修20 選択0
基礎教育	★必修1 選択0 ★必修2 選択0	★必修3 選択0 ★必修4 選択0	★必修5 選択0 ★必修6 選択0	★必修7 選択0 ★必修8 選択0	★必修9 選択0 ★必修10 選択0	★必修11 選択0 ★必修12 選択0	★必修13 選択0 ★必修14 選択0
合計	22単位	20単位	22単位	19単位	9単位	10単位	8単位
							130単位

人工知能(メディアシステムモデル) ★は必修科目, ☆はコース指定科目, ()内は単位数				
	1年次前期	2年次前期	3年次前期	4年次前期
専門基礎	★情報代数(1) ★線形代数(1)	★キャリアデザイン(1) ★ソフトウェア演習(1)	★キャリアデザイン(1)	
キャリア学習	★ソフトウェア演習B(1)	★ソフトウェア演習(1) ★アルゴリズム論(2)	★ソフトウェア演習(1)	
専門基礎	★離散数学(2) ★集合と位相(2) ★ディジタル回路(2)	★計算モデル論(2) ★線形代数II(2) ★統計学(2) ★コンビューターアーキテクチャ(2)	★ソフトウェア演習(1) ★アルゴリズム論(2) ★統計学(2) ★オペレーティングシステム論(2)	
基礎教育	★コンピュータシステム序論(2)	★情報ネットワーク論(2) ★情報システム基礎論(2)	★プログラム言語構造論(2) ★プログラム言語構造論II(2)	(大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目)
関 連	★科学技術史(2)	★ソフトウェア情報学総論(2)	★メディア論(2) ★情報環境論(2) ★デジタル信号処理(2) ★CG画像論(2) ★機械学習(2)	ビジュアル情報処理学(2)
研 究		知識論発論(2)	★人工知能基礎(2) ★人工知能工学(2) ★専門英語(2)	感性情報学(2)
基礎教育	★英語基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門I ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修9 選択0 必修7 選択6 必修3 選択0	★英語基礎演習II・実践演習II ★基礎教養入門II ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修9 選択0 必修7 選択6 必修3 選択0	★人工知能演習(2) ★ゼミナールA(2) ★卒業研究・制作A(4)	★ゼミナールB(2) ★卒業研究・制作B(4)
含 計	22単位	22単位	13単位	6単位
			15単位	10単位
			13単位	6単位
			22単位	130単位

人工知能(知識情報処理モデル) ★は必修科目, ☆はコース指定科目, ()内は単位数				
	1年次前期	2年次前期	3年次前期	4年次前期
専門基礎	★情報代数(1) ★線形代数(1)	★キャリアデザイン(1) ★ソフトウェア演習(1)	★キャリアデザイン(1)	
キャリア学習	★ソフトウェア演習B(1)	★ソフトウェア演習(1) ★アルゴリズム論(2)	★ソフトウェア演習(1)	
専門基礎	★離散数学(2) ★集合と位相(2) ★ディジタル回路(2)	★計算モデル論(2) ★線形代数II(2) ★統計学(2) ★コンビューターアーキテクチャ(2)	★ソフトウェア演習(1) ★アルゴリズム論(2) ★統計学(2) ★オペレーティングシステム論(2)	
基礎教育	★コンピュータシステム序論(2)	★情報ネットワーク論(2) ★情報システム基礎論(2)	★プログラム言語構造論(2) ★プログラム言語構造論II(2)	(大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目)
関 連	★科学技術史(2)	★ソフトウェア情報学総論(2)	★メディア論(2) ★情報環境論(2) ★デジタル信号処理(2) ★CG画像論(2) ★機械学習(2)	ビジュアル情報処理学(2)
研 究		知識論発論(2)	★人工知能基礎(2) ★人工知能工学(2) ★専門英語(2)	感性情報学(2)
基礎教育	★英語基礎演習I・実践演習I ★情報リテラシー ★基礎教養入門I ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修9 選択0 必修7 選択6 必修3 選択0	★英語基礎演習II・実践演習II ★基礎教養入門II ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修9 選択0 必修7 選択6 必修3 選択0	★人工知能演習(2) ★ゼミナールA(2) ★卒業研究・制作A(4)	★ゼミナールB(2) ★卒業研究・制作B(4)
含 計	22単位	22単位	17単位	6単位
			19単位	10単位
			13単位	6単位
			22単位	130単位

社会システムデザイン(情報システムモデル) ★は必修科目, ☆はコース指定科目, ()内は単位数

	1年次前期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
専門基礎	★電算論(1)						
キャリア学習 専門共通	★情報代数Ⅰ ★システムスキルズ(2) ★ソフトウェア演習A(1)	★キャリアデザイン(1) ★ソフトウェア演習C(1) ★計算モデル論(2) ★線形代数Ⅱ(2) ★統計学(2) ★コンビューターアーキテクチャ(2)	★プロジェクト演習(1) ★ソフトウェア演習D(1) ★アルゴリズム論(2) ★統計学(2) ★オペレーティングシステム論(2)	★キャリアデザイン(1)	★プロジェクト演習(1)		
関 連	★科学技術史(2)	★情報ネットワーク論(2) ★情報システム基礎論(2)	★情報ネットワーク実践論(2) ★ソフトウェア情報学総論(2)	ソフトウェア設計実践論(2)	情報環境論(2)	(大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目)	(大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目)
研 究			情報と法律(2)	社会システムデザイン演習(2)	応用情報システム学(2) 総合情報システム学(2)	総合情報システム学(2)	総合情報システム学(2)
基礎教育	★英語基礎演習Ⅰ・実践演習Ⅰ ★情報リテラシー ★基礎教養入門Ⅰ ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修9 選択0 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅱ・実践演習Ⅱ ★基礎教養入門Ⅱ ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修10 選択0 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅲ・実践演習Ⅲ ★基礎教養入門Ⅲ ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修10 選択0 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6
合 計	22単位	22単位	22単位	17単位	13単位	10単位	6単位
							130単位

社会システムデザイン(システムデザインモデル) ★は必修科目, ☆はコース指定科目, ()内は単位数

	1年次前期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	
専門基礎	★電算論(1)							
キャリア学習 専門共通	★情報代数Ⅰ ★システムスキルズ(2) ★ソフトウェア演習A(1)	★キャリアデザイン(1) ★ソフトウェア演習C(1) ★計算モデル論(2) ★線形代数Ⅱ(2) ★統計学(2) ★コンビューターアーキテクチャ(2)	★プロジェクト演習(1) ★ソフトウェア演習D(1) ★アルゴリズム論(2) ★統計学(2) ★オペレーティングシステム論(2)	★キャリアデザイン(1)	★プロジェクト演習(1)			
関 連	★科学技術史(2)	★情報ネットワーク論(2) ★情報システム基礎論(2)	★情報ネットワーク実践論(2) ★ソフトウェア情報学総論(2)	ソフトウェア設計実践論(2)	情報環境論(2)	(大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目)	(大学院早期履修科目) (大学院早期履修科目)	
研 究			情報と法律(2)	社会システムデザイン演習(2)	応用情報システム学(2) 総合情報システム学(2)	総合情報システム学(2)	総合情報システム学(2)	
基礎教育	★英語基礎演習Ⅰ・実践演習Ⅰ ★情報リテラシー ★基礎教養入門Ⅰ ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修9 選択0 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅱ・実践演習Ⅱ ★基礎教養入門Ⅱ ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修10 選択0 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅲ・実践演習Ⅲ ★基礎教養入門Ⅲ ★基礎科目×3 ★大学で学ぶ・大学を学ぶ 必修10 選択0 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6	★英語基礎演習Ⅳ・実践演習Ⅳ ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) ★基礎科目(地域・国際) 必修10 選択6 必修7 選択6
合 計	22単位	22単位	22単位	17単位	13単位	12単位	6単位	
							130単位	

Ⅱ 授 業 科 目

1 専門科目

授業科目の名称		開講年次	単位数			GPA 対象	備考
			必修	選択	自由		
専門 基礎科目	線形代数 I	1前、1後	1			—	必修： 3単位
	解析学 I	1前、1後	1			—	
	確率論	1後、2前	1			—	
キャリア 学習科目	キャリアデザイン I	2前	1			○	必修： 6単位 選択： キャリア学習科目、専門共通科目、展開科 目、関連科目の中から30単位以上を修得す る必要がある。 選択(コース)： 選択科目30単位のうち、コース指定科目 から6単位以上を修得する必要がある。
	キャリアデザイン II	3前	1			○	
	プロジェクト演習 I	2後	1			○	
	プロジェクト演習 II	3後	1			○	
	スタディスキルズ	1前	2			○	
	システムデザイン論	3前		2		○	
	システムデザイン実践論	3後		2		○	
	システムデザインPBL	3後		2		—	
	ブレインターンシップ	2後		1		○	
	インターンシップ	3後		1		○	
専門 共通科目	ソフトウェア演習A	1前	1			○	必修： 36単位 選択： キャリア学習科目、専門共通科目、展開科 目、関連科目の中から30単位以上を修得す る必要がある。 選択(コース)： 選択科目30単位のうち、コース指定科目 から6単位以上を修得する必要がある。
	ソフトウェア演習B	1後	1			○	
	ソフトウェア演習C	2前	1			○	
	ソフトウェア演習D	2後	1			○	
	アルゴリズム論	2後	2			○	
	オペレーティングシステム論	2後	2			○	
	線形代数 II	2前	2			○	
	解析学 II	2前	2			○	
	計算モデル論	2前	2			○	
	コンピュータアーキテクチャ I	2前	2			○	
	コンピュータアーキテクチャ II	2後		2		○	
	コンピュータシステム序論	1前	2			○	
	情報システム基礎論 I	1後	2			○	
	情報システム基礎論 II	2前	2			○	
	情報ネットワーク論	2前	2			○	
	情報ネットワーク実践論	2後		2		○	
	集合と位相	1後	2			○	
	ソフトウェア情報学総論	2前	2			○	
	ソフトウェア設計学	2後	2			○	
	デジタル回路	1後	2			○	
	統計学	2後	2			○	
	離散数学	1後	2			○	
	幾何学	2後		2		○	
	複素関数論	2後		2		○	
	微分方程式	2後		2		○	
情報システム構築学 I	2後		2		○		
人工知能基礎	2後		2		○		
ハードウェア基礎	2後		2		○		
ヒューマンインタフェース	2後		2		○		
ファイルとデータベース	2後		2		○		
メディアシステム学	2後		2		○		
モデリング実践論	2後		2		○		
展開 科目	オペレーションズ・リサーチ	4前		2		○	必修： 4単位 選択： キャリア学習科目、専門共通科目、展開科 目、関連科目の中から30単位以上を修得す る必要がある。 選択(コース)： 選択科目30単位のうち、コース指定科目 から6単位以上を修得する必要がある。
	応用情報システム学	3後		2		○	
	感性情報学	4前		2		○	
	組込みOS論	3前		2		○	
	組込みシステム論	3後		2		○	
	コミュニケーション論	3前		2		○	
	コンパイラの理論と実際	3前		2		○	
	CG幾何学	3後		2		○	
	自然言語処理	3後		2		○	
	シミュレーション学	4前		2		○	
	情報環境論	3後		2		○	
	情報システム構築学 II	3前		2		○	
	数値計算の理論と実際	3後		2		○	
	代数学	3前		2		○	
	数論	3前		2		○	
微分幾何学	3前		2		○		
代数幾何学	4前		2		○		
セキュリティ論	3後		2		○		

授業科目の名称		開講年次	単位数			GPA 対象	備考
			必修	選択	自由		
展開科目	戦略情報システム学	4前		2		○	必修: 4単位 選択: キャリア学習科目、専門共通科目、展開科目、関連科目の中から30単位以上を修得する必要がある。 選択(コース): 選択科目30単位のうち、コース指定科目から6単位以上を修得する必要がある。
	ソフトウェア設計実践論	3前		2		○	
	機械学習	3後		2		○	
	知識工学	3前		2		○	
	フーリエ解析	3前		2		○	
	デジタル信号処理	3後		2		○	
	統計解析 I	3前		2		○	
	統計解析 II	3後		2		○	
	統合情報システム学 I	3後		2		○	
	統合情報システム学 II	4前		2		○	
	ビジュアル情報処理学	4前		2		○	
	ファームウェア学	3前		2		○	
	プログラム言語構造論 I	3前	2			○	
	プログラム言語構造論 II	3前	2			○	
	分散システム実践論	3後		2		○	
分散システム論	3前		2		○		
マイクロコンピュータ制御	3後		2		○		
メディア論	3後		2		○		
関連科目	科学技術史	1前	2			○	必修: 4単位 選択: キャリア学習科目、専門共通科目、展開科目、関連科目の中から30単位以上を修得する必要がある。
	専門英語 I	3前	2			○	
	専門英語 II	3後		2		○	
	専門英語 III	4前		2		○	
	応用心理学	2後		2		○	
	会計情報学	3前		2		○	
	起業論	2後		2		○	
	経営情報学	3後		2		○	
	情報規格総論	3前		2		○	
	情報と法律	2前		2		○	
	知識創発論	2前		2		○	
情報と職業	3後		2		○		
専門科目	コース演習	データ・数理科学演習 I	3前	2		—	必修: 12単位 選択: 所属コースで開講されている2科目4単位を修得する必要がある。
		データ・数理科学演習 II	3後	2		—	
	コンピュータ工学演習 I	3前		2		—	
	コンピュータ工学演習 II	3後		2		—	
	人工知能演習 I	3前		2		—	
	人工知能演習 II	3後		2		—	
	社会システムデザイン演習 I	3前		2		—	
	社会システムデザイン演習 II	3後		2		—	
	ゼミナールA	4前	2			—	
	ゼミナールB	4後	2			—	
	卒業研究・制作A	4前	4			—	
卒業研究・制作B	4後	4			—		
教職科目(情報)	日本国憲法	2後			2	○	高等学校教諭一種免許状(情報)の取得希望者のみ履修する。
	情報科教育法 I	3前			2	○	
	情報科教育法 II	3後			2	○	
	教育課程論	2後			2	○	
	教育行政学	2後			2	○	
	教育原理	1後			2	○	
	教育実習 I	4前			1	○	
	教育実習 II (高等学校)	4			2	○	
	発達と学習	1後			2	○	
	教育相談論	2後			1	○	
	教育の方法と情報通信技術の活用	3前			2	○	
	教職概論	2前			2	○	
	教職実践演習(中・高)	4後			2	○	
	特別支援教育論	2後			1	○	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2前			2	○	
	生徒指導論	2前			2	○	
	進路指導論	2後			1	○	
教職科目(数学)	日本国憲法	2後			2	○	中学校教諭一種免許状(数学)、高等学校教諭一種免許状(数学)の取得希望者のみ履修する。
	数学科教育法 I	3前			2	○	
	数学科教育法 II	3後			2	○	
	数学科教育法 III	3前			2	○	
	数学科教育法 IV	3後			2	○	
	教育課程論	2後			2	○	
	教育行政学	2後			2	○	
	教育原理	1後			2	○	
	教育実習 I	4前			1	○	
	教育実習 II (中学校)	4			4	○	
	教育実習 II (高等学校)	4			2	○	
	発達と学習	1後			2	○	
	教育相談論	2後			1	○	
	教育の方法と情報通信技術の活用	3前			2	○	
	教職概論	2前			2	○	
	教職実践演習(中・高)	4後			2	○	
	特別支援教育論	2後			1	○	
道徳教育の理論と方法	2前			2	○		
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2前			2	○		
生徒指導論	2前			2	○		
進路指導論	2後			1	○		

Ⅲ 教育職員養成課程

教育職員養成課程

1. 教職教育センター

■ 教職教育センターの概要

岩手県立大学における教員養成は、建学の理念である「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成することを前提として行われています。この理念の下で、多角的な視点で教育現実を考察する教育的思考を持ち、実践性の基礎となる教育の技術を備えた教員の養成を行うことを目的としています。

これを実現するために、全学の教育職員養成課程(以下、教職課程)に関する企画、実施、評価および改善等の全学的なマネジメントを行うための組織として教職教育センターを令和3年4月に設置しました。このセンターは、教職課程を有する学部・研究科の教職担当教員らから構成され、教育実習、介護等体験、学校参観、研修等の企画、運営、自己点検・評価、改善等の他、教職課程履修者の指導、就職支援、教職課程及び教員養成政策の動向等に係る調査研究に取り組みます。

■ 取得できる免許の種類

本学で取得することができる教育職員免許状(以下、教員免許)の種類は次表のとおりです。

看護学部	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校教諭一種免許状(保健) ・養護教諭一種免許状
ソフトウェア情報学部	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種免許状(数学) ・高等学校教諭一種免許状(数学) ・高等学校教諭一種免許状(情報)

いずれの学部においても、計画的に必要な科目の履修・単位取得をすることで、複数種類の免許状を取得することができます。教育職員免許状は、大学が岩手県教育委員会に一括申請を行い、学位記授与式当日に授与される見込みとなっています。

さらに、本学大学院に進学し博士前期課程を修了すれば、看護学研究科の場合は「養護教諭専修免許状」を、ソフトウェア情報学研究科の場合は「高等学校教諭専修免許状(情報)」をそれぞれ取得できます。

■ 教職課程の科目区分

教員免許状を取得するために履修すべき科目は次表のように大きく3つに区分されています。表中の科目は標準的に履修すべき年次に記載しています。教科(保健や数学など、免許状の教科)によって、開講時期や履修すべき科目が異なります。教科によって修得すべき科目や免許取得に必要な単位数については、2.以降の各学部の教職課程のページを参照してください。

	教育の基礎的理解に関する科目等	教科及び教科の指導法に関する科目	免許法施行規則第66条の6の科目
1年次	教育原理、発達と学習	各学部専門科目、	体育実技、健康科学、
2年次	教職概論、教育課程論、 教育行政学、教育相談論、	保健科教育法Ⅰ・Ⅱ、 数学科教育法Ⅰ～Ⅳ、	情報リテラシー、日本国憲法、 英語実践演習Ⅰ～Ⅳ
3年次	生徒指導論 など	情報科教育法Ⅰ・Ⅱ など	
4年次	教育実習Ⅰ・Ⅱ、 教育実践演習 など		

「教科及び教科の指導法に関する科目」には学部の卒業要件に含まれている専門科目と、卒業要件には含まれない教職課程限定の科目がありますので十分に注意した上で履修計画を立ててください。

■ 教職課程の新入生ガイダンス

新入生の教職課程履修希望者に向けた「教職入門ガイダンス(全学)」を4月から行います。教職課程の仕組み、教職の仕事場である「学校」、教員免許状の役割と法的なルール、教職課程を履修するための手続きなどについて、全3回にわたり説明します。開催日時については掲示等により連絡しますので、履修希望者は必ず出席してください。

■ 教職課程の履修手続き

教員免許を取得するためには、教職課程に履修登録する必要があります。これにより、教育実習など教職関連科目を履修・取得することができます。さらに、教員採用試験対策のための論作文特訓講座や公開模試等を受けることができますようになります。

教職課程に履修登録する時期は例年7月です。そのための手続きについては、「教職入門ガイダンス」の中で詳しく説明します。

2. ソフトウェア情報学部の教職課程

■ 教員養成の理念

免許状の種類：中一種免（数学）、高一種免（数学）

(1) 教員養成の理念

本学部の目指す人材像として掲げている「人と数理・情報技術が調和した豊かな社会」の発展・高度化に寄与する人材育成の一環として、数学的思考力を持ち、自身の専門性と独創性を活かし、自然科学・社会科学の根幹をなす数学の指導力を教育環境の変化に対応して発揮できる、高い志と学識を持つ教員を養成します。

(2) 養成したい人間像

前述の理念を礎として、次のような教員を養成します。

- ア 解析学、代数学、幾何学、「確率論、統計学」、コンピュータに関する知識を修得し、基礎から応用まで体系的に数学教育を行うことができる教員
- イ 数理・情報技術の分野に興味を持ち、人間や社会に及ぼす影響や効果を数学的な観点から理解でき、社会における数学の重要性や必要性を説くことのできる教員
- ウ 自然・人間・社会の諸課題を、数学を用いて解決する方法を ICT の活用によって分り易く教えることができる教員
- エ 様々な学びや体験の中から、自分の能力・適性を把握し、自主的・計画的・継続的に自身の能力を高め、意欲的に数学教育を行える教員
- オ 論理的な文章を書き、自らの見解を分り易く伝達し、他者の意見を踏まえて議論することができる教員
- カ 知的探求心と想像力を持ち、絶えず発展し続ける数学や情報の理論・技術へ柔軟に対応した専門性を自ら高めていくことができる教員

以上の理念や養成したい教員像を実現するための教員養成の計画は、以下のように数学と情報の専門領域の相互関係を強く意識したカリキュラムによって教員養成を行うものです。

(3) 理念を実現するための教員養成の構想

1～2年次には、学科の専門基礎科目、専門共通科目により、代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータに関する基礎に加えて、全学共通の基盤教育科目群の中から幅広い専門分野の先端の知識・理論を学修し、データリテラシーや情報機器活用技術を修得します。

2～3年次には、学科の関連科目、展開科目、キャリア学習科目を通して、代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータのより発展的で高度な内容（数理・データサイエンス・AI 関連科目含む）を学修するとともに、数理・情報技術と自然・社会・人間との係わりを理解し、自身の適性や能力を踏まえ、数学を指導する役割を担うための基礎を養います。

3～4年次には、数学と情報をスパイラルに学ぶことを通して数学と情報の相互関係の理解を深め、学科の研究科目により、自らが計画的に学修・研究を継続し、自身の知識と教育力を磨く。このように、専門教育と人間教育を一体化した教育・研究を実施し、教員養成の理念を実現します。

なお、これらのカリキュラムは、入学時からの一人一台端末（BYOD）とネットワーク環境（遠隔学習機能、教育データベース機能含）、ICT 教室（電子黒板・画面共有機能含）のもとで実践され、ICT 活用指導力の向上を図ります。

また、教員養成の過程では、学部必修科目「プロジェクト演習 I、プロジェクト演習 II」などのプロジェクト型学習科目に参加する高大連携協定校の高校生との3年間の協働作業（同時双方向型のオンライン授業も含む）や、中高生を対象とした本学部主催の体験学習講座「サマーセミナー、ウインターセッション」（テーマはプログラミングも含むSTEM教育）の中で、中高生への助言指導を経験する機会を設けている。このように、中高生の協働的な学び合いや探求活動の指導を経験させながら教員養成を行います。

免許状の種類：高一種免（情報）

(1) 教員養成の理念

社会構造の変化に伴い、多様化・複雑化する様々な問題の効果的な解決策となり得る情報技術・システムが求められていることを踏まえ、実学・実践の教育・研究を通して「人に優しい情報化社会」の実現に寄与できる人材の育成を理念としています。

この理念のもと、自身の専門性と独創性を活かし、情報技術・システムに関する指導力を発揮できる、高い志と学識を持つ教員を養成します。

(2) 養成したい人間像

前述の理念を礎として、次のような教員を養成します。

ア 情報技術の分野に興味を持ち、人間や社会に及ぼす影響や効果を理解でき、教育者としての責任を感じることができる教員

イ 情報技術・システムへの要求を考え、問題を解決する方法を提案することができ、さらに、情報技術の新しい活用方法を創造できる能力を有し、情報教育に携わる教員

ウ 情報技術・システムに関する幅広い知識とスキルを修得し、それを活用した解決方法や仕組みに関する実践的指導力を発揮できる教員

エ 自分の能力・適性を把握し、自主的・計画的・継続的に学習・研究を進めることができ、学習者の興味や関心を促すことができる教員

(3) 理念を実現するための教員養成の構想

1～2年次には、ソフトウェア情報学に関する専門基礎科目、専門共通科目により、幅広い専門分野の先端の知識・技術を網羅的に把握して、情報技術・システムの知識とスキルを高めます。

2～3年次には、関連科目、展開科目、キャリア学習科目を通して、情報技術・システムと人間や社会との係わりを理解し、自身の適性や能力を踏まえ、指導的な役割を担うための基礎を養います。

3～4年次には、研究科目により、自らが計画的に学習・研究を継続し、自身の知識とスキルを磨きます。このように、専門教育と人間教育を一体化した教育・研究を実施し、教員養成の理念を実現します。

■ 免許状取得に必要な単位数

本学部で教員免許状を取得するための、教職課程についての最低修得単位数は次のとおりです。なお、これらに加えて学部を卒業するために必要な単位数も同時に修得する必要があります。

免許状	区分	教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	※免許法施行規則第66条の6の科目
中学校教諭一種免許状(数学)		45	28	11
高等学校教諭一種免許状(数学)		41	24	11
高等学校教諭一種免許状(情報)		40	24	11

※第66条の科目とは、「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目です。

採用実績などを鑑み、教科「数学」については中学校教諭免許状を中心に履修計画を立てることを強く推奨します。

■ 教職課程担当教員

教職課程を履修するにあたって相談担当者は本学部の場合、次の教職教育センター所属教員です。

市川尚

児玉英一郎

■ 教職課程の履修上の注意

基盤教育科目の履修登録時の注意事項

体育については体育実技と健康科学の両方が必修となります。これらの科目は履修制限科目です。体育実技については、1年前期から履修を希望し、履修登録を試みてください。後期になって初めて履修登録を試みることをないようにして下さい。

専門科目の履修登録時の注意事項

複数クラスで開講されている必修の専門科目の中には、教職(数学)を取るために教員が指定されている場合があります。必ず、指定された教員の方のクラスで履修してください。指定されていない教員の方のクラスで履修し、単位を一度習得してしまった場合には、中学校教諭一種免許状(数学)や高等学校教諭一種免許状(数学)の免許状は取得できなくなります。単位の取り消しや、取り直しはできませんので、中学校教諭一種免許状(数学)や高等学校教諭一種免許状(数学)の免許状の取得を目指す可能性が少しでもある場合には、指定された教員の方を履修しておくようにして下さい。

3. 教育実習

教育実習は、教職科目の中で学んだ学習の成果を、教育現場で生かしながら体験的に学ぶ重要な意味を持つ科目です。

履修時期は4年次となっています。

■ 教育実習の期間

中学校教諭一種免許状	4週間
高等学校教諭一種免許状	2週間
中学校及び高等学校免許状を併せて取得	中学校にて 4週間

■ 教育実習校

教育実習は原則として、出身校に依頼します。ただし、出身校の廃校など、特別な事情により、出身校での実習が困難と認められる場合に限り、大学が指定する協力校で実習を行います。

■ 教育実習先修要件

教育実習を履修するためには、それまでに単位を取得しておかなければならない科目があります。詳しくは教職課程科目一覧で確認してください。

各自が、履修計画を立て、確実に単位を取得するよう努力してください。

■ ガイダンス

教育実習をはじめとする教職課程履修関係については、必要な時期にガイダンスを行います。掲示により連絡しますので、必ず出席してください。

4. 介護等体験

中学校教諭一種免許状(数学)を取得する場合は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、介護等の体験を行う必要があります。

介護等体験は、義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念についての認識を深め、教員としての資質の向上を図ることを目的としています。

■ 種類・期間

特別支援学校	連続する2日間
社会福祉施設	連続する5日間

合わせて7日間の体験が必要です。

■ 実施学年

2年次以降に実施します。

■ 申込み手続き

大学で一括して申込みを行います。

実施施設の調整は、特別支援学校については岩手県教育委員会、社会福祉施設については岩手県社会福祉協議会において行います。

■ 事前指導

介護等体験の事前指導を行いますので、必ず出席してください。

■ 体験費用

特別支援学校については、費用はかかりませんが、社会福祉施設に関しては7,500円の受入れ費用が必要になります。

この他、交通費・食事代・腸内細菌検査費用(必要な場合)などは自己負担となります。

■ 証明書

介護等体験終了後、証明書が発行されます。これは、教員免許状申請の際に必要なになりますので、各自保管してください。

5. 免許取得までの実習等のスケジュール

教職課程に履修登録したのち、免許状取得までの介護等体験や教育実習等に関するスケジュールは次のとおりです。

	時期(予定)	教職関連事項
1 年 次	5月～6月	教職入門ガイダンス(全学)
	6月	教職課程履修登録
	10月下旬	介護等体験ガイダンス
	12月中旬	介護等体験希望登録
	2月～3月	介護等体験事前説明会 介護等体験事前指導
2 年 次	4月下旬	介護等体験受入施設決定 介護等体験費用納入
	5月～1月	介護等体験実施
	1月下旬	教育実習ガイダンス
	2月～3月	教育実習校受入内諾依頼(口頭)
3 年 次	4月中旬	教育実習履修希望登録
	8月	教育実習校受入内諾依頼(内諾依頼文書持参)
	10月中旬	教育実習校配置決定
4 年 次	4月上旬	教育実習履修承認発表 教育実習ガイダンス
	4月中旬	教育実習関係書類提出 教育実習正式依頼
	4月～5月	「教育実習Ⅰ」(事前指導)
	概ね	「教育実習Ⅱ」
	6月～7月	(中学校・高等学校での実習)
	実習終了後	「教育実習Ⅰ」(事後指導)
	7月～	教員採用試験
	1月下旬	教職免許状申請ガイダンス
	2月下旬	教職免許状一括申請
3月下旬	教職免許状授与 (学位記授与式当日授与の予定)	

6. 教職課程科目一覧

■ 中学校教諭一種免許状(数学)

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目の名称	単位数		備考
免許法施行規則に定める科目区分	法定最低単位数	必修		選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学	○線形代数Ⅰ ○線形代数Ⅱ ○離散数学 代数学 数論	1 2 2 2	2	
		幾何学	○集合と位相 ○幾何学 微分幾何学 代数学幾何学	2 2 2	2	
		解析学	○解析学Ⅰ ○解析学Ⅱ 複素関数論 微分方程式 フーリエ解析	1 2 2	2 2	
		「確率論、統計学」	○確率論 ○統計学 統計解析Ⅰ 統計解析Ⅱ	1 2 2	2	
		コンピュータ	○コンピュータシステム序論 ○計算モデル論 ○アルゴリズム論 数値計算の理論と実際 セキュリティ論 オペレーションズ・リサーチ	2 2 2	2 2 2	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		教育に関する科目 10 単位	○数学科科教育法Ⅰ ○数学科科教育法Ⅱ ○数学科科教育法Ⅲ ○数学科科教育法Ⅳ	2 2 2 2		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		○教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)		○教職概論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		○教育行政学	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○発達と学習	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○特別支援教育論	1		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		○教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		道徳教育の理論と方法	2		
	総合的な学習の時間の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2		
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術		教育の方法と情報通信技術の活用	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論	2		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談論	1		
教育実践に関する科目	教育実習		教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ(中学校)	1 4		
	学校体験活動		-	-	-	
	教職実践演習		教職実践演習	2		
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法	2		
	体育	2	○健康科学 ○体育実技	2 1		
	外国語コミュニケーション	2	○英語実践演習Ⅰ ○英語実践演習Ⅱ ○英語実践演習Ⅲ ○英語実践演習Ⅳ	1 1 1 1		
	数理・データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	○情報リテラシー	2		

注1) 必修又は選択の別は、教育職員免許状を取得する上での必修・選択の別であり、卒業要件としての必修・選択の別とは異なるものです。
 注2) ○の付いた授業科目は、教育実習Ⅰ・Ⅱの先修科目です。
 注3) 教科に関する専門的事項は、必修科目の29単位に加え、選択科目から4科目8単位以上を修得し、合計で37単位以上とする必要があります。

■ 高等学校教諭一種免許状(数学)

免許法施行規則に定める科目区分等			法定最低 単位数	授業科目の名称	単位数		備 考
免許法施行規則に定める科目区分					必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学	24 単位	○線形代数Ⅰ ○線形代数Ⅱ ○離散数学 代数学 数論	1 2 2 2	2	
		幾何学		○集合と位相 ○幾何学 微分幾何学 代数学幾何学	2 2 2	2	
		解析学		○解析学Ⅰ ○解析学Ⅱ 複素関数論 微分方程式 フーリエ解析	1 2 2	2 2	
		「確率論、統計学」		○確率論 ○統計学 統計解析Ⅰ 統計解析Ⅱ	1 2 2	2	
		コンピュータ		○コンピュータシステム序論 ○計算モデル論 ○アルゴリズム論 数値計算の理論と実際 セキュリティ論 オペレーションズ・リサーチ	2 2 2	2 2 2	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			8 単位	○数学科科教育法Ⅰ ○数学科科教育法Ⅱ	2 2		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		5 単位	○教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校への対応を含む。)			○教職概論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			○教育行政学	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			○発達と学習	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			○特別支援教育論	1		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			○教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法		5 単位	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2		
	特別活動の指導法			教育の方法と情報通信技術の活用	2		
	教育の方法及び技術			生徒指導論	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			教育相談論	1		
	生徒指導の理論及び方法			進路指導論	1		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ(高等学校)	1 2		
教育実践に関する科目	教育実習		2				
	学校体験活動		-	-			
	教職実践演習		2				
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法		2	○日本国憲法	2		
	体育		2	○健康科学 ○体育実技	2 1		
	外国語コミュニケーション		2	○英語実践演習Ⅰ ○英語実践演習Ⅱ ○英語実践演習Ⅲ ○英語実践演習Ⅳ	1 1 1 1		
	数理・データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		2	○情報リテラシー	2		

注1) 必修又は選択の別は、教育職員免許状を取得する上での必修・選択の別であり、卒業要件としての必修・選択の別とは異なるものです。
 注2) ○の付いた授業科目は、教育実習Ⅰ・Ⅱの先修科目です。
 注3) 教科に関する専門的事項は、必修科目の29単位に加え、選択科目から4科目8単位以上を修得し、合計で37単位以上とする必要があります。

■ 高等学校教諭一種免許状(情報)

免許法施行規則に定める科目区分等			法定最低 単位数	授業科目の名称	単位数		備 考
免許法施行規則に定める科目区分					必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会(職業に関する内容を含む。)-情報倫理	教科及び教科の指導法に関する科目 24 単位	情報と法律 情報と職業 情報環境論 メディア論 統合情報システム学Ⅰ 統合情報システム学Ⅱ 戦略情報システム学 起業論	2 2	2 2 2 2 2	
		コンピュータ・情報処理		○コンピュータアーキテクチャⅠ コンピュータアーキテクチャⅡ ○オペレーティングシステム論 組込みOS論 ○ソフトウェア演習A ○ソフトウェア演習B ○ソフトウェア演習C ハードウェア基礎 モデリング実践論 コンパイラの理論と実際	2 2	2 2	
		情報システム		○ソフトウェア設計学 ソフトウェア設計実践論 ○情報システム基礎論Ⅰ ○情報システム基礎論Ⅱ ファイルとデータベース 情報システム構築学Ⅰ 情報システム構築学Ⅱ ソフトウェア演習D	2 2 2 2	2 2 2	
		情報通信ネットワーク		○情報ネットワーク論 情報ネットワーク実践論 コミュニケーション論 分散システム論 分散システム実践論	2 2	2 2 2	
		マルチメディア表現・技術		メディアシステム学 デジタル信号処理 ヒューマンインタフェース シミュレーション学	2 2	2 2	
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			教育実践に関する科目 5 単位	○情報科教育法Ⅰ ○情報科教育法Ⅱ	2 2
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経済的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育実践に関する科目 5 単位	○教育原理	2			
			○教職概論	2			
			○教育行政学	2			
			○発達と学習	2			
			○特別支援教育論	1			
			○教育課程論	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリング)に関する基礎的知識を含む。の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法 教育の方法と情報通信技術の活用 生徒指導論 教育相談論 進路指導論	2 2 2 1			
教育実践に関する科目	教育実習 学校体験活動 教職実践演習		教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ(高等学校) - 教職実践演習	1 2 - 2			
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法	2			
	体育	2	○健康科学 ○体育実技	2 1			
	外国語コミュニケーション	2	○英語実践演習Ⅰ ○英語実践演習Ⅱ ○英語実践演習Ⅲ ○英語実践演習Ⅳ	1 1 1 1			
	数理・データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	○情報リテラシー	2			

注1) 必修又は選択の別は、教育職員免許状を取得する上での必修・選択の別であり、卒業要件としての必修・選択の別とは異なるものです。
 注2) ○の付いた授業科目は、教育実習Ⅰ・Ⅱの先修科目です。
 注3) 教科に関する専門的事項は、必修科目の28単位に加え、選択科目から4科目8単位以上を修得し、合計で36単位以上とする必要があります

IV 履修登録下書き表

履修登録下書き表【記入例】

◆基本的な時間割の組み方◆

授業科目一覧表で自分の年次に開講される科目を確認し、時間割を見ながら次の手順に従って時間割を埋めていきます。科目選択の際は、必ずシラバスに目を通し授業内容を確認してください。

手順①「基盤教育科目」の必修科目を入れます。

手順②自分の学部の「専門科目」の必修科目を入れます。

手順③空いているところに「専門科目」の選択科目を入れます。

手順④さらに空いているところに「基盤教育科目」の選択科目を入れます。

手順⑤単位数を合計し、「各学期に履修できる単位数の上限」を超えていないことを確認します。

※ 数学プレイスメント・テストに合格し、先行履修科目を履修する場合の単位数の計上方法は以下のとおりです。
 専門基礎科目→登録単位数に含まれます。 先行履修科目→登録単位数に含まれません。
 例) 解析学Ⅰに合格し解析学Ⅱを履修する→1単位として計上します

1 年 生 前 期

← 科目名
 ← 単位数
 を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限	手順② 科学技術史 2				手順② コンピュータシステム序論 2
2時限	手順① 英語実践演習Ⅰ 1	手順① 情報リテラシー 2		手順④ 文学の世界 2	手順④ 地域と情報 2
3時限	手順① 大学で学ぶ・大学を学ぶ 2	手順④ 社会学の世界 2	手順① 基礎教養入門Ⅰ 1	手順② ソフトウェア演習A 1	手順② スタディスキルズ 2
4時限				手順② 解析学Ⅰ (解析学Ⅱ) 1	手順② 線形代数Ⅰ (線形代数Ⅱ) 1
5時限			手順① 英語基礎演習Ⅰ 1		
集中講義・ 実習など					

単位数の上限
24 単位

≥

合計単位数
22 単位

※履修登録単位数の上限はP.48で確認してください。

時間割を全て組み終わったら、履修登録をしましょう！

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



履修上限単位数

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					



履修上限単位数

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



履修上限単位数

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					



履修上限単位数

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					



履修上限単位数

単位

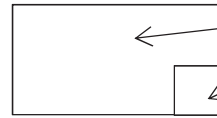
≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期



・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					



履修上限単位数

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					

シラバス検索画面
QRコード



Web学生便覧
QRコード



履修上限単位数

単位

≧

合計単位数

単位

履修登録下書き表

年生 期

・科目名
・単位数
を書き入れましょう。

	月	火	水	木	金
1時限					
2時限					
3時限					
4時限					
5時限					

集中講義・ 実習など					



履修上限単位数

単位

≧

合計単位数

単位

ソフトウェア情報学研究科

I ソフトウェア情報学研究科 博士前期課程の概要

博士前期課程

1. 概要

博士前期課程では、学部教育における基本原理の修得や基本原理適用の実践を踏まえて、授業科目の履修、ゼミナール及び特別研究による研究指導を通じて、問題発見能力を修得するとともに、問題解決能力を養います。

2. 履修モデル

ソフトウェア情報学研究科博士前期課程と同学部は6年一貫制を採用しており、そのため履修モデルは、学部と同様にデータ・数理科学コース、コンピュータ工学コース、人工知能コース、社会システムデザインコースの4コースで構成されています。

各コースの詳細については、学部の履修モデルの項を参照してください。

3. 教育研究目標

博士前期課程においては、情報技術・システムの幅広い知識とスキル及び自身の専門分野における知識を活かし、利用者の立場から情報技術・システムにおける問題・課題に適した仕組みを、企画・設計・開発・保守・運用できる責任感と倫理観に裏付けられた高い学識を備えた人材の養成を目指しています。

4. ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)

■ 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

ソフトウェア情報学研究科では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、自身の専門性を活かし、真に利用者の立場から情報技術・システムを企画・設計・開発・保守・運用できる責任感と倫理観に裏付けられた高い学識を持つ人材、そして国際的な視野で通用する独創性と急激な社会の変化にしなやかに対応できる柔軟性を備えた人材の育成を図り、本学学則に定める修了要件を満たした学生を、次に掲げる「学生が修了までに身につけるべき能力」を備えたものとして、博士前期課程においては学位『修士(ソフトウェア情報学)』を授与します。

《修了までに身につけるべき能力》

- DP1. 自身の適性や能力を的確に把握し、情報技術分野に対する情熱を持って、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続して取り組むことができる。
- DP2. 人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、技術者または研究者としての責任を感じることができる。
- DP3. 情報技術・システムにおける問題・課題に対して、利用者の立場から、適切な解決方法を導き出し、問題・課題を解決することができる。
- DP4. 国際的な視野に立って、技術者・研究者の立場から、情報技術・システムの幅広い知識とスキル、そして自身の専門分野における学識を修得し、様々な問題・課題に適した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。
- DP5. 技術者・研究者の立場から、自身の見解をわかりやすく表現できるとともに、他者の意見を受け入れ、論理的な議論を交わすことができる。

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ソフトウェア情報学研究科では、「人と情報技術が調和した豊かな社会」の実現に寄与する人材を育成するため、専門教育と人間教育を一体化した実学・実践の教育・研究を実施します。博士前期課程では、国際的な視野で通用する独創性を備え、多様化・複雑化する様々な問題の効果的な解決策となり得る情報技術・システムを創造する能力を養うために、次のような方針で科目を編成しています。

- CP1. 技術者または研究者としての役割を担うために必要となる倫理観や国際的なコミュニケーション能力を養うための科目を基盤科目として配置します。
- CP2. ソフトウェア情報学研究科における幅広い専門分野の先端の知識・技術を網羅的に把握して情報技術・システムの知識とスキルを高めるとともに、自身の専門分野における学識を深化させ、新しい情報技術・システムを創造するための基礎を養う科目を、専門科目として配置します。

- CP3. 情報技術・システムと人間や社会との係わりを理解し、自身の適性や能力を踏まえ、社会における技術者または研究者としての役割を担うために必要となる実践的なスキルを修得するための科目を、実践科目として配置します。
- CP4. 自らが計画的に学習・研究を継続し、自身の知識とスキルを磨き、新しい情報技術・システムを創造する能力を身に付けるための科目を研究指導科目として配置します。研究指導科目では、複数教員により多様な価値観に基づく客観的な研究指導を実施し、公開の場で自身の研究に対する論理的な議論を交わす能力や、国際的な視野で自身の見解を表現する能力を養い、技術者・研究者と利用者の両面から様々な問題・課題に適した解決方法を導き出す能力を修得します。

5. 教育課程の内容・特色

博士前期課程の教育課程は、「基盤科目」、「専門科目」、「実践科目」及び「研究指導科目」により構成しています。

《基盤科目》

技術者または研究者としての役割を担うために必要となる倫理観や国際的なコミュニケーション能力を養うための講義科目を配置しており、履修モデルに拘わらず 2 科目 4 単位を履修することになっています。

リサーチリテラシ A・B

「リサーチリテラシ A」では、技術者または研究者として必要な技術者倫理・研究者倫理と知的財産権及び、自国語(母国語)による科学・技術に関する文書作成技法(テクニカルライティング)を少人数クラスの実践的な環境で学びます。「リサーチリテラシ B」は、英語に関する試験に合格した者だけが受講できるクラスであり、少人数で日本語による科学・技術に関するライティングとスピーキングを学びます。

サイエンスコミュニケーション

「サイエンスコミュニケーション」は、学生が自分の研究内容や得られた成果について自国語(母国語)以外でプレゼンテーションや質疑応答により効果的に伝達するための技法を少人数クラスの実践的な環境で学びます。

《専門科目》

教育研究領域ごとに、より高度で先端的な内容の講義科目を配置しており、履修コース毎に指定された 2 科目 2 単位のコース指定科目を履修する必要があるほか、履修モデルに応じて 8 科目 8 単位以上を履修することになっています。

《実践科目》

実社会での問題を的確に把握し、創造的かつ実践的な研究手法を修得することを重視する立場から、実践科目を配置しています。実践科目には、「ソフトウェア実践演習」と「プロジェクト実践演習」があります。

ソフトウェア実践演習

「ソフトウェア実践演習」は、机上での知識習得や演習ではなく、実社会の現場に実在する課題に取り組む演習です。企業などの協力を得て実施します。研究と直結しており、アライアンス先企業などが明確な場合に、個人の研究活動を通して実践的な能力を培うものです。事例研究を行うために学生が企業などの現場に参加することもあります。また、問題を学内へ持ち帰って研究することもあります。

プロジェクト実践演習

「プロジェクト実践演習」は、学生が主体的に作ったチームが目標を立てて、システム開発を通して実現するプロジェクト実習型学習です。学年や研究室をまたがってプロジェクトチームを構成し、研究活動とは異なる視点の学生らしい自由な発想でチームによるアイデア提案・開発・評価を行うものです。学部 PBL 科目であるシステムデザイン PBL と同時開講となります。

《研究指導科目》

研究指導科目は、学生が研究を始めるために必要な研究手法等を学ぶ「ゼミナール」、「ソフトウェア情報学研究」及び「公開ゼミナール」があります。

ゼミナール

ゼミナールでは、実学実践を基本的立場とする研究に取り組むための基礎としての位置づけのもとに、コミュニケーション能力、研究方法論及び実践的研究手法等を修得することを目的としています。「ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ」、「ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ」及び「ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ」の3科目を配置しています。

【ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ】

1年次前期に開講され、実学実践の観点から企業等の現実の問題を題材として、資料作成及び発表技法等のコミュニケーション能力を身につけることを目指します。

【ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ】

1年次後期に開講され、実学実践の観点から各研究領域に関する研究論文の輪読、実社会における技術動向の調査、企業等からのゲスト・スピーカーの招聘等により、専門知識を深く理解するとともに、発展的技術及び応用分野の可能性を探求します。

【ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ】

2年次前期に開講され、実学実践の観点から実社会での問題を的確に把握するとともに、創造的かつ実践的な問題解決手法を学びます。

※短期修了に対するゼミナール履修上の配慮

1年間で優れた業績を上げることが見込まれ、短期修了を希望する学生は、当該指導教員の許可のもと、「公開ゼミナール」「ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ」を1年次に履修することができます。入学後、当該指導教員の指導のもと、実学実践的教育効果を1年間で得られるよう、ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ～Ⅲの進め方と内容を調整する必要があります。

公開ゼミナール

「公開ゼミナール」は、博士前期課程の中心となる「ソフトウェア情報学研究」を補助する目的で開設されるもので、関連論文の輪読、研究の動向の調査及び実社会での問題をテーマとする事例研究の紹介を通じて、専門的知識を一層高めるとともに、公開の場で複数の教員からの研究指導を受けることで研究の方法論等を深めることを目的とします。

ソフトウェア情報学研究

講義科目及びゼミナールにより修得する問題発見から問題解決に至る実践的手法に基づき、現実問題に対する解決方法の提案及びその実現可能性に対する検証等の内容を修士論文としてまとめることを目的としています。

6. 履修指導及び研究指導の方法**《履修指導の方法》**

博士前期課程では、データ・数理科学コースにあっては、情報数理科学とデータサイエンスの2モデル、コンピュータ工学モデルにあっては、ネットワークシステムと組込みシステム、セキュリティシステムの3モデル、人工知能コースにあっては、メディアシステムと知識情報処理の2モデル、社会システムデザインコースにあっては、情報システムとシステムデザインの2モデル、合計9つの履修モデルを設定し、この履修モデルを前提として学生の希望、将来の進路、適性などを考慮し、履修指導を行います。

具体的には、入学後、直ちにオリエンテーションを開催し、学生の希望する教育研究コース、研究対象及び指導教員を十分考慮し、3名以上の指導教員が指名され、当該指導教員の指導のもとに、研究対象に沿った授業科目を履修します。

《研究指導の方法》

学生は、指導教員が指名された後、主指導教員の研究室に配属され、これ以後は指導教員の指導の下に研究を進めることになります。

1年次においては、指導教員の指導の下に「ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ」及び「ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ」を行います。2年次の始めには修士論文の主題設定を行うこととなりますが、この主題設定にあたっては、問題調査から主題設定に至る一連の過程等について、指導教員の指導を受けることになります。また、「公開ゼミナール」により公開の場で複数の指導教員からの研究指導を受けます。実社会の問題の把握については実践科目群で扱いますが、研究を進める上での問題把握は、指導教員の指導の下に行います。また、指導教員の指導の下に修士論文の作成を行います。修士論文の主題は、一般的に実践科目群で取り組む主題とは別ですが、実践科目群の主題を発展させて修士論文の主題にすることも可能です。

7. 修了要件

博士前期課程の修了要件は、本研究科の博士前期課程に2年以上在学し、基盤科目4単位、専門科目10単位以上(うち、2単位はコース毎に指定された科目より修得)、実践科目1単位以上、研究指導科目15単位の合計30単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び修了試験に合格することです。

ただし、在学期間については、研究科において優れた研究業績を上げたと認められた者については、1年以上在学すれば足りるものとします。また、社会人等の学生にあつては、修士論文の内容が実社会の問題に強く関連しておれば「ソフトウェア実践演習」の単位が認定されます。

区 分	配当 単位数	修了要件単位数		
		必 修	選 択	計
基 盤 科 目	4	2	2	4
専 門 科 目	51		10 ^注	10
実 践 科 目	2		1	1
研究指導科目	15	15		15
合 計	72	17	13	30

注：履修コース毎に指定されているコース指定科目から2単位必修

【ソフトウェア情報学研究科 博士前期課程】カリキュラム・マップ

学年 目標 ディプロマ・ ポリシー	1年次	2年次
		<p>・基盤科目群と実践科目群により特定の専門に偏らない普遍的スキルを身に着けるとともに専門科目群により幅広い専門分野の知識・技術の基礎を網羅的に身に着ける。</p> <p>・研究指導科目群により自己の研究計画を明確化すると共に、自己の研究の位置付けを確立し研究遂行能力を涵養する。</p>
DP 1 自身の適性や能力を的確に把握し、情報技術分野に対する情熱を持って、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続して取り組むことができる。	ソフトウェア情報学ゼミナール I・II	ソフトウェア情報学ゼミナール III 公開ゼミナール ソフトウェア情報学研究
DP 2 人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、技術者または研究者としての責任を感じることができる。	リサーチリテラシ A ソフトウェア情報学ゼミナール I・II	ソフトウェア情報学ゼミナール III ソフトウェア情報学研究
DP 3 情報技術・システムにおける問題・課題に対して、利用者の立場から、適切な解決方法を導き出し、問題・課題を解決することができる。	ソフトウェア実践演習/プロジェクト 実践演習 専門科目群	ソフトウェア情報学ゼミナール III ソフトウェア情報学研究 専門科目群
DP 4 国際的な視野に立って、技術者・研究者の立場から、情報技術・システムの幅広い知識とスキル、そして自身の専門分野における学識を修得し、様々な問題・課題に適した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。	サイエンスコミュニケーション 専門科目群	ソフトウェア情報学ゼミナール III ソフトウェア情報学研究 専門科目群
DP 5 技術者・研究者の立場から、自身の見解をわかりやすく表現できるとともに、他者の意見を受け入れ、論理的な議論を交わすことができる。	リサーチリテラシ A・B ソフトウェア情報学ゼミナール I・II	ソフトウェア情報学ゼミナール III ソフトウェア情報学研究 公開ゼミナール

Ⅱ ソフトウェア情報学研究科 博士後期課程の概要

博士後期課程

1. 概要

博士後期課程では、博士前期課程における問題発見能力の修得や現状の問題解決の実践を踏まえ、実学実践の方式による「特別ゼミナール」、「特別公開ゼミナール」及び「ソフトウェア情報学特別研究」による研究指導を通じ、実践を背景とした原理への問題提起及び新原理の探求を行います。

2. 教育研究目標

博士後期課程においては、博士前期課程の教育と研究のレベルをさらに高め、現代社会における課題を正しく理解した上で、国際的にも価値のある情報技術・システムを創造することのできる独創性と、人と情報技術が調和した豊かな社会の実現のために、世の中の急激な変化にしなやかに対応できる柔軟性を備えた技術者・研究者人材の養成を目指しています。

3. ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)

■ 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

ソフトウェア情報学研究科では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、自身の専門性を活かし、真に利用者の立場から情報技術・システムを企画・設計・開発・保守・運用できる責任感と倫理観に裏付けられた高い学識を持つ人材、そして国際的な視野で通用する独創性と急激な社会の変化にしなやかに対応できる柔軟性を備えた人材の育成を図り、本学学則に定める修了要件を満たした学生を、次に掲げる「学生が修了までに身につけるべき能力」を備えたものとして、博士後期課程においては学位『博士(ソフトウェア情報学)』を授与します。

《修了までに身につけるべき能力》

- DP1. 自身の適性や能力を的確に把握し、情報技術分野に対する情熱を持って、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続して取り組むことができる。
- DP2. 人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、技術者または研究者としての責任を感じることができる。
- DP3. 情報技術・システムにおける問題・課題に対して、利用者の立場から適切な解決方法を導き出し、問題・課題を解決することができる。
- DP4. 国際的な視野に立って、情報技術・システムの幅広い知識とスキル、そして自身の専門分野における学識を修得し、様々な問題・課題に適した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。
- DP5. 技術者・研究者の立場から、自身の見解をわかりやすく表現できるとともに、他者の意見を受け入れ、論理的な議論を交わすことができる。
- DP6. 既存の情報技術・システムに対して、本質的な問題・課題を提起するとともに、国際的にも価値のある新しい情報技術・システムを創造することができる。
- DP7. 現代社会における情報技術分野の課題や目指すべき目標を正しく理解するとともに、人と情報技術が調和した社会の実現に貢献できる。

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ソフトウェア情報学研究科では、「人と情報技術が調和した豊かな社会」の実現に寄与する人材を育成するため、専門教育と人間教育を一体化した実学・実践の教育・研究を実施します。

博士後期課程では、原理への問題提起や新原理の探求を行いうる研究者や技術者を養成する観点から、博士前期課程に比べ、より自立的な研究能力を養うために、次のような方針で科目を編成しています。

- CP1. 情報技術・システムと人間や社会との係わりを理解し、自身の適性や能力を踏まえ、社会における技術者または研究者としての役割を担うために必要となる実践的なスキルを修得するための科目を、実践科目として配置します。

CP2. 自らが計画的に学習・研究を継続し、自身の知識とスキルを磨き、新しい情報技術・システムを創造する能力を身に付けるための科目を研究指導科目として配置します。研究指導科目では、複数教員により多様な価値観に基づく客観的な研究指導を実施し、公開の場で自身の研究に対する論理的な議論を交わす能力や、国際的な視野で自身の見解を表現する能力を養い、技術者・研究者と利用者の両面から様々な問題・課題に適した解決方法を導き出す能力を修得します。

4. 教育課程の内容・特色

博士後期課程の教育課程では、原理の問題提起や新原理の探究を行いうる高度な実践的研究者や技術者を養成する観点から、博士前期課程に比べ、より自立的な研究能力を養うことに重点を置いています。

このため、本課程では、実学実践の方針による実践科目及び研究指導科目6科目(「ソフトウェア実践特別演習」、「プロジェクト実践特別演習」、「特別公開ゼミナール I」、「特別公開ゼミナール II」、「特別ゼミナール」、「ソフトウェア情報学特別研究」)を設けています。

なお、ソフトウェア情報学以外の分野からの入学生について、必要がある場合は、指導教員の指導の下に、博士前期課程で開講する講義科目を受講することができます。

《ソフトウェア実践特別演習》

「ソフトウェア実践特別演習」は、机上での知識習得や演習ではなく、実社会の現場に実在する課題に取り組む演習です。企業などの協力を得て実施します。研究と直結しており、アライアンス先企業などが明確な場合に、個人の研究活動を通して実践的な能力を培うものです。事例研究を行うために学生が企業などの現場に参加することもあります。また、問題を学内へ持ち帰って研究することもあります。

《プロジェクト実践特別演習》

「プロジェクト実践特別演習」は、学生が主体的に作ったチームが目標を立てて、システム開発を通して実現するプロジェクト実習型学習です。学年や研究室をまたがってプロジェクトチームを構成し、研究活動とは異なる視点の学生らしい自由な発想でチームによるアイデア提案・開発・評価を行うものです。学部 PBL 科目であるシステムデザイン PBL と同時開講となります。

《特別公開ゼミナール》

「特別公開ゼミナール I、II」は、博士後期課程の中心となる「ソフトウェア情報学特別研究」を補助する目的で開設されるもので、関連論文の輪読、研究の動向の調査及び実社会での問題をテーマとする事例研究の紹介を通じて、専門的知識を一層高めるとともに、公開の場で複数の教員からの研究指導を受けることで研究の方法論等を深めることを目的とします。

《特別ゼミナール》

「特別ゼミナール」は、博士後期課程の中心となる「ソフトウェア情報学特別研究」を補助する目的で開設されるもので、関連論文の輪読、実践科目群から得た知見等を通じて、専門的知識を一層高めるとともに、研究の方法論等を深めることを目的とします。

《ソフトウェア情報学特別研究》

本研究科における研究指導は、ソフトウェア情報学の発展や実学・実践の学問展開を目指します。その観点から博士論文作成のための研究指導を行う目的で開設しています。

具体的には、指導教員との討論、議論等を通じて、研究テーマの選定、研究の進め方、研究計画、研究評価、学会等での発表計画、論文の構成等に対する綿密な指導を行い、研究能力を高めるものです。

5. 研究指導の方法

入学後、直ちにオリエンテーションを開催し、学生の希望する教育研究領域、研究対象及び指導教員を十分考慮し、3名以上の指導教員が指名されます。学生は、当該指導教員の研究室に配属され、以後は指導教員の指導を受け、学習・研究を進めます。

1年次では、学生の研究対象に沿った研究課題調査の指導が行われ、指導教員の指導の下に、研究課題調査を行い、問題提起能力を養います。

2年次始めにおいては、1年次での研究課題調査を踏まえて、指導教員の指導の下に博士論文の主題設定を行います。

2年次、3年次では、指導教員の指導の下に、「ソフトウェア情報学特別研究」での問題提起、新原理の探究の実践を通じて、博士論文の作成を行います。また、「特別公開ゼミナール I、II」を通して公開の場で複数の指導教員からの研究指導を受けます。「ソフトウェア情報学特別研究」を行うにあたって、必要かつ、有益であると認められる場合は、指導教員の指導の下に、企業等他の研究施設に派遣することがあります。

6. 修了要件

博士後期課程の修了要件は、本研究科の博士後期課程に3年以上在学し、「ソフトウェア実践特別演習」または「プロジェクト実践特別演習」のいずれかと「特別公開ゼミナール I」、「特別公開ゼミナール II」の単位を取得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び修了試験に合格しなければなりません。

ただし、在学期間については、研究科において優れた研究業績を上げたと認められた者については1年(2年未満の在学期間をもって、博士前期課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとします。また、論文の主題が実社会での問題に強く関連したものであれば、「ソフトウェア実践特別演習」の単位を認定します。

区 分	配当 単位数	修了要件単位数		
		必 修	選 択	計
実 践 科 目	4		2	2
研究指導科目	12	12		12
合 計	16	12	2	14

【ソフトウェア情報学研究科 博士後期課程】カリキュラム・マップ

学年 目標 ディプロマ・ ポリシー	1年次	2年次	3年次
		・実践科目群により特定の専門に偏らない普遍的スキルを身につける。 ・研究指導科目群により自己の研究計画を明確化すると共に、自己の研究の位置付けを確立し研究遂行能力を涵養する。	・研究指導科目群により自己の研究を主体的に遂行し適切な進捗管理を行うと共に研究の中間的な成果を適切にまとめ上げると同時に他者とコミュニケーションをとる能力を涵養する。
DP 1 自身の適性や能力を的確に把握し、情報技術分野に対する情熱を持って、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続して取り組むことができる。	特別ゼミナール/ソフトウェア情報学特別研究		
		特別公開ゼミナール I	特別公開ゼミナール II
DP 2 人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、技術者または研究者としての責任を感じることができる。	特別ゼミナール/ソフトウェア情報学特別研究		
DP 3 情報技術・システムにおける問題・課題に対して、利用者の立場から適切な解決方法を導き出し、問題・課題を解決することができる。	特別ゼミナール/ソフトウェア情報学特別研究		
	ソフトウェア 実践特別演習/ プロジェクト 実践特別演習		
DP 4 国際的な視野に立って、情報技術・システムの幅広い知識とスキル、そして自身の専門分野における学識を修得し、様々な問題・課題に適した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。	特別ゼミナール/ソフトウェア情報学特別研究		
DP 5 技術者・研究者の立場から、自身の見解をわかりやすく表現できるとともに、他者の意見を受け入れ、論理的な議論を交わすことができる。	特別ゼミナール/ソフトウェア情報学特別研究		
		特別公開ゼミナール I	特別公開ゼミナール II
DP 6 既存の情報技術・システムに対して、本質的な問題・課題を提起するとともに、国際的にも価値のある新しい情報技術・システムを創造することができる。	特別ゼミナール/ソフトウェア情報学特別研究		
DP 7 現代社会における情報技術分野の課題や目指すべき目標を正しく理解するとともに、人と情報技術が調和した社会の実現に貢献できる。	特別ゼミナール/ソフトウェア情報学特別研究		
	ソフトウェア 実践特別演習/ プロジェクト 実践特別演習		

Ⅲ 教育研究領域

1 授業科目一覧表

授業科目の名称		開講時期	クォーター				単位数			GPA 対象	修了要件
			1	2	3	4	必修	選択	自由		
ソフトウェア情報学研究科 ソフトウェア情報学専攻 博士前期課程											修了要件: 30 単位以上
基盤科目	リサーチリテラシ A	1前(集中)		●					2		○
	リサーチリテラシ B	1前	●	●					2		○
	サイエンスコミュニケーション	1後			●	●			2		○
専 門 科 目	数論アルゴリズム特論	1前	●						1		○
	統計解析特論	1前	●						1		○
	プログラム言語特論	1前		●					1		○
	経営数学特論	1前		●					1		○
	現代数学基礎特論	1後			●				1		○
	分散データ処理特論	1後			●				1		○
	数値最適化特論	1後			●				1		○
	計算力学特論	1後			●				1		○
	生体情報学特論	1後			●				1		○
	高次元データ解析特論	1後				●			1		○
	数理論論学特論	1後				●			1		○
	金融数理特論	1後				●			1		○
	ネットワークシステム特論	1前	●						1		○
	高速並列処理特論	1前	●						1		○
	情報ネットワーク特論	1前		●					1		○
	サイバーセキュリティ特論	1前		●					1		○
	計測システム特論	1前		●					1		○
	センサネットワーク特論	1後			●				1		○
	センシング特論	1後			●				1		○
	知的設計特論	1後			●				1		○
	自律分散システム特論	1後			●				1		○
	並行論理プログラミング特論	1後				●			1		○
	モバイル通信ネットワーク特論	1後				●			1		○
	ドローン特論	1後				●			1		○
	暗号・情報保全史特論	1後				●			1		○
	機械知能学特論	1前	●						1		○
	脳情報処理特論	1前	●						1		○
	ソフトコンピューティング特論	1前		●					1		○
	知識工学特論	1前		●					1		○
	画像情報処理特論	1後			●				1		○
	自然言語処理特論	1後			●				1		○
	知能システム開発特論	1後			●				1		○
	コンピュータグラフィックス特論	1後			●				1		○
HCI・センシング特論	1後				●			1		○	
感性情報特論	1後				●			1		○	
ロボティクス特論	1後				●			1		○	
音声知能システム特論	1後				●			1		○	
情報システム特論	1前	●			●			1		○	
システムデザイン特論	1前	●						1		○	
情報システム企画特論	1前		●					1		○	
イノベーション特論	1前		●					1		○	
デザイン特論	1前		●					1		○	
マルチユーザインタラクション特論	1前		●					1		○	
社会システム分析特論	1後			●				1		○	
情報環境デザイン特論	1後			●				1		○	
情報システム評価特論	1後			●				1		○	
コンピュータグラフィックス応用特論	1後			●				1		○	
学習環境デザイン特論	1後			●				1		○	
企業情報システム特論	1後				●			1		○	
情報心理特論	1後				●			1		○	
認知物語特論	1後				●			1		○	

授業科目の名称		開講時期	クォーター				単位数			GPA 対象	修了要件
			1	2	3	4	必修	選択	自由		
専門科目 (集中)	ラーニング・アナリティクス特論	1前(集中)						1			○
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)						1			○
	機械学習とその応用特論	1前(集中)						1			○
	時系列モデリングと予測特論	1前(集中)						1			○
実践 科目	ソフトウェア実践演習	1前・後						1			
	プロジェクト実践演習	1後						1			
研究 指導 科目	公開ゼミナール	2前・後					1				
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅠ	1前・後					2				
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅡ	1前・後					2				
	ソフトウェア情報学ゼミナールⅢ	2前・後					2				
	ソフトウェア情報学研究	2					8				
ソフトウェア情報学研究科 ソフトウェア情報学専攻 博士後期課程											
実践 科目	ソフトウェア実践特別演習	1前・後						2			実践科目から2単 位と、研究指導科 目12単位を修得 すると共に、博士 論文の審査及び 修了試験に合格 すること。
	プロジェクト実践特別演習	1後						2			
研究 指導 科目	特別公開ゼミナールⅠ	2前・後					1				
	特別公開ゼミナールⅡ	3前・後					1				
	特別ゼミナール	1～3					2				
	ソフトウェア情報学特別研究	1～3					8				

2 研究室及び教育研究領域

(備考: 人事異動などに伴い変更となる場合があります)

	教 員	教 育 研 究 の キ ー ワ ー ド
デ ー タ ・ 数 理 科 学 コ ー ス	教 授 猪股 俊光	数理情報、ソフトウェア科学、ソフトウェア工学、組込みシステム
	教 授 王 家宏	情報検索、並列・分散処理、センサーネットワーク、モバイルネットワーク
	准教授 大堀 勝正	数理統計、リスク分析、社会資本リスクマネジメント
	准教授 岡本 東	最適化、オペレーションズリサーチ、経営工学、情報システム
	助 教 片町健太郎	数理情報、ソフトウェア科学、オペレーティングシステム、情報理論
	准教授 児玉英一郎	数理情報、ウェブ情報学・サービス情報学部、センサーネットワーク、並列・分散処理
	准教授 鈴木 郁美	機械学習、自然言語処理、情報検索、数理統計
	教 授 高田 豊雄	情報セキュリティ、情報理論、数理情報
	教 授 竹野 健夫	経営工学、オペレーションズリサーチ、経営情報、情報システム、数理統計
	准教授 田村 篤史	教育工学、教授学習支援システム、数理情報、数理統計
	講 師 Stephanie Nix	シミュレーション工学、機械学習、並列・分散処理
	講 師 山田 敬三	最適化、数理情報、情報システム、ソフトウェア科学、ソフトウェア工学
准教授 山邊 茂之	人間情報工学、数理統計、シミュレーション工学	
コ ン ピ ユ ー タ 工 学 コ ー ス	准教授 新井 義和	組込みシステム、知能ロボティクス
	講 師 伊藤 久祥	ヒューマンコンピュータインタラクション、教育工学、教授学習支援システム、コンピュータビジョン、視覚メディア処理
	准教授 今井信太郎	センサーネットワーク、組込みシステム、コンピュータネットワーク、ネットワークプロトコル
	教 授 蔡 大 維	組込みシステム、ウェアラブル機器、ネットワークプロトコル
	准教授 齊藤 義仰	インターネット放送、コンピュータネットワーク、ヒューマンコンピュータインタラクション、モバイルネットワーク
	講 師 佐藤 永欣	情報検索、センサーネットワーク、ウェブ情報学・サービス情報学、オーバーレイネットワーク、コンピュータネットワーク、地理情報システム、ネットワークプロトコル
	教 授 佐藤 裕幸	並列・分散処理、オペレーティングシステム、画像情報処理、組込みシステム、コンピュータグラフィックス、知能ロボティクス
	講 師 杉野 栄二	オペレーティングシステム、組込みシステム、ソフトウェア科学、並列・分散処理
	准教授 鈴木 彰真	音声情報、画像情報処理、観光情報、感性データベース、組込みシステム、行動環境認識、センサーネットワーク、知覚情報処理、知能ロボティクス
	准教授 成田 匡輝	情報セキュリティ、オーバーレイネットワーク、情報システム、センサーネットワーク
	教 授 橋本 浩二	コンピュータネットワーク、オーバーレイネットワーク、ネットワークプロトコル、並列・分散処理
	教 授 Bhed Bahadur Bista	情報セキュリティ、ネットワークプロトコル、モバイルネットワーク
教 授 馬淵 浩司	自然言語処理、知識ベースシステム、画像情報処理	

(備考:人事異動などに伴い変更となる場合があります)

人工 知能 コース	教授 伊藤 慶明	音声情報、最適化、自然言語処理、パターン認識
	教授 亀田 昌志	画像情報処理、医療福祉情報、コンピュータビジョン、視覚メディア処理、知覚情報処理
	教授 樽松 理樹	自然言語処理、音声情報、機械学習、知識ベースシステム、パターン認識
	准教授 小嶋 和徳	画像情報処理、機械学習、コンピュータグラフィックス、最適化、パターン認識
	准教授 眞田 尚久	認知脳科学、脳型情報処理、画像情報処理、知覚情報処理
	准教授 戴 瑩	感性データベース、コンピュータビジョン、パターン認識、機械学習、行動環境認識、最適化、視覚メディア処理
	准教授 David Ramamirjos	ウェブ情報学・サービス情報学、画像情報処理、自然言語処理、パターン認識
	准教授 羽倉 淳	知能ロボティクス、知覚情報処理、ヒューマンコンピュータインタラクション
	教授 Prima Oky Dicky A.	画像情報処理、視覚メディア処理、コンピュータビジョン、知覚情報処理、地理情報システム、ヒューマンコンピュータインタラクション
	准教授 松原 雅文	自然言語処理、機械学習、情報検索
	教授 間所 洋和	機械学習、行動環境認識、コンピュータビジョン、知覚情報処理、パターン認識
社会 システム デザイン コース	教授 阿部 昭博	情報システム、地域情報化、観光情報、地理情報システム
	准教授 市川 尚	教育工学、e-ラーニング、教授学習支援システム、情報システム
	准教授 植竹 俊文	経営工学、情報システム、地域情報化、経営情報
	講師 小倉加奈代	ヒューマンコンピュータインタラクション、情報セキュリティ、情報デザイン、スキルサイエンス
	講師 佐藤 究	ヒューマンコンピュータインタラクション、教育工学、教授学習支援システム
	講師 富澤 浩樹	情報システム、観光情報、地域情報化
	准教授 西崎 実穂	情報デザイン、ヒューマンコンピュータインタラクション
	講師 西岡 大	情報セキュリティ、ヒューマンコンピュータインタラクション
	准教授 福井 昌則	教育工学、学習工学、学習支援システム、教育心理学、ゲーミフィケーション、創造性教育
	教授 堀川 三好	機械学習、センサーネットワーク、ウェアラブル機器、ウェブ情報学・サービス情報学、経営工学、経営情報、社会システム、地域情報化
	准教授 松田 浩一	スキルサイエンス、ヒューマンコンピュータインタラクション、医療福祉情報、教育工学、コンピュータグラフィックス
講師 南野 謙一	情報システム、機械学習、教育工学、地理情報システム、リスク分析	

3 履修モデル

(データ・数理科学コース・モデル共通)

履修モデル	授業科目の名称	標準履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
共通	リサーチリテラシ A	1前	1		
	リサーチリテラシ B	1前	1		
	サイエンスコミュニケーション	1後	2		
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナール I	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナール II	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナール III	2前・後	2		
	ソフトウェア情報学研究	2	8		

(データ・数理科学コース・専門科目)

履修モデル	授業科目の名称	標準履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
情報数理科学	数論アルゴリズム特論	1前		1※	※コース指定科目(2単位)
	統計解析特論	1前		1※	
	プログラム言語特論	1前		1	
	経営数学特論	1前		1	
	[ソフトコンピューティング特論]	1前		1	
	[マルチユーザインタラクション特論]	1前		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	現代数学基礎特論	1後		1	
	分散データ処理特論	1後		1	
	数理最適化特論	1後		1	
	計算力学特論	1後		1	
	[社会システム分析特論]	1後		1	
	数理論理特論	1後		1	
	金融数理特論	1後		1	
	高次元データ解析特論	1後		1	
データサイエンス	数論アルゴリズム特論	1前		1※	※コース指定科目(2単位)
	統計解析特論	1前		1※	
	プログラム言語特論	1前		1	
	経営数学特論	1前		1	
	[知識工学特論]	1前		1	
	[ソフトコンピューティング特論]	1前		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	現代数学基礎特論	1後		1	
	分散データ処理特論	1後		1	
	数理最適化特論	1後		1	
	生体情報学特論	1後		1	
	数理論理特論	1後		1	
	金融数理特論	1後		1	
	高次元データ解析特論	1後		1	

注:[]は他コースの専門科目です。履修にあたっては主指導教員に相談のこと。

(コンピュータ工学コース・モデル共通)

履修モデル	授業科目の名称	標準履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
共通	リサーチリテラシ A	1前	1		
	リサーチリテラシ B	1前	1		
	サイエンスコミュニケーション	1後	2		
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナール I	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナール II	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナール III	2前・後	2		
	ソフトウェア情報学研究	2	8		

(コンピュータ工学コース・専門科目)

履修モデル	授業科目の名称	標準履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
ネットワークシステム	ネットワークシステム特論	1前		1※	※コース指定科目 (2単位)
	高速並列処理特論	1前		1※	
	情報ネットワーク特論	1前		1	
	サイバーセキュリティ特論	1前		1	
	計測システム特論	1前		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	センサネットワーク特論	1後		1	
	[分散データ処理特論]	1後		1	
	モバイル通信ネットワーク特論	1後		1	
	並行論理プログラミング特論	1後		1	
	[統計解析特論]	2前		1	
[機械知能学特論]	2前		1		
組込みシステム	ネットワークシステム特論	1前		1※	
	高速並列処理特論	1前		1※	
	計測システム特論	1前		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	センシング特論	1後		1	
	知的設計特論	1後		1	
	自律分散システム特論	1後		1	
	センサネットワーク特論	1後		1	
	[画像情報処理特論]	1後		1	
	ドローン特論	1後		1	
	並行論理プログラミング特論	1後		1	
[ロボティクス特論]	1後		1		
[コンピュータグラフィックス特論]	1後		1		
セキュリティシステム	ネットワークシステム特論	1前		1※	
	高速並列処理特論	1前		1※	
	サイバーセキュリティ特論	1前		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	センサネットワーク特論	1後		1	
	[分散データ処理特論]	1後		1	
	モバイル通信ネットワーク特論	1後		1	
	暗号・情報保全史特論	1後		1	
	[金融数理特論]	1後		1	
	[数論アルゴリズム特論]	2前		1	
	[統計解析特論]	2前		1	
[機械知能学特論]	2前		1		

注:[]は他コースの専門科目です。履修にあたっては主指導教員に相談のこと。

(人工知能コース・モデル共通)

履修モデル	授業科目の名称	標準履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
共通	リサーチリテラシ A	1前	1		
	リサーチリテラシ B	1前	1		
	サイエンスコミュニケーション	1後	2		
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナール I	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナール II	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナール III	2前・後	2		
	ソフトウェア情報学研究	2	8		

(人工知能コース・専門科目)

履修モデル	授業科目の名称	標準履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
メディアシステム	機械知能学特論	1前		1※	※コース指定科目(2単位)
	脳情報処理特論	1前		1※	
	ソフトコンピューティング特論	1前		1	
	[計測システム特論]	1前		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	画像情報処理特論	1後		1	
	[センサネットワーク特論]	1後		1	
	[センシング特論]	1後		1	
	[コンピュータグラフィックス応用特論]	1後		1	
	HCI・センシング特論	1後		1	
	音声知能システム特論	1後		1	
	コンピュータグラフィックス特論	1後		1	
	[ドローン特論]	1後		1	
[統計解析特論]	2前		1		
知識情報処理	機械知能学特論	1前		1※	※コース指定科目(2単位)
	脳情報処理特論	1前		1※	
	知識工学特論	1前		1	
	[デザイン特論]	1前		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	知能システム開発特論	1後		1	
	自然言語処理特論	1後		1	
	[分散データ処理特論]	1後		1	
	[情報環境デザイン特論]	1後		1	
	感性情報特論	1後		1	
	ロボティクス特論	1後		1	
	[数理論理学特論]	1後		1	
	[並行論理プログラミング特論]	1後		1	
	[統計解析特論]	2前		1	
[情報システム特論]	2前		1		

注:[]は他コースの専門科目です。履修にあたっては主指導教員に相談のこと。

(社会システムデザインコース・モデル共通)

履修モデル	授業科目の名称	標準履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
共通	リサーチリテラシ A	1前	1		
	リサーチリテラシ B	1前	1		
	サイエンスコミュニケーション	1後	2		
	ソフトウェア実践演習	1前・後		1	
	プロジェクト実践演習	1前・後		1	
	公開ゼミナール	2前・後	1		
	ソフトウェア情報学ゼミナール I	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナール II	1前・後	2		
	ソフトウェア情報学ゼミナール III	2前・後	2		
	ソフトウェア情報学研究	2	8		

(社会システムデザインコース・専門科目)

履修モデル	授業科目の名称	標準履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
情報システム	情報システム特論	1前		1※	※コース指定科目 (2単位)
	システムデザイン特論	1前		1※	
	情報システム企画特論	1前		1	
	イノベーション特論	1前		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	社会システム分析特論	1後		1	
	情報環境デザイン特論	1後		1	
	コンピュータグラフィックス応用特論	1後		1	
	[センサネットワーク特論]	1後		1	
	企業情報システム特論	1後		1	
	情報心理特論	1後		1	
	[金融数理特論]	1後		1	
	[ドローン特論]	1後		1	
	[ネットワークシステム特論]	2前		1	
[機械知能学特論]	2前		1		
システムデザイン	情報システム特論	1前		1※	
	システムデザイン特論	1前		1※	
	デザイン特論	1前		1	
	マルチユーザインタラクション特論	1前		1	
	ラーニング・アナリティクス特論	1前(集中)		1	
	離散システムシミュレーション特論	1前(集中)		1	
	コンピュータグラフィックス応用特論	1後		1	
	学習環境デザイン特論	1後		1	
	情報環境デザイン特論	1後		1	
	[センシング特論]	1後		1	
	認知物語特論	1後		1	
	[感性情報特論]	1後		1	
	[HCI・センシング特論]	1後		1	
	[統計解析特論]	2前		1	
	[脳内情報処理特論]	2前		1	

注:[]は他コースの専門科目です。履修にあたっては主指導教員に相談のこと。

IV 高等学校教諭専修免許状（情報）取得課程

高等学校教諭専修免許状(情報)取得課程

1. 専修免許状取得要件

高等学校教諭一種免許状(情報)を取得していることが要件となります。「修士の学位を有すること」が専修免許状取得の基礎資格とされています。

2. 教職課程科目一覧

指定された次の授業科目のうちから、必修科目 2 単位、選択科目 22 単位以上を修得してください。

教育職員免許法施行規則 に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	数論アルゴリズム特論		1	22単位以上選択 必修
	統計解析特論		1	
	プログラム言語特論		1	
	経営数学特論		1	
	分散データ処理特論		1	
	ネットワークシステム特論		1	
	高速並列処理特論		1	
	情報ネットワーク特論		1	
	サイバーセキュリティ特論		1	
	計測システム特論		1	
	センサネットワーク特論		1	
	自律分散システム特論		1	
	並行論理プログラミング特論		1	
	モバイル通信ネットワーク特論		1	
	機械知能学特論		1	
	脳情報処理特論		1	
	コンピュータグラフィックス特論		1	
	HCI・センシング特論		1	
	音声知能システム特論		1	
	情報システム特論		1	
	システムデザイン特論		1	
	情報システム企画特論		1	
	イノベーション特論		1	
	デザイン特論		1	
	マルチユーザインタラクション特論		1	
	社会システム分析特論		1	
	コンピュータグラフィックス応用特論		1	
	学習環境デザイン特論		1	
	企業情報システム特論		1	
	ソフトウェア実践演習	1		1単位選択必修
	プロジェクト実践演習	1		
	公開ゼミナール	1		

V 学 位 论 文

1 修士論文

修士論文の審査は、予備審査と学位審査に分けられます。いずれも、研究科委員会において選出された委員で組織された論文審査委員会において審査が行われます。

1. 予備審査

博士前期課程の修了に必要な単位を修得した者、または修得見込の者で、十分な研究成果が得られ、修士論文の完成が見込まれた場合、指導教員の承認を得て、予備審査を申し出ることができます。

2. 学位審査

予備審査の結果、修士論文として提出可能と認められ、指導教員による必要な研究指導が修了した学生は、一定の期日までに修士論文を提出し、論文審査委員会の審査を受けなければなりません。

また、指導教員の判断により在学中に発表したソフトウェア情報に関連した製作物、特許出願などが修士論文と同等とみなされる場合は、修士論文の代わりにそれを提出することができます。

3. 審査基準

[学位論文が満たすべき水準]

修士論文は次に定める「学位論文の評価基準」に基づき評価されると共に、当該専門分野の発表会・審査委員会で学術研究に相応しい研究発表を行い、質疑に対し論理的かつ明快に応答すること。

[審査委員の体制]

修士論文の審査は、主査1名、副査2名以上の修士論文審査委員会を設置し、審査委員会の合議で行う。なお、審査委員会の構成員は本研究科委員会の教員とする。

[審査の方法]

修士論文の審査は、予備審査および学位審査の2度の審査会における研究発表および質疑により行われ、2度の審査の双方に合格した者を合格とする。

[学位論文の評価基準]

次に定める「学位論文の評価項目」すべてが満たされていると認められるものを合格とする。

[学位論文の評価項目]

1. テーマの妥当性・有用性(研究領域に関する問題にとりくんでいるか、実学実践の観点から問題をとらえているか)
2. テーマの新規性(問題解決方法の提案を行っているか、新たな知見を含んでいるか)
3. 手法の信頼性(問題に対し適切な手法を用いているか)
4. 内容の信頼性(システムの実現可能性に対する検証を行っているか、評価は適切か)
5. 論理の構成(結論まで首尾一貫した論旨になっているか)
6. 論文の形式・体裁(語句・文章表現は論文として適切か、論文の体裁は整っているか)
7. 研究倫理面の配慮(研究倫理面の配慮が適切かつ十分になされているか)

2 博士論文

博士論文の審査は、予備審査と学位審査に分けられます。いずれも、研究科委員会において選出された委員で組織された論文審査委員会において審査が行われます。

1. 予備審査

博士後期課程の修了に必要な単位を修得した者、または修得見込の者で、十分な研究成果が得られ、博士論文の完成が見込まれた場合、指導教員の承認を得て、予備審査を申し出ることができます。

2. 学位審査

予備審査の結果、博士論文として提出可能と認められた場合は、指導教員の指導の下に博士論文を完成させ、一定の期日までに学位審査を申し出ることになります。論文審査と公開の審査会の結果、博士論文にふさわしいと判定された場合、学位が授与されることになります。なお、公開の審査会では、企業の研究に関する責任者など他の研究施設等の責任ある立場にある者から参考意見を聴取することがあります。

3. 審査基準

[学位論文が満たすべき水準]

博士論文は次に定める「学位論文の評価基準」に基づき評価されると共に、当該専門分野の発表会・審査委員会で学術研究に相応しい研究発表を行い、質疑に対し論理的かつ明快に応答すること。

[審査委員の体制]

博士論文の審査は、主査1名、副査2名以上の博士論文審査委員会を設置し、審査委員会の合議で行う。なお、審査委員会の構成員は本研究科委員会の教員とする。

[審査の方法]

博士論文の審査は、予備審査および学位審査の2度の審査会における研究発表および質疑により行われ、2度の審査の双方に合格した者を合格とする。

[学位論文の評価基準]

次に定める「学位論文の評価項目」すべてが満たされていると認められるものを合格とする。

[学位論文の評価項目]

1. 基礎となる学術論文(学位論文の基礎となる学術論文(学位申請者が筆頭著者)の内容が適切に含まれているか)
2. テーマの妥当性・有用性(研究領域に関する問題にとりくんでいるか、実学実践の観点から問題をとらえているか)
3. テーマの新規性(問題解決方法の提案を行っているか、新たな知見を含んでいるか)
4. 手法の信頼性(問題に対し適切な手法を用いているか)
5. 内容の信頼性(システムの実現可能性に対する検証を行っているか、評価は適切か)
6. 論理の構成(結論まで首尾一貫した論旨になっているか)
7. 論文の形式・体裁(語句・文章表現は論文として適切か、論文の体裁は整っているか)
8. 研究倫理面の配慮(研究倫理面の配慮が適切かつ十分になされているか)

3 審査日程及び提出書類等

審査日程及び提出書類等は、次のとおりです。各提出書類は、研究科電子化システムを利用して作成し、提出してください。発表会、審査会の形式については、指導教員の指示に従ってください。なお、審査日程の詳細は、別途お知らせいたします。

【博士前期課程】

博士前期課程

区 分	留 意 事 項	時 期	
		春季修了	秋季修了
論文題目	論文題目届	10月上旬	4月中旬
予備審査申請	論文予備審査申請書		
	学位論文要旨	11月上旬	5月上旬
	業績一覧及び別刷り資料		
	論文予備審査会	11月下旬	5月下旬
学位申請	学位申請書		
	修士論文(1次)		
	学位論文要旨	1月上旬	7月上旬
	業績一覧及び別刷り資料		
	承諾書		
	本審査会	2月中旬	8月上旬
	修士論文(最終版)	3月中旬	9月中旬
学位授与		3月中旬	9月末日
提出先等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究科電子化システムを利用すること。研究科電子システムで「紙による提出」を選択した場合は、論文審査員の人数分作成し、学生センター(本部棟1階)とする。 ■ 研究科電子化システムを利用できない場合は、以下とする。 ・各種提出物の提出方法は、学生センターへの持参又は郵送によること。 ・学生センターの受付時間内の提出とする。この時間以外の受付は原則として行わない。 ・郵送により提出する場合は、提出期限日必着とすること。 ・提出期限内の提出であっても提出物に明らかな不備がある場合は、受け付けない場合がある。 ・特別の理由があつて提出物の提出が遅れた場合には、必ず事由書を添付すること。 ・各種様式は、【大学院】教務委員会の学位申請のホームページより取得すること。 (https://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~gr-kyomu/home/degree/degree2020/) 		

【博士後期課程】

博士後期課程

区分	提出方法等	留 意 事 項	時 期	
			春季修了	秋季修了
論文題目	論文題目届	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認が必要。 ・日本語及び英語により記載すること。 ・届出後に論文題目の変更を行う場合は、「論文題目変更届」を提出すること。 	10月上旬	4月中旬
予備審査申請	論文予備審査申請書	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認が必要。 	11月上旬	5月上旬
	博士論文(1次)	<ul style="list-style-type: none"> ・仮綴じでの提出も可とする。 ・日本語又は英語により記載すること。 ・構成、形式等の詳細については、別紙記載方法によること。 		
	学位論文要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語及び英語により記載すること。 ・字数及び頁数の指定無し。 		
	業績一覧及び別刷り資料	<ul style="list-style-type: none"> ・業績一覧には、業績、論文発表状況、その他参考となる事項を記載するとともに、主たる論文等の別刷り資料を添付すること。 ・学術論文等は筆頭著者となっているものについて記載すること。 ・論文掲載が決定しているものの印刷公表されていない場合は、掲載決定を証明する書類(採録通知等)の写しを添付すること。 		
	論文予備審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・各論文予備審査委員会から提出を求められた資料等があれば添付すること。 ・資料等を添付する際は、論文予備審査申請書の提出書類記載欄に追加して記載すること。 	11月下旬	5月下旬
学位申請	学位申請書	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員の承認が必要 	1月中旬	7月上旬
	博士論文(2次)	<ul style="list-style-type: none"> ・仮綴じでの提出も可とする。 ・日本語又は英語により記載すること。 ・構成、形式等の詳細については、別紙記載方法によること。 		
	学位論文要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語及び英語により記載すること。 ・字数及び頁数の指定無し。 		
	業績一覧及び別刷り資料	<ul style="list-style-type: none"> ・業績一覧には、業績、論文発表状況、その他参考となる事項を記載するとともに、主たる論文等の別刷り資料を添付すること。 ・学術論文等は筆頭著者となっているものについて記載すること。 ・論文掲載が決定しているものの印刷公表されていない場合は、掲載決定を証明する書類(採録通知等)の写しを添付すること。 		
	承諾書	<ul style="list-style-type: none"> ・査読付き論文、国際ジャーナルへの発表論文について、共著者がいる場合に添付すること。 ・承諾書を添付する際は、学位申請書の提出書類記載欄に追加して記載すること。 		
	その他提出書類	<ul style="list-style-type: none"> ・各論文審査委員会から提出を求められた資料等があれば添付すること。 ・資料等を添付する際は、学位申請書の提出書類記載欄に追加して記載すること。 		
	本審査会(公開)	原則として研究科内合同で行う。日時・会場及び審査方法等については、別途指示する。		
	博士論文(最終版)	<ul style="list-style-type: none"> ・電子媒体(CD/DVD)で提出 ・岩手県立大学博士論文等のインターネットの利用による公表要領に基づいて提出のこと。 ・提出された学位論文等は返還しない。 	3月中旬	9月中旬
	学位授与		3月中旬	9月末日
	提出方法	<ul style="list-style-type: none"> ■研究科電子化システムを利用すること。研究科電子システムで「紙による提出」を選択した場合は、論文審査員の人数分作成し、学生センター(本部棟1階)とする。 ■研究科電子化システムを利用できない場合は、以下とする。 ・各種提出物の提出方法は、学生センターへの持参又は郵送によること。 ・学生センターの受付時間内の提出とする。この時間以外の受付は原則として行わない。 ・郵送により提出する場合は、提出期限日必着とすること。 ・提出期限内の提出であっても提出物に明らかな不備がある場合は、受け付けない場合がある。 ・特別の理由があつて提出物の提出が遅れた場合には、必ず事由書を添付すること。 ・各種様式は、【大学院】教務委員会の学位申請のホームページより取得すること。 <p>(https://www.soft.iwate-pu.ac.jp/~gr-kyomu/home/degree/degree2020/)</p>		

4 学位論文の基本構成

提出する学位論文の構成は、修士論文及び博士論文ともに以下のガイドラインに準拠し、記載してください。形式の詳細については、各指導教員の指示に従い、読みやすさに十分配慮してください。

- A4 シングルコラム、ワープロ使用のこと。
- タイトル等を除き、字の大きさは 10.5Pt 程度、1 行あたり 40 文字程度、1 頁あたり 30 行程度を基本とすること。
- 余白は、上:30mm、下:20mm、左:30mm、右に 20mm程度とすること。
- 要旨は和文、英文ともそれぞれ 1 頁とすること。
- 本文のページ数の制限はなし。
- 図表、プログラムは本文に埋め込んでも、別紙としてもよい。図表にはそれぞれ一連番号を付し、また、それらの内容を示す標題(図の場合は下、表の場合は上)をつけること。文献から引用した図表は、必ず出典を明記すること。
- 文献は、関連(発表)論文、引用文献、参考文献の区別ができるようにして、本文の末尾に掲載し、学会論文誌等の記載方法に従うこと。

▶ 背表紙・外表紙

論文 題目 (和) 氏 名 西 暦 年 度	(西暦)年度博士 課程(ソフトウェア情報学)論文
	論文題目(和) 論文題目(英)
	岩手県立大学大学院 ソフトウェア情報学研究科
	提出年月 学籍番号 氏名

外表紙

背表紙

▶ 論文本文

1枚目	2枚目	3枚目
(西暦)年度 博士前期課程(ソフトウェア情報学)論文 論文題目(和) 論文題目(英) 岩手県立大学大学院 ソフトウェア情報学研究科 学籍番号 氏名 研究指導教員 ○○○○ ○○○○ ○○○○	要旨(和)	要旨(英)
研究指導教員の記載順は、上から主査、副査とする	4枚目	5枚目以降
	目次	本文



岩手県立大学

〒020-0693 岩手県滝沢市栄子152-52

TEL 019-694-2000(代) FAX 019-694-2001(代)

ホームページアドレス <https://www.iwate-pu.ac.jp>